Japan Overseas Cooperation Volunteers

養 殖

〈養殖〉年度別・国別派遣実績

国　名	88年度まで	89年度	90年度	91年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度	98年度	総　計
バングラデシュ	11	1	2	3	2	1	0	1	1	1	0	23
中国	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4
インド	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
インドネシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
ラオス	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
マレイシア	6	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	12
ネパール	20	0	1	3	1	0	0	0	1	0	1	27
フィリピン	26	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	31
スリ・ランカ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
タイ	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
〈アジア地域〉	70	2	6	8	7	1	2	3	4	2	3	108
モロッコ	1	1	0	0	1	0	2	1	0	0	0	6
シリア	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
〈中近東地域〉	14	2	0	0	1	0	2	1	0	0	0	20
エティオピア	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ガーナ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ケニア	9	0	0	1	1	2	0	0	2	0	0	15
マラウイ	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	5
セネガル	4	0	1	0	0	1	1	0	0	1	0	8
タンザニア	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
ザンビア	8	1	0	1	0	0	0	2	0	1	0	13
〈アフリカ地域〉	28	1	1	2	2	3	2	2	3	3	0	47
ボリヴィア	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7
チリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
コロンビア	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
コスタ・リカ	5	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	10
ドミニカ共和国	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
エル・サルヴァドル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
グァテマラ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ホンデュラス	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
ジャマイカ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
メキシコ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
パナマ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
パラグァイ	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	4
〈中南米地域〉	13	2	1	3	3	2	2	2	3	2	3	36
パプア・ニューギニア	2	0	0	0	1	0	0	1	1	1	2	8
トンガ	5	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	8
サモア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ミクロネシア	0	0	1	1	0	2	0	0	2	1	1	8
〈オセアニア地域〉	8	0	2	1	1	2	0	2	3	2	4	25
合　計	133	7	10	14	14	8	8	10	13	9	10	236

飯沼光生 Mitsuo Inuma

派遣国：マレイシア
職　種：養殖
隊　次：平成2年度3次隊（活動期間1991年4月～1993年10月）
出身地：千葉県

初　出：「養殖」1993 12.1（（株）緑書房）

私は、東南アジア最大の島、ボルネオの北東部にあたるマレーシア・サバ州において、ここの水産局の最新プロジェクトである海産魚ハッチェリーの技術指導、研究協力に1991年の5月より2年半、青年海外協力隊員として携わりました。今回はこの欄をお借りして、サバ州水産局が行っている海産魚種苗生産プロジェクトについて記したいと思います。

サバはハタの宝庫であり、ここからかなりの量のハタが香港、台湾、シンガポールに向けて活魚として出荷されています。しかし、最近は乱獲気味であり、まだダイナマイト漁による珊瑚礁の破壊が進行し、高級魚であるハタ資源が減る傾向にあります。また海面の養殖産業も定着しておらず、生簀は見られるものの、殆どは輸出向け高級魚の蓄養に使用されています。

海産魚ハッチェリーは、ハタ類などの高級魚の資源回復とそれに基づく養殖事業の定着を目的に2年前、州都コタキナバルから北に約50km離れた所に開設されました。このハッチェリーの開設には山田収JICA専門家が1987年より4年の間尽力され、私が赴任した当初、ようやく完成にこぎ着けたところでした。

それから4カ月間、山田さんと共に操業開始の準備を行い、その後は、ウシエビ、ゴマフエダイ、チャイロマルハタ、アカメの種苗生産試験に、台湾の養殖技術者やイギリス人ボランティアを交え、現地スタッフと一緒に取り組みました。そしてアカメの種苗生産に目度がついて来たので、現在はアカメの種苗生産事業を本格的に行っています。

アカメはスズキ科の1m以上に成長する大型魚で、タイを中心に東南アジア各地で養殖されています。水の汚れや病気にも強く、養殖するにはもってこいの魚です。白身で蒸して食べると非常に美味しく、こちらでは高級魚の一つです。92年に試験的にアカメの種苗生産を職員と共に試み、約1万尾の稚魚を生産し、サバ州各地の養殖サイトに配布または販売し、好評を得ました。

しかし未だに難しい問題が残っており、一番の問題は卵質です。親魚にはサバ州各地やタイから小型魚を集め、5～8年かけて生簀内で養成したものを使用していますが、養成法が悪かったのか、病気にかかっていたのか、とにかく受精卵は毎月採集出来るものの、卵が浮上せずに卵内発生が止まったり、孵化してもかなりの数の奇形仔魚が出現したりで、職員と共に頭を悩ませています。現在、親魚の餌の栄養改善のために総合ビタミン剤とタラ肝油を魚の生餌に混ぜて与えていますが、今のところ大きな効果はなく、頭の痛いところです。

やはり水産局としては、ハタとフエダイの稚魚生産を事業化したいと考えているようですが、他の東南アジアの研究機関と同様に、なかなかうまくいきません。

チャイロマルハタの場合には親魚から質の高い受精卵を採るのが難しく、91年と92年に台湾の養殖技術者、王氏と共に底が砂地のコンクリート池を用いてホルモン刺激と自然産卵による採卵を試みましたが、実験中ほぼ毎日卵が採れたものの、受精率が1%台の日が殆どで、その卵は全く種苗生産に利用する事は出来ませんでした。たまたま受精率が10%台に乗った卵を用いて種苗生産を行いましたが、1カ月経って残った仔魚が100尾もなく、稚魚まで生き残ったのはたったの3尾でした。

他方、ゴマフエダイは自然産卵によって高い受精率を得る事は出来ましたが、仔魚の初期減耗が激しく、91年にイギリス人ボランティアと一緒に行って、約50尾の稚魚を作ったのが精一杯でした。

仔魚飼育で一番難しい点は、仔魚の開口直後の口径がかなり小さいので、その時点でワムシを十分に捕食出来ないことにあります。アカメは摂餌速度が比較的早く、また開口時にまだ卵黄が残っている事もあって比較的成長は安定しているのですが、ハタ、フエダイはワムシを十分に捕食出来ない仔魚が多いため初期減耗がかなり大きく、開口直後に密度が半分以下まで落ちます。

マイクロカプセル餌料などを開口時に合わせてこまめに与えたり、ワムシを80μgのネットで濾して小さいものだけを与えたりしているのですが、効果は上々とは言えません。この初期減耗は卵質も関係していると思われ、親魚養成から根本的に考え直す必要があり、今度の課題となっています。

ここでは、仕事をしている最中に日本では考えられない事態がよく発生します。

まず、1つは停電の多い事に閉口しました。週に1度や2度は当たり前、時には日に2、3回も電気が切れる

事があるのです。もちろん大型の発電機を一機備えており、それを回して補うわけですが、頻繁に切れるために発電機もオーバーロード気味で、時々壊れます。

もう1つは水道の出が悪く、今でも水道の圧が上がらずに全く水の出ない日々が続いています。機材や手足を洗ったり、またトイレを流したりと淡水は色々と必要で、出ないと非常に不便です。協力隊事務所の倉庫の中にたまたま灌漑用ポンプを見つけ、今はそれを使って地下水を汲み上げていますが、ハッチェリーは海の側にあるので、地下水と言っても海水が混っており、少ししょっぱいです。

私が赴任した当初はまだ施設が完成しておらず、職員と一緒に配管工事などを行っていましたが、今は設備も充実し、また職員も成長して、昔のようなトラブルも少なくなり、2年半の間にかなり進歩したと感じます。アカメの種苗生産に関しては、もう私が生産ラインに加わる必要がなく、今は職員だけで取り組んでいます。今迄は準備期間であり、これから本格的にハッチェリーとしての役割を果たしていくでしょう。

そして現在、私の後任を協力隊で募集しており、東南アジアにおいてハタやフエダイの種苗生産をチャレンジしたい方は是非応募して下さい。あなたの経験と実力をサバ州水産局は求めています。

（了）

川田晃弘 Akihiro Kawada

派遣国：ネパール
職　種：養殖
隊　次：昭和62年度3次隊（活動期間1988年3月～1991年3月）
出身地：神奈川県
初　出：「水産世界」1990.2.25（(有)農林水産研究所）

漁獲量80%のタライ

ネパールというと、ヒマラヤの国ということで「山だけの寒い国」というイメージを持ちがちだが（実は私がそうであった）、実際はそれとはまったく異なり、気候的には亜熱帯モンスーンに含まれ、とても暑い国である。もちろんヒマラヤ級の高山地帯はとても寒いのだが…。面積は北海道の2.5倍位で、国土はほぼ長方形。それを3つに区切り上からヒマラヤ、ミッドランド、タライと分けることができる。

ヒマラヤはご存じヒマラヤ、雪山の世界でほとんど人が住まない。ミッドランドはヒマラヤとタライに挟まれ、カトマンズ盆地やポカラ盆地など、いわゆる盆地群の連なる地域。そしてタライは海抜200m位で、そのままインド平原へと続く亜熱帯平原。タライとミッドランドの間には2000～3000m級の山が続き、その北と南とでは様相がまったく異なる。

タライはミッドランドに比べはるかに多くの人口を有し、また産業も盛んである。地形・気候の関係上、水産業に関してもそれは言え、ネパールにおける漁獲量の80%以上はタライである。広大な平原には栄養に富んだ大河が流れ、度重なる増水によりできた沼沢（三日月湖など）などは、自然の恵みを一杯に受けた天然の養殖場となりインディアン・メジャーカープ（日本では見られない）などの鯉科の魚やナマズなど、豊富に獲れる。

タライ地方と私の任地であるポカラ（ミッドランド）とは、水産業及び養殖事情はまったく異なるため、以後ポカラ周辺について述べよう。

私の所属するポカラ水産開発センターの管内には、フェワ、ベグナス、ルパの3つの湖があり、当センターはフェワ湖に面している。正面には湖、その周りを山々が囲み、さらにその上にはヒマラヤの山々が顔をのぞかせている。ネパールという国は案外湖が少なく、その意味ではポカラも特異な所と言える。

湖水・河川養殖が中心

主な業務は鯉、中国鯉（草魚、白レン、黒レン）、在来鯉科魚類の種苗生産であり、養殖業者への種苗供給及び湖への放流を行っている。在来鯉科魚類については、種苗生産自体手に着いたばかりであり、未だ研究段階といったところ。鯉（C-Carp）も中国鯉も政府や国連機関などにより移入されたもので、それ以前（20～30年前）には存在していなかった。

漁業形態は投網、刺網によるものが多く、漁師カーストのみが行ってきたが、長年に渡るJOCVの活動により、湖水面利用の網生簀養殖が定着した。また、近年はグルン族を中心に、漁師以外のカーストの人達による池中養殖が広まってきている。

河川においては、雨期と乾期との水量が10倍程も変わるところもあり、また、まったく涸渇するところもある。また、常に白濁してしている雪融け水、大量に流入するシルト状の土砂が魚類の生息を難しくしている。

逆に湖沼においてはそれらの作用が、適度な栄養を与えてはいるが、漁業権、禁漁区・期などの措置もあまりとられず、産卵場の破壊や産卵魚捕獲などの行為が行なわれ、資源量減少へとつながっている。

最近になって、これらに対する措置がとられるようになってきたが、このような状況の中で、養殖に対する比重が大きくなるのは当然の事である。

養殖形態は、先にも述べたが、大きく2つに分かれる。1つは湖水面利用の網生簀養殖。もう1つは河川水利用の池中養殖である。網生簀養殖は、主に漁師カーストの人々が行っており、ほとんどが黒レン（ポカラ地区の湖には黒レンが合っているようだ）の無給餌養殖。当センターより稚魚を購入し、網生簀に入れるだけで1～2年で食用サイズになる。粗放的ではあるが、経済的な理由からと、国民性からか「手間ひまかけて育てる」ということをしない（できない？）しかし、前述の通り、湖が適度な栄養を保っているため、動植物プランクトンが比較的多く、このような無給餌養殖が成り立っているわけでもある。

池中養殖は比較的富裕な人達が行っている。下は1人だけで自分の家族が食べる分だけから、上は数人で出資して大きな池をいくつか作り、事業として行っているが、これらの歴史はほんの5～6年という程度である。主に鯉（C-Ca5p）・草魚を対象としている。当センターでも、鯉は種苗生産が比較的容易なことから、経験を積めば個人での種苗生産が可能ということで鯉を奨励している。アヒルとの混養や池端での養豚により、水作りは自然まかせであり、餌も残飯やトウモロコシなど簡単なもの。農業省管内

の飼料工場（主に家畜用）で配合飼料は作っているものの、質の悪さとともに高価であり、一般の業者は購入できない。これら養殖業者へのフォローアップ、また、廉価で質の良い飼料作りに現在力を注いでいる。

鯉の種苗生産に取組む

さて、私の活動であるが、まずひとつはこれらセンターの仕事をスタッフと共に行う。そしてそれ以上に大きな仕事として、現在在来鯉科魚類の種苗生産に取り組んでいる。

サハール(英名Mahaseer、学名Tor putitotora)カトレ（学名Acrossocheilus hexagonolepis）アサラ（英名Snow trout、学名Schizothorax spp）といった魚なのだが、これらはまだ手に着いたばかりであり、「まずはサハールから」という形で始めている。

鯉・中国鯉と比べて生長が遅く、食性もはっきりとはつかめていない。また、ホンモン投与などによる人工採卵も今のところ1回しか成功していなく、我々にとってもまだまだ未知の魚なのだ。網生簀での飼育では雄は容易に成熟するのだが、なぜか雌は成熟してくれない。

よって、その雄を湖に持って行き、漁師が刺網にて捕獲した成熟雌から採卵し、その場で受精させるセミ人工採卵（？）方式で仕事を進めている。時には自分達で網を仕かけ作業をしたりもするが、この時には一晩中外での作業となる。産卵シーズンイコール雨期である為、もう全員ズブ濡れ、カッパなどまったく役に立たない。暗闇、雨、寒さ、そして眠気との闘い　これをネパール語でドゥッカマットライ（苦労だけ）と言います。

以前では川で仕事をしていたということで、何回か私もしたが、これこそドゥッカマットライ。遡上して来た魚を投網で捕獲するのだが、苦労の割に効果なく、せいぜい獲れても1シーズンに2～3尾。それも、産卵後の魚だったりして採卵もほとんどできず。よって、この割に合わない仕事は、今シーズンは行わず。

来年こそ人工採卵を…

このようにして集めた卵からの稚魚が、今現在約2万尾おり、元気に泳いでいる。この2万という数字、稚魚の数としては大したことはないのだが、「この国で、しかもサハールの稚魚が2万尾」というのは、とてもすごい数字なのだ(そうです　)。味も鯉などに比べずっと美味しく、経済性の高い魚であり、なんとか種苗生産ラインを確立したいと思ってはいるのだが・・「来シーズンこそは人工採卵をなんとかしたい！」と、心の中で秘かに燃えているのでした。

これらの活動を通じての苦労　。それが喜ぶべきか、悲しむべきか、あまり無いのである。ひとえに、優秀なスタッフに恵まれているからであろう。確かに設備、資材の不備といった問題は、それこそ日常茶飯事ではあるが、それらは現存するものを利用して何とか間に合わせるしかない。それができない時は、ある所から借りる。

このような時生きるのが、協力隊員同志の横のつながりです。物もそうだが知恵も借りることができる。そしてそれもままならず、どうしてもそれが無いと仕事ができないという時には、もうあっさりあきらめてしまう。良い悪いは別問題として、「資金不足・物不足」という大問題が常にバックに控えている現状では、ある程度の開き直りが無いと、とてもじゃないがやっていけない。要するに、「できる事を1つ1つクリアーして行こう」という考えである。

とかく、勇み足になり勝ちなネパール人スタッフ（やる気があるのでついこうなってしまう）に対して、「まあまあ、ゆっくりやって行こうよ。」　。一体、どちらが協力隊なんだ？そんな思いをめぐらす今日この頃、といったところであろうか？

（了）

新田美砂人 Misato Nitta

派遣国：フィリピン
職　種：養殖
隊　次：平成2年度2次隊（活動期間1990年11月～1992年11月）
出身地：東京都
初　出：「養殖」1993 6.25（(株)緑書房）

フィリピンの淡水魚養殖

私が青年海外協力隊々員として2年間を過ごしたフィリピン共和国は熱帯地域に属するため、その最高気温は周年30℃を越える。このことが淡水魚類に生理的影響を与えて、新陳代謝が盛んになり、摂餌状態が良ければその成長は日本より早い。

このような環境下に、Common Carp(Cyprinus-carpio)は1915年、はじめて移植され、その後、3度の再移植を経てフィリピン全土に拡がって行った。そこでの再生産過程は日本と同様だが気候の影響で周年産卵を行う。また、様々な所見があるが、十分な給餌管理のもとなら、3～4か月で同個体が再産卵可能な状態に復元すると思われる。

このCommon Capの種苗生産は私の業務の重要な位置を占めていた。日本では産卵・ふ化以前より稚魚養成池に施肥をしてミジンコ等の動物プランクトンを繁殖させ、その繁殖盛時とふ化仔魚収容時を一致させることが稚魚の成長率、生残率を上げるために重視されているが、私の配属先では乾期は水の調達が、雨期は排水が困難であり、また、鶏糞等の施肥用有機肥料も定期的に入手できず、日本式で種苗生産を行うことは、非常に難しい状況にあった。このため、収容密度を下げることで成長率、生残率の向上に努めていた。

任期の半ばからは他の淡水魚の種苗生産にも携わることになり、その中心はCatfish類であった。現在、フィリピンでは数種の淡水Catfish類を市場で見ることができるが、私はこのうち、Clarias macrocephalus, C batrachus, C gariepinusの3種について、種苗生産を試みる機会を得た。

C macrocephalus, C. batrachusは、他の東南アジア諸国でも昔から庶民に好まれていた魚であり、特にタイでは種苗生産技術が確立され、現在でも盛んに養殖が行われている。一方、フィリピンでは1970年代、適正量のホルモン注射の後に、搾出によって成熟卵を取り出し、これを乾導法で受精させる方法によって安定した種苗供給が可能となった。しかし、その種苗生産は継続的には行われず、その技術も忘れかけられていた。

ところが近年になって、C. gariepinusが移植されて民間業者が養殖に乗り出し、首都を主な市場として、かなりの量を供給するようになったことで再びCatfish養殖が注目され、私のところでも種苗生産を実験的に試みることになった次第である。

Catfish類のふ化仔魚から稚魚（1か月後）への成長時の生存率はCommon Carpの約30%に比べて非常に低いが天然餌料だけではその数値を上げることは困難であり、収容密度を極端に下げるか、補助的な給餌が必須だと思われた。しかし、給餌に伴う生産コストの上昇が懸念されるので、国内で市販されている高価な配合飼料（輸入ものを含む）に代わる安価なものを、フィリピン政府機関協力のもと、国内企業がこれから開発・販売していくことも必要であろう。

フィリピンにはまた、1964～1966年にかけて、CHINESE CARPで総称されているGRASS-CARP,SILVER CARP,BIGHEAD同じくINDIAN MAJOR CARPで総称されているROHU, CATLAも移植され、当時から多くの国々で用いられていたホルモン注射による採卵で種苗生産試験が行われた。そして、この研究は現在も、一公共水産施設で小規模に続けられている。

これまで、フィリピン淡水養殖はTilapiaを中心に研究・普及が行われた。当初は、国内の各地に公共水産施設を建設し、それらを基点として生産者への種苗供給を行う計画であった。だが、相次ぐ政権交代で、運営資金が減少し、規模の縮小・計画の変更が行われ、現在では、計画的に種苗生産を行っている施設は数えるほどしかない。また、初めは、数種がその対象とされていたが、Tilapia需要の上昇に伴い、他は縮小の道を辿ることとなった。

しかし、近年、天然資源量の減少等で、他の種苗生産の重要性が見直されはじめている。そこで、これからは政府が予算面の不安を解消し、各水産施設を統率して各施設間の技術交流をより盛んにして行き、フィリピン淡水養殖の将来を模索していくべきであろう。そして、零細農民が真に望んでいる技術・プログラムを立案・実施していくのである。でなければ、これからも技術レベルは高いものを持ち合わせているのに、それが有効に分配されず、各個人・各施設だけのものになってしまうだろう。

種苗生産・供給は必須事項である。Chinese Carp, Catfish類の種苗生産は、技術面以外に施設・

資金面の制約から、どの水産施設でも行えるものではないが、Common Carpなら、経験を積んだスタッフさえいれば大きな問題は少ない。

零細農民に直接、技術を移転する機会が少なく、種苗生産 供給する立場が多かった私の代わりに、私と2年間、共に協力し合い、泥だらけになってくれたフィリピン人スタッフがその役目を果たし、それが多くの零細農民に副収入を、そして、その生活に少しでもゆとりを与えてくれるものと信じている。

（了）

村田　忠 Tadashi Murata

派遣国：モロッコ
職　種：養殖
隊　次：平成元年度2次隊(活動期間1989年11月～1991年11月)
出身地：群馬県
初　出：「養殖」1992.2.1（(株)緑書房）

モロッコ王国の中国ゴイ養殖

私は、青年海外協力隊員として1990年2月より91年11月にかけモロッコ王国での中国ゴイ(シルバーカープ・グラスカープ・コモンカープ)養殖に携わり、幸運にもモロッコでは初めてその再生産に成功する機会を得ることが出来た。モロッコの淡水養殖は、1946年頃よりフランス人によって持ち込まれたニジマス養殖によって始まり、その後ブラックバス、中国ゴイと続き現在に至っている。

モロッコにおける中国ゴイ養殖の目的は2つあると言える。ひとつにはダム用水路の管理、もうひとつは食用的利用価値の高い動物タンパク質を比較的短い期間に安く生産することである。モロッコでは、貯水ダムにおける富栄養化、および用水路に繁茂する水生植物群落と大量の泥水に対しては、今まで殆ど解決不可能の状態であった。何とかして金も労力も使わずにそれを解決する方法はないものかという話になり、そこで登場するのが私の担当することになった中国ゴイである。

例えばシルバーカープ、これは日本でハクレンと呼ばれているようだが、この魚の鰓は4mmの植物プランクトンまで濾し取ることができ、少し間の抜けた顔つきに似合わず、水中のプランクトンをどんどん食べ、3年で10kg以上の成長を見ることもある。また、グラスカープは日本名ソウギョであり、1日に自分の体重の100%以上もの草をモサモサと食べ、用水路の掃除にはもってこいである。

そしてコモンカープ。これは日本で言うカガミゴイをどっぷり太らせたようなコイで、腹が減ると水底の泥をヒレでシュッシュッと1日中払いのけ、本人いや本魚としては餌を探しているのだろうが、用水路に溜った泥をきれいに掃除してしまうのである。

1990年2月中旬より、私は現地労働者の家へ住み込み、コイの産卵期を待つことになった。親魚は定期的に引き網によって採集し、成熟度を観察した。成熟度の基準は、シルバー、コモンカープでは腹部の膨らみと柔らかさ、またグラス、シルバーカープの肛門の膨らみと色、および胸鰭の色などである。雄魚は柔らかい布袋に1尾ずつ入れ、袋のまま魚重の測定をし、雌魚のみに第1回目のホルモン注射を行う。その後、親魚飼育水槽へ移し雌雄別に飼育した。

親魚へのホルモン投与は通常2回に分けるのだが、雄魚には第2回目打注のみを行った。方法として第1回目投与は魚体重1kgに対し0.4mg（コモンカープは0.3mg）で行い、第2回目投与はその12時間後4mg（コモンカープは3mg）で行う。1990年度の排卵誘発の成功率は、この方法でコンスタントに90%以上であった。

ホルモン投与によって成熟した卵母細胞は沪胞を離れ、卵巣内に蓄積される。しかし、これらの卵細胞は、その後短い期間内に過熟となり受精能力を失う。ホルモン投与された魚の排卵時期と水温との間には、はっきりとした相関関係が見られ、その時期はそれぞれの魚種に特有であり、水温の上昇と共に短くなる。第2回目のホルモン投与後、1時間ごとの水温の記録をとり、その水温の総和を求めることによって、かなりはっきりした産卵時刻を知ることが出来る。

排卵が始まり、雌魚が産卵可能となったところで、雌雄親魚に麻酔を施し、採卵、採精を行い、受精後アンキュバーター（孵化器）へ卵を収容する。アンキュバーターは、90年度には円錐型の素焼きのつぼを作り使用したが、バクテリアの繁殖が速く卵の生残率も悪いので、91年度はFRP板を加工したものを使用している。

孵化仔魚は、卵黄を吸収し摂餌を開始したところで養成池へ放養する。養成池にあらかじめ生石灰をまき、20cm程水をはった後、リンおよび窒素肥料をそれぞれ25g／m²の割合でまき、稚魚の飼料となる動物プランクトンを養成する。孵化仔魚の餌となる動物プランクトンとしては150μが限度であり、小型のロチフェルスなどが最適である。

天然餌料のコンディションがよければ、殆ど無給餌で1カ月後には2～5gに成長する。なお、稚魚の収容は100尾／m²で行った。成長した稚魚は、魚重10kg前後の時期にビニールサックに酸素詰めにして、モロッコ各地のダム用水路へと運ばれ放流される。

以上、モロッコでの中国ゴイの養殖を簡潔に述べてきた。まだ書きたい事は山ほどある。なにせ日本とはまったく異なった気候、風俗、習慣の国である。その中での人間関係や仕事の中でのいろいろなアイディアなど、話の種はつきない。もし私の報告を読まれて、協力隊に参加してみたいと思う若者が1人でもいれば私は幸せである。

（了）

阿部倫久 Michihisa Abe

派遣国：シリア
職　種：養殖
隊　次：昭和60年度1次隊（活動期間1985年7月～1988年7月）
出身地：東京都

初　出：「水産世界」1989.1.30　（(有)農林水産研究所）

農業、畜産が主力産業

シリアはトルコ、イラク、ジョルダン、イスラエル、そしてレバノンの諸国に隣接するアラブの一国である。日本の約半分の国土面積に、およそ1000万人の人々が住む。

日本同様に四季があるが、冬の雨季以外の降雨はほとんど認められない。地域により気候の差は著しいが、大陸性気候の内陸部と、海洋性気候の地中海海岸地方の2つに大別される。アラブというと、年中灼熱の太陽が降り注ぐ暑い地域を連想しがちである。しかし、シリアでは冬期の積雪もそれほど珍しい景色ではない。

主要産業は綿花や麦、オリーブ、オレンジなどに代表される農業、そして畜産業と言える。近年は工業化も進められているが、サウジアラビアやクウェートなどのような産油大国ではない。

長年続いている中東問題はいまだ解決されておらず、イスラエルとは臨戦状態にある。このような背景から、シリアをとりまく情勢はかなり流動的であるが、今のところ国内は平穏を保っている。イスラム教の戒律はそれほど厳しくなく、治安も日本よりむしろよい位であるから、我々外国人にとっては比較的住み易い国と言える。

主力は内水面養殖

シリアの水産業事情についてみてみる。1985年の年間総漁獲量は、およそ6,000トンと推定される。このうち、約48%が内水面養殖、31%が内水面漁業、そして21%が地中海での海面漁業によるものである。漁獲量の8割近くは淡水魚で占められる。

養殖場は、後述の水産公団、政府軍、民間等によって経営されていて、対象魚種はドイトゴイ、テラピア、ニジマス、そしてわずかならソウギョなどの淡水魚である。内水面漁業はユーフラテス、オロンテス等の水系、大小のダム湖で行われている。バブルスなどのコイ科魚類を中心に、ナマズ類、ボラ類などが対象魚種である。海面漁業は、水産公団所有の3隻の80トン級トロール船がトルコ沖で操業する以外は、シリア沿岸域での小型動力船による操業である。正確な統計はないが、魚市場でみる限りでは、カツオ、イワシ、アジ、サバ等の回遊性魚類の水揚げが多いようである。ハタ、タイなどの高価な根魚は年間を通してみられる。

配属先の農業農地改革省水産公団は、国民に魚類タンパクを供給する目的で1974年に設立された。地中海に面するジャブレ市に本部を置き、国内五ケ所に支所をもつ。各支所は独立採算で経営されているのが特徴である。

筆者は養殖隊員として水産公団に配属され、任期の最初の1年間を北部のサウラ支所で活動を行った。ここでは、ユーフラテスに築かれた表面積約640km2の広大なダム湖（アサド湖）での漁業と、網生簀養鯉を行っている。西ドイツのプロジェクトチームが5年間にわたりこの湖の総合的水産開発調査を行った。その結果、網生簀養殖の技術が導入された。その後、先任の隊員が3年間活動を続けて、筆者がこれを引継いだ。ここでの問題は、コイの種苗確保であった。種苗の自家生産施設がないために、300km以上も離れた他の支所より種苗を輸送していたが、多大な労力と経費を要した。また、常に種苗は不足していた。

ニジマス・コイを養殖

残りの2年間の任期は、公団本部から近いシン支所に任地を移した。シン支所はニジマス養殖場と、コイ・テラピア等の温水魚養殖場の2つからなり、筆者は後者に赴任した。約80ヘクタールの敷地に、平均4ヘクタールの肥育用止水池13面の他、種苗生産池等をもち、毎年300トン前後の出荷魚と80～90万尾のコイ種苗（1年魚）を生産している。公団では唯一の黒字経営である。

また、日本からの援助でペレット工場も併設され、ニジマスとコイの稚魚用餌料を生産・出荷している。しかし、魚粉等の輸入原料が外貨不足のため充分確保できず、生産に支障を来たすことも多い。

協力隊からは、10年以上にわたり、すでに10数名の隊員が水産公国で技術協力活動を行ってきており、現在も継続中である。それなりの協力効果は出てきているといえるが、隊員の去った後、あるいはシリア側スタッフの代わった時などには、最初のレベルに逆戻りという場合が多い。

かつて、この分野での援助を行っていたFAOや西ドイツ等もシリアから手を引いており、シリア側の協力隊へ賭ける期待は大きい。

今後、協力隊が継続して協力活動を行っていくのであれば、その方法や目的に一考を要する時期に来ていると考える。

（了）

神尾誠司 Seiji Kamio

派遣国：シリア
職　種：養殖
隊　次：昭和61年度2次隊（活動期間1986年12月～1988年12月）
出身地：神奈川県

初　出：「水産世界」1989.7.20（(有)農林水産研究所）

青年海外協力隊員は、現地の人々と同じ言葉を話し、同じところに住み、同じものを食べ、自らの利益を求めることなく、ひたすら開発途上国の新しい国づくりに協力している。派遣職種はさまざまな分野に亘っており、それぞれ活発な活動を展開。その1つ、シリアで、ニジマス養殖の指導に活躍した隊員のレポートを紹介しよう。

*　　*　　*

私が配属されたのは、農業省・水産公団、ダマスカス支所、サバダニ・ニジマス孵化場で、首都ダマスカスから北西に40km、アンチレバノン山脈の麓、標高1100mの盆地に位置する。

夏はサウジアラビアや、クウェートの別荘族が避暑のために押し寄せ、「シリアの軽井沢」と言ったところであろうか。また、この地域はレバノンからの密輸物資の集散地として栄え、年に1～2回は、軍による封鎖作戦が展開される。養殖場の正門前でも検問が行われたりする。

場の問題点

サバダニ孵化場は広大な敷地に、大小様々な池を180面近く有し、10人前後の人々によって、発眼卵150万粒、食用サイズ（約250g）、20tが生産されている。発眼卵の一部は同じ水産公団に属する、シン養殖場に分譲され、稚魚や成魚は民間業者、個人消費者、軍隊等に販売される。これら生産 販売業務を、シリア人だけでこなしていくことはできるけれども、様々な問題が山積みし、ここ数年採卵量は増えたが、出荷量は減少している。では、ここで言う、主な問題点を挙げてみよう。

1 水質

用水は、水温14～18℃、PH7.4～7.8となっている。平均発眼率が40%なのは、この水温による悪影響であろう。又、湧水池から孵化場までの3kmをパイプで導いている上、池への結水にもパイプを多用しているため、しばしばガス病が発生する原因となっている。そのため稚魚池では、ばっ気対策が取られているが、ばっ気をしていない成魚池の多くは、ガス病のため使用できないでいる。

2 飼料

シリア産の配合飼料は、質・量共に不安定である。ペレットの粉化率30%、飼料転換効率30%に加え、飼料が原因と思われる肝腫瘍と、奇形魚の多発に悩まされている。

3 魚病

1g前後と、20～80gの当才魚に、しばしば急性大量死病が発生し、発病群の30～80%が死亡する。抗生物質やサルファ剤の投薬にもかかわらず、効果は見られない。IPN及び、VHSが病因であると推察される。

これら様々な問題により、発眼卵から200gサイズまでの歩留りは、10%前後である。ニジマス養殖場としてはどうにも悲惨な内容である。

我々としては、何とか打開策を見つける努力をした。

①発眼卵のFRP水槽への収容
孵化率は孵化室内水槽区とほとんど同じである。従って伝染性疾病を防疫でできるのならFRP水槽区で孵化させようと思っている。

②孵化室用水路へのフィルター設置
手製のフィルター（目の細い網地）を設置してみたが、効果はおもわしくなかったので、やはり本格的な沈澱槽とフィルターの設置が望ましいと思われる。また、場長とカウンターパートは紫外線殺菌灯の設置を考えているが、その前段階として、水中砂泥を十分に除去しなければならない。

問題点とその改善策については、常に、養殖隊員が指摘し、レポートにしている。しかし養殖現場常駐の技師も必要だが、それよりも水質・飼料・水産土木等の専門家による、分野別協力体制が整わなければ、大きな改善にはつながらないであろう。この方面での協力が早急に必要だと思われる。

（了）

伊藤　毅 Tsuyoshi Ito

派遣国：ケニア
職　種：養殖
隊　次：昭和62年度3次隊（活動期間1988年3月～1990年6月）
出身地：静岡県
初　出：「水産世界」1990.3.25（(有)農林水産研究所）

近代的養殖はごく一部

私がビクトリア湖畔の都市キスムに赴任し、ケニア国地域開発省水産局キスム地方事務所に配属されたのは1988年5月11日。このオフィスで青年海外協力隊員として養殖の指導に携わり約1年半、時間だけは一人前に過ぎました。

ケニアでは現在、ティラピア、ニジマス、コイ、ナマズ、エビが養殖されています。近代的養殖が行われているのはごく一部で、これは観光客かホテル向け。なかでも、モンバサのバオバブ農場のティラピア養殖池は、ユニークで特筆ものです。

この養殖池は、円形の池を同心円状に3つに分け、内側に雄、次に雌を入れ、一番外側を稚魚用の水路としています。雄と雌は柵によって分けられていますが、柵の間隔より小さい雌とそれより大きい雄を選ぶことによって、雄を固定した自由な繁殖ができる仕組みになっています。外側の水路はそのまま稚魚池に接続されていて、排水すれば稚魚だけが稚魚池に運ばれるようになっています。これくらいの施設になると、私ごときに手伝えることは何もなく、教わることばかりです。

地方の養殖は初歩段階

キスム郡（およそ2600km2）には約190の農家、約400の養殖池があります。ビクトリア湖周辺は、ケニアでも特に魚の需要が多い地域で、なかでもティラピアは最も商品価値が高く、養殖を始めたいという農家が多いのです。私の所属している水産局オフィスの職員は約100名で、養殖部は私を含めて4名。郡全体を管轄しています。言うと聞こえがいいのですが、実際は、使用可能な車が1台しかないためなかなか遠くに行けず、養殖農家への訪問は地区職員に頼っている状態です。

幸い、私には協力隊の事務所から貸与されたバイクがあるので、その点は問題ありませんが、郡はとても広く、しかも、車輌が入れない道を行かなくてはならないことも多いので、農家訪問も楽ではありません。水資源は豊富ですが、ポンプを自前で購入できる農家はなく、丘陵地の小川や湧き水、稲作用の灌漑用水などを利用するため、幹線道路から離れたところに行けが造れるからです。

池の向き、深さ、水源の位置、取水口と排水口の位置など、すべてが地形に左右されるので、理想的な池はなかなか造れません。100m2程度の素掘りの池が1～3というのが平均的サイズです。排水口のない池も多く、その場合は壁の一部を壊して排水します。特に稲作地帯では、平らな土地で灌漑用水を利用するため、水路より深く池を造らなければなりませんが、そうすると、排水が全くできない池になってしまいます。

農業には養殖に必要な機材がほとんどなく、種苗生産を行える農家はありません。ところが、魚を入れておいたら小さな魚ばかり増え、結果的に稚魚の生産になってしまったという池がたくさんあります。政府経営の種苗生産場が群内に1つだけあり、近くの農家はここから稚魚を買いますが、それ以外の農家は、運搬事情が悪いこともあり、なぜか稚魚生産場になってしまった池から買っているというわけです。この場合、オフィスの職員が運搬を手伝いますが、前述したように車を確保できることはめったになく、たいていは自転車で運びます。当然、酸素なしで運ぶのですが、運搬中の死亡率はそれほど高くありません。

飼料にはスクマ、イモの葉、キャベツ、トウモロコシの粉、米糠などを使っています。スクマというのはケニアでは一般的な緑黄色野菜で、煮たものはホウレンソウによく似ていますが、ホウレンソウより固く、強いくせがあります。他にタンパク源として、アリを与えているところもあります。全体的に、周年繁殖による過密度化とそれに続く矮小化、エサ不足による成長速度の低下が慢性的になっています。

さて、私自身は養殖農家の依頼を受けて技術指導に出向いているわけですが、訪ねて行ってもどうしたらいいかわからなかったり、どうしようもない状況で何もアドバイスできずに帰ることもよくあります。それでも、彼らムズング（スワヒリ語で白人という意味）の訪問をとても喜んでくれ、帰りにはパイナップル、バナナ、マンゴーなどを山ほどお土産にくれます。わざわざニワトリをつぶして御馳走してくれることもあります。何もできない外国人をこんなに歓迎してくれるなんて、と思うと、頼まれたときには必ず来てあげなくてはと、いつも思います。

取り上げはお祭り騒ぎ

稚魚を入れてから取り上げるまで半年から1年。網を持っている農家などなく、水産局の手助けが必要なのですが、人手不足と交通事情の悪さで、取り上げはたいてい延び延びになってしまいます。それでも、焦っているのは日本人の私だけで、まわりは意外と気長に待っています。

半年から1年に1回のことなので、取り上げ作業は一大行事。ご近所中が集まってきて、お兄ちゃん達はパンツ1丁、おばちゃん達は普段着のまま池に入ります。こんな中で1人だけ胴長を着ていると、ちょっと仲間外れになったような気がします。網に魚が入ったときは、もう大騒ぎです。たいていの池は湖から離れたところにあるので、生きている魚に触れたことのない人が多く、キャーキャー言いながらも皆とてもうれしそうな顔です。しかし、期待したほどの漁獲がないことも少なくありません。5、6匹だけであとは逃げてしまっていたり、数は多くてもほとんどが100g以下だったということもよくあります。ティラピアの池なのに、取れたのはナマズとカメだけだったということもありました。

このように、ローカルレベルでのケニアのティラピア養殖は、まだまだ初歩の段階です。養殖が産業である以上、計画、投資、運営、決算という一連のマネージメントが当然必要なのですが、一般のケニア人は、まだそういうことに慣れていません。社会基盤の不備を考えると仕方のないことと言えますが、養殖の発展をリードする立場の水産局の物的・質的不備の大きく係わっています。キスム郡にはビクトリア湖という大きな湖があり、その水質源の利用価値は計り知れません。しかし、いまだに知識や技術の普及が遅れ、低いレベルに停滞しているのが現実です。

また、養殖の目的がタンパク源の確保なのか、金銭的利益を求めているのかはっきりしていないことにも問題がありそうです。加えて、援助にも明確な目的を持たせることが必要なのではないかと思います。

(了)

堀江克之 Katsuyuki Horie

派遣国：ケニア
職　種：養殖
隊　次：平成2年度3次隊（活動期間1991年7月～1993年7月）
出身地：三重県

初　出：「養殖」1994.10.1（（株）緑書房）

ケニアを支える魚たち

私は平成3年7月より2年間、青年海外協力隊員として養殖の指導を行ってきました。

私の赴任地は、ケニアの中でも九州と同じくらいの面積を誇るビクトリア湖の近くに位置するキスムという街です。ここは古くから交易 漁業等で栄えてきた比較的大きな街であり、私の勤務先はキムス周辺の漁業等を管理 指導するキムス水産局でした。

水産局での主な業務内容は、漁業指導、漁船操業ライセンス発行、資源管理（特定魚種の休漁期の設定、漁網の目合いの規制等）、養殖指導等です。

ビクトリア湖周辺に住んでいる人人は魚を食べる習慣があり、特にキムス地区に住んでいるルオー族と呼ばれる部族は好んで魚を食するので、この辺りでは漁業は重要な産業になっています。中でもナイルパーチ（淡水産のアカメ）、ティラピア、現地でオメナとかダガーと呼ばれる淡水産のイワシは特に漁獲量も多く重要な魚種です。

そのうち、ティラピア（ニロチカ）とナイルパーチはビクトリア湖に移植された魚であり、両種共、産業的に重要な魚種となったのですが、現地の人々はティラピアの方を好みナイルパーチの方はあまり食べません。小さな食堂で魚を注文するとまず間違いなくティラピアが出てきますし、市場で売られているのもティラピアが主です。

ティラピアはフライにしたり、干物にしたりして食されています。現地の人達は、何とかして魚食性のナイルパーチ（現地で最も食用とされている有用魚種を捕食する）を減らしたいと考えているのですが、そのナイルパーチのフィレーが外貨獲得のための重要な輸出品目になっています。その例として、ナイルパーチは日本向けの輸出品の中でも重要な位置を占めています。

ティラピアを生活の種に

いろいろ前置きが長くなりましたが、キスム水産局では、主にティラピアの養殖に力を入れていました。養殖魚種をティラピアにした理由はすでに述べました様に、需要が高く、さらに施肥養殖でも十分生産可能であり、病気に強く年中適水温が得られるからです。

仕事内容は、主に様々な援助団体から資金協力等を得て、交通の便が悪く、近くに市場や店もない、経済的に貧しく、肉、魚等のタンパク質の摂取が困難な人達が住む農村に池をつくり、ティラピアを放し、それを彼らのタンパク源にしようという活動を技術的に支援することでした。

具体的には、農村地区の青年団、女性グループと話し合い、養殖計画を立て、池をつくる場所を選定し、池を掘り、稚魚を放し収穫まで指導しました。

ケニアでは、雨の降る雨季とほとんど雨の降らない乾季があります。前日雨が激しく降った場合や田舎の方の舗装されていない道では1日中路面がぬかるんで車やバイクでは通行不可能となってしまうので、特に奥地に池をつくる場合には雨季に稚魚の輸送等を行わなくてもいいよう配慮しました。

苦労した点として、これはどこでも言えることと思いますが、予算不足がまず上げられます。池が出来上がり、稚魚をその池に運びこもうとした時、ちょうど車が壊れていてその修理代が無いので暫く何もできない。また、ガソリン代が無く、車を動かせないということも多々ありました。仕事の計画等も予算の都合によりどんどん変更されていきます。

盗難にも注意しなければなりません。例えば、キスム水産局は養殖用種苗の多くをビクトリア湖周辺開発公社の種苗生産場から購入しています。以前は水産局独自で種苗生産出来たのですが、私が赴任する数年前に湖から池に水を汲み上げる揚水ポンプが2度も盗難にあってしまい、それ以来購入していないからです。理由は、また盗まれる可能性が高いということ。そのためその池は放置されたままになっています。

したがって、予算や盗難対策をかねて、私の任期中に、ポンプ等を利用しなくても水が取れ、水産局独自で種苗生産が出来る様、種苗池を出来るだけ多く作る様にしました。

ケニアの自助努力を期待

私は、電気も何も無い所に池をつくり、少しでも貧しい人達の生活改善の手助けになればと養殖指導を行ってきたので、いかにお金をかけずに魚を育て

るかということに力を注いできました。

しかし、何でもかんでも援助したわけではありません。自助努力を促すためにも現地職員、実際に池をつくる地区の人々の意見を十分取り入れ、経済面での援助は必要最小限とするよう心掛けました。

私は、養殖技術指導ということでケニアに赴いたわけですが、私が教えたことなどよりケニアで教えられたこと、学んだこと、得たことの方がはるかに多く、そこでの経験は何ものにも変えがたい貴重な財産となっています。

（了）

鈴木　稔 Minoru Suzuki

派遣国：セネガル
職　種：養殖
隊　次：昭和57年度2次隊（活動期間1982年10月～1985年2月）
出身地：大阪府

初　出：「水産世界」1988.11.31（（有）農林水産研究所）

雨期・高水温による親カキの死亡に悩む

淡水魚養殖の隊員としてセネガル内陸部のタンバクンダに赴任した私だったが、ひょんなことからティエス州のジョアールという漁村に移り、カキの養殖に取り組むことになった。

ジョアールでのカキ養殖、蓄養、販売に関しては、セネガルには珍しく組合があり、私の所属するティエス州ジョアール水産局がバックアップをしている。

ジョアールでカキの組合が結成されたのは20年以上も前で、まだセネガルがマリ連邦下にあり、独立していなかった1959年にまでさかのぼる。

そして驚いたことに、ここで組合が結成される以前には、個人でカキを売っていた者がいたということである。セネガル南部のカザマンス州と異なり、ここティエス州では現地人によってカキが消費されることはほとんどない。それを考慮すると、外国人（主に旧宗主国のフランス人）によるカキの消費がいかに多かったかということが察せられる。

カキの豊富なカザマンス州やシンサルーム地方でカキ組合が結成されなかった理由の一つには、白人居住地域から遠く離れていて、消費先までの交通の便に欠けていたことがあるだろう。

また、ジョアールから約60km離れたソモンヌ村でも、1979年から日本種のマガキの養殖が行われていた。

これはフランス人のカキ仔貝養成業者によって持ち込まれているもので、ソモンヌの水温がマガキに適する11月～5月に、フランスで採苗されたマガキの仔貝を空輸し、8～10mmに育つまでに3～5週間、ここの豊かな栄養水で管理し、再びフランスに送り返している。

私は、フランスに持ち帰るサイズに育った仔貝を少量譲ってもらい、ケージ養殖を試みることにした。それまでは、セネガルの高水温で果たしてマガキが産卵するかということ以前に、生存が可能かという課題があったが、雨期の高水温（表層で約32℃）による親ガキの多数の死亡に悩みながらも、数回にわたり産卵を確認した。

低水温を好む マガキの再生産可能

果たして、これらの卵や幼生が生き続け、セネガルの地においてマガキの再生産が可能かどうかということを見極めるのは、非常に重要なことである。なぜなら、ここでマガキの再生産が可能ならば、その利潤の大きさを考えて、現地の労働者の雇用を拡大することができるからだ。真の国際協力、援助とは、単なる物資の供与のみでなく現地の人々が少しでも労働の機会を持ち、自らの努力で収入を得られるようなチャンスを作る事だと考えている。

日本での採苗は、主に帆立貝やイタヤ貝、カキなどの貝殻を採苗器にして、これらの殻に穴を開け、針金を通して80～100枚を重ね合わせているが、セネガルでは針金の代わりに太めの釣糸が多く使われる。

これは2～3年の再使用に耐え得るという経済的理由によるものだが、私が針金の採苗器と比較してみた結果、①釣糸のほうがブラシをかけやすい、②水流に対して抵抗が少ない、③持ち運びが容易である、④錆びないといった利点があり、釣糸のコレクターのほうがすぐれているように思えた。

さて、11月も中旬を過ぎると水温が下がり始め、1月になると朝9時の水温は約15℃と非常に冷たくなり、カキの死亡率も低下する。

雨期の間はカキの成長が鈍く、毎日カキカゴを開けるたびにたくさんの死骸を見つけて虚しい思いをしたものだが、この時期になると、雨期の高水温を耐え抜いて生き残ったマガキの成長が著しい。飼育中の仔貝は、大きなものはすでに4cm大にまで成長している。

これで、非常に手間はかかるが、セネガルでも低温水域を好むマガキの再生産が可能だという一つの結論が得られたことになる。だが、高水温に耐えられないものも多く、死亡率は50%を大きく上回ってしまう。結局、マガキの養殖については、試験的な段階から抜け出せない状態であった。

鈴木隊員の現地での業務報告より

▽日本種マガキ

（Crassostrea gigas）について

暮れから年の初めにかけてジョアールのカキ養殖場にフランスから運ばれてきたマガキの稚貝が届く。これはフランスからマガキの稚貝（約1～3mm）を空輸し、ここセネガルの海水温の低い間に成長させ、それを再びフランスへ空輸し、カキ養殖業者販売するという、いわば中間業者的なフランス人が行っている事業より、毎年ジョアール水産局へ手土産代わりに贈られるもので、決してその数は多くないが、貴重なマガキの種苗として現在大切に育成している。それらはジョアール水産局裏の入江に設置された6ヶのカキカゴに収容されているが、その数、約15,000個体、とはいっても到着時には両手ですくって約6杯分だからその小ささがお分かり頂けると思う。

そして丁度送られてきたマガキの1年物は、その多くは販売されたが、雨季の高温水を耐えて生き残り、盗難を免れた個体約800個が現在、目に見えるような早さで成長しており、見事な殻を形造っている。

地理的要因から管理の難しさもあるが、乾季の水温が比較的低い間は、ジョアールの入江でも充分マガキが育てられる事が分ったので、ジョアール村より約60kmにあるソモンヌという村で育成したマガキは、すべて水産局の小型トラックでジョアール村に移し、同じく水産局裏にて育成している。ただ、ここジョアールの養殖場では

①入江の満干時の潮高の差が大きく、一日の内、仕事は潮の高さによって大きく左右される。

②入江付近は村人の生活汚水が入り込む上、満潮時にはファジェットという島からの生活汚水や家畜の糞尿が流れ込むもので、潮が早いとはいえ決して清潔とはいえない。

等の問題がある。

ジョアールで育成されたカキはローカル産・マガキ共、出荷時には少なくとも3日間は生活汚水の流れて来ないきれいな海水の得られる沖合にボートで運んで洗浄をしなければ市場に送る事ができない。この洗浄場は現地人の間では、"ティンディン"と呼ばれる。

水産局から船外機付ボートで約5分位の所にある砂洲で外海から満潮時には常にきれいな海水が入り込む所につくられている。ただこの洗浄場は普段人目につかない所にある為、数年前には「何があるのだろう？」と好奇心から立ち寄ったファジェット島の漁師によってカキカゴがやぶられたり、ロープが切られたりした事もあったという。大切なマガキもここに運んで飼育を試みている為、2度とこのような事があっては困るので、ファジェット島の村長に、村人に注意を促すよう頼んだところ、その翌日、さっそくタムタム太鼓をたたいて村人を集め、カキカゴをさわらないよう注意してくれたという。

▽ローカル種カキ

（Crassostrea gasar）について

ローカル種のカキは、組合の活動が始まって以来、月に1度程度の割合で組合員の手によって、ホテルや市場に出荷されている。ジョアール村で集めたり、蓄養しているカキのみではその量は需要に応じ切れない事もあり、同村より約10kmにあるブジェンや遠くはシンサルーム州のバンブガールケャーレという村にまで、カキを買い付けに行く事がある。

私も水産局職員と共にバンブガールチャーレ村まで、朝4時起きでカキを買いに行った事がある。この村には、すでに協力隊のカキ養殖隊員が配属され活躍しているが、ここでは主にマングローブに育つ天然のカキを打ち落として蓄養しておき、それを不定期に出荷するのみにとどまっている。組合組織も不完全で、人口150人そこそこのこの村で、カキ採集に従事しているメンバーは、男性28人、女性17人という事で、さしたる産業も無い小村ゆえ農業とカキ採集で細々と暮らしを立てているという感じである。

ここで買い付けるカキの値段は、公的機関であるジョアオール水産局向けには、1サース90セーファーフラン（10セーファーフラン=6円）、そして他の個人的に買いに来るホテルなどへは、1ダース125セーファーフラン（以下CFAと略す）で売っているとの事である。

こうしてバンブガールチャーレ村で買って来たカキは、ジョアールでしばらく洗浄され、そのまま今度はジョアールのカキという事で、ホテルや市場に販売される事となる。

そして、その卸値は、1ダース当り275CFA～350CFAという事なので、すでにここで大きな利潤が生まれる訳である。

出荷されたカキは、首都ダカールの外国人旅行者の多いホテルで主に消費されるが、アフリカ最西端の地として知られるアルマディという海岸では、岩場にコンクリートの蓄養所が造られており、常時、近くのホテルからの需要に応えられるようにしている他、その浜でもレモン汁をかけて生食できるように直売もしている。水産局職員と共に、現場に赴いて市場調査も行ったが、ちなみに販売価格は、1ダース小、400CFA、中、15CFA、大、450CFAと分けて販売しており、営業時間も月曜日の休業を除き、朝の7時30分より夜の7時30分までと長い。

また平日の店番は1～2人だが、週末の忙しい時には3～4人で店を切り回すという。ただ売り上げに非

常なばらつきがあり、1日たった4ダースしか出ない事もあれば、100ダース以上売れる事もあるという。店を訪ねてみて、私なりに売上げ向上のため、示唆した事は、

①看板および値段表の設置
②カキナイフの購入及び現在使われているナイフの衛生管理に注意する。
③小皿、フォーク、ナプキン等の完備
④細菌分析表を掲示して安心して消費者がカキを食べられるようにする。

(了)

石塚治男 Haruo Ishizuka

派遣国：ボリヴィア
職　種：養殖
隊　次：昭和58年度3次隊（活動期間1984年1月～1986年1月）
出身地：千葉県
初　出：「水産世界」1988.10 31 （(有)農林水産研究所）

富士山の高さの首都ラバス

ボリビアは南アメリカ大陸の中央に位置し海への出口を持たない内陸国である。この国の地理的特徴は、アンデス山脈の高地、中央部の渓谷、アマゾンの低地というように3つに分けられる。高地と低地の標高差は富士山の高さに匹敵する。

首都は、ラバスで標高3700メートルで摺り鉢状の街になっている。中心街は摺り鉢の底にあり近代的なビルが立ち並んでいるが、上にいくにつれてアドベと呼ばれる日干し煉瓦の家が増えてくる。空港は、標高4100メートルで、摺鉢の上部に当たるところにあり、摺鉢の板をいっきに駆け降りていくアウトピスタという自動車専用道路で中心街と結ばれている。天気の良いときには標育6400メートルの万年雪を頂いたイリマニ山が望める。この山はラバスの象徴となっている。

人口は約600万人で、人種は、原住民のインディオ、白人、そして混血のメスティーソで、比率は、60%、10%、30%となっている。インディオは、起源はモンゴル系の人種で赤ん坊は蒙古斑がでる。また、非常に顔つきが日本人に似ている。そして、インカ帝国の末裔でもある。

気候は、10月から3月までの雨期と4月から9月までの乾期とに分かれている。昼間は暑く、夜が寒いというように1日の中に四季がある。雨期には毎日午後から激しい雨が降り、摺鉢状の上部から雨水が流れてきて、街の坂道は突然に川になってしまう。ほとんどの道は敷石でできているために、激しい流れに敷石が流され、穴が空いてしまい、交通が遮断されてしまうことがある。その反面、街の中のゴミも流されるので街がきれいになる。

ボリビアの主要産業は鉱業であるが、近年の鉱産物市況低下と、国内の設備の老旧化等により、外貨が稼げなく、経済的に破綻している状況であった。私の任期間中はインフレが非常に激しく、2年間に物価が千倍も上がった。新紙幣の発行が度々行われ、1万ペソ札、5万ペソ札というように紙幣の額面もどんどん上昇していき、最後には、100万ペソ札までが登場した。情報の伝達が悪いために、田舎では新紙幣が信用されず使用できないという笑い話みたいなこともあった。

標高世界一のチチカカ湖で…

アンデス山脈のアルチプラノと呼ばれる標高約4千メートルの高原で虹鱒の養殖の指導を行った。ここには定期航路がある湖で世界で最も標高の高いチチカカ湖がペルーとボリビアの国境沿いにある。海のないボリビアであるが海軍が存在している湖である。湖面の標高は3800メートルで、日本の四国が入ってしまう大きさである。この湖は塩分をやや含み、水温は約10度と安定している。チチカカ湖の水の流れは不思議で、水は海に流れることはなく下流にある塩潮のウユニ湖に流れ水系が終わってしまう。

この湖に生息している魚は、卵生メダカの一種でこの湖原産のイスピー、カラチ、移植された虹鱒、ペヘレイ等である。特に、虹鱒はアメリカの援助によって50年位以前に移殖され順調に繁殖し、体長が1メートル位の虹鱒が漁獲されたというが、乱獲により虹鱒資源が枯渇してきた。

アルチプラの住人たちは、原住民のインディオ達である。そして彼らの言語はアイマラ語とケチュア語であるがボリビア側の高地に住んでいる人々は殆どアイマラ語を話す。さきにあげたイスピー、カラチ等はアイマラ語である。彼らは、主に農業に従事している。主要農作物は、ジャガイモ、チョクロ（トウモロコシの粒が大きいもの）、アバ（空豆）などである。アルチプラノの農地は土地が痩せており石が多く荒れているので収量は少ない。雑草も少なく、イネ科の植物であるイチュという針みたく尖っている草がはえているだけである。ジャガウモはアンデス山脈一体が原産地であり、彼らの主食となっている。ジャガイモを保存食として加工している。その方法は、濡らしたジャガイモを一晩中、外に出しておいて凍らせ、日がでると太陽の暖かさぜ溶かしアクを抜く、この操作を何日も続ける。凍結乾燥法（フリーズドライ）の原型である。この様に加工されたジャガイモをチューニョと呼んでいる。

農作の他に、家畜を飼っている。家畜の種類としては、牛、羊、豚、鶏等である。特に変わったものとして、中南米のラクダ科の動物であるリャマ、アルパカである。

インディオ達の女性はチョリータと呼ばれている。服装は変わっており、山形帽子を被りポジェーラと

いう何枚も重ねたスカートをはいている。その姿は落下傘をはいているみたいである。アワヨという色鮮やかな風呂敷に荷物を包み背負って歩く。時には荷物と一緒に赤ん坊が入っていることもあり驚かされる。チョリータ達は働き者であり力仕事も男性達に負けないようにしている。

1982年今木専門家が虹鱒に取組む

アルチプラノにおける虹鱒養殖技術の普及プロジェクトは、JICAより派遣された今木専門家によって1982年に開始された。このプロジェクトの目的は、枯渇してきた虹鱒資源の回復と、農・漁民達の新しい蛋白源の供給、並びに彼らの現金収入源の確保を主としたものである。

このプロジェクトの始まりは、モデル農村を10ヵ所ぐらい選び、そこで虹鱒養殖を行った。給果がよかったので農民達の間に口コミで広がり1985年には養殖を希望する農村数がおよそ400になった。農民達は農村内で有志を集い、小さな組合をつくり、代表者が申請書と組合員のメンバー表を携えて我々の所を訪ねてくる。主な仕事は、農村を巡回しての虹鱒養殖の指導とラパスから車で1時間ぐらいのところにあるポング養殖場の管理である。この養魚場は50程前にアメリカの援助のより建てられ、親魚の管理、稚魚の育成、採卵そして農民達の実習を行っている。養殖の形態としてチチカカ湖では網生簀養殖、河川近辺では池中養殖、小さな湖沼ではそのまま池代わりとして利用している。

最初に、適地選定ということで水質チェックを行う。水質調査の内容は、pH、水温、溶存酸素、水性昆虫などの調査である。水質調査の機器は簡単な携帯用のもので、比色反応を試すものである。農民達はサンプルの色が変化していくのを、魔法でもみるような不思議そうな顔をして眺めている。

このプロジェクトの目的は、技術移転ということなので、農民達に対しては金銭的また物質的援助をしない。生簀をつくるにも、池をつくるにも彼ら自身が材料を揃えなければならない。また、我々が農村に出張するときのガソリン代も彼らが負担することになっている。所属先は農牧省の水産開発センターという新しくできた部署で予算もない、そのため出張に行けないと農民達に言ったところ彼らの方からガソリン代を出すから来てくれということになり、それ以来農民達が出すようになった。但し、虹鱒の稚魚を無料配布した。

池をつくるとしても、農民達にとってはセメントの値段が高く手にいれることが無理なので、池の構造は簡単な素堀の池である。そのために池の壁が弱く補強のために石を積んだ。石の扱いがうまく、石と石の間に隙間がないほど上手に積み、押してもびくともしない。石の割り方もうまく、隙間にぴったりと入るように割る。池底から水が漏らないように、芝の塊のようなものを底に敷き詰めた。これらの作業はすべて部落内のメンバー達全員で行われる。チョリータ達は働き者で、男性達はすぐに現場監督みたく指図するようになるが、彼女らは黙々と作業をしている。

生簀の大きさは、縦・横4メートル、深さ2〜3メートルというように指導している。固定式生簀と浮き生簀の2種類があり、両方とも簡単な構造である。材料はペルーで使用されていたアンチョビ（イワシ）用の網と支柱になる材木で、浮き生簀はこれらに浮きようとしてのドラム缶4個が必要となる。コスト面からみるとドラム缶は高く農民達は固定式生簀を選択する。

固定式生簀は、湖底に支柱を打ちつけるので、移動するのに手間がかかる。また、支柱に網を結び付けてしまうので、水位に合わしての調節が不便である。チチカカ湖も雨期と乾期によれ水位の変動があり、乾期に生簀の設置が終わり、稚魚の放流というときに、雨期のため生簀が水中に潜ってしまうこともあった。チチカカ湖の水位に関するデータはなく、生簀設置の時は農民達の話を聞いて行うためこの様なこともあった。そのため、我々は管理のしやすさから浮き生簀の設置を勧めた。

大西洋横断した葦船

チチカカ湖には、葦が豊富に生えており、昔からインディオ達は葦船を利用している。大西洋を横断した葦船"ラー2世号"を制作した人も住んでいる。葦を乾燥させ、束ね、それらを荒縄を使い組み合わせていく。葦は家畜の餌にもなっている。ある部落では浮き生簀のドラム缶の代わりに葦船を使用するようになった。葦船の寿命は約1年であるが材料代がただであり、彼らの生活に密着したものであり、葦船の生簀はチチカカ湖のインディオ達の養殖という感じがする。

池や生簀に稚魚を放す時が彼らにとって最育の喜びとなり祭りになってしまう。稚魚が到着するとサンポーニャ、ケーナなどの民族楽器を持った楽団がフォルクローレを演奏しながら出迎える。時には、花火の代わりにとダイナマイトを近くで爆発されたこともある。御神酒をあげるように稚魚の放された池や生簀にビールを振りかける。それから村人達の料理や飲物が出される。最後に踊りとなる。標高が高いために空気が薄く、走り回るような躍りで終わると同時に座り込んでしまう。これが一番苦しい仕事であった。ボリビアでの虹鱒養殖は、始まったばかりであり数々の問題があるが、着実に伸びていってほしい。

（了）

石塚治男

派遣国：ボリヴィア
職　種：養殖
隊　次：昭和58年度3次隊（活動期間1984年1月～1986年1月）
出身地：千葉県
初　出：「水産界」1989.1.31（(社)大日本水産会）

アルチプラノのニジマス養殖

青年海外協力隊員としてボリビアの首都、ラパスを目指して出発したのは、昭和59年1月9日、東京が20年ぶりの大雪に見舞われた日であった。ラパス国際空港は標高4,000km、さすがに息苦しさを感じてしまう。

ラパスの町はすり鉢状になっていて、空港と町の中心地との標高差は約300m、中心街に近代的な高層ビルが建ち並んでいるのには、少々驚かされてしまった。

農牧省の水産開発センターに赴任した私の仕事は、アルチプラノ周辺の農・漁民達に対してのニジマス養殖の技術普及である。アルチプラノにおけるニジマス養殖技術の普及プロジェクトは、1980年に派遣された今木専門家によって1982年から始められたもので、ニジマス資源の回復、農・漁民の新しい蛋白源の供給、そして彼らの現金収入の確保を主な目的としている。

われわれのプロジェクトは、モデル農村を10ヵ所ほど選んで、ニジマス養殖のデモンストレーションをすることから始めた。これが好結果を生んで口コミで広がり、1985年末には養殖を希望する農村数が約400にも達したのである。農民達は村の有志を募って小さな組合を作り、その代表がパパスにあるわれわれの事務所にやって来る。ここからがわれわれの協力活動の始まりだ。

養殖指導を3形態に

まず村の事情や環境等を話し合い、出張予定日を決める。出張は3段階に分かれており、第1の出張は養殖場所の適地を選んでの水質検査だ。この時に池や生簀の規模などを指導する。そして第2の出張で農民達の作った池や生簀をチェックし、第3の出張でニジマスの稚魚を放流する。その他、何か問題が起こった時には事務所で相談に乗ったり、放流後の魚の成長の調査を行うほか、ポンゴ養魚場の管理などが主な業務になっていた。ポンゴ養魚場というのは農牧省が管理しているボリビア唯一のニジマス養魚場で、50年前にアメリカの援助によって建てられたものである。

養殖指導の形態は3つに分かれている。四国ほど大きさのあるチチカカ湖では生簀養殖、河川では池の設置、小さな湖沼では放流をする。ところで、われわれの協力は技術の移転ということなので、金銭的・物質的援助はしない。生簀を作るにしても、彼らが自分で材料を準備しなければならないのだ。ただ、ニジマスの稚魚だけは手に入れることができないので、ポンゴ養魚場で飼育している稚魚を無料配布した。

簡単な素掘の池

池を作るといっても、ボリビアではセメントの値段が高いため、農民はとても買うことができない。したがって池は簡単な素掘りで、深さは大体1m50、長さは15～20m、幅は7～10mと教え、池の壁を補強するために石を積むよう指導した。

彼らはインカ帝国の末裔であるためか石の積み方が非常にうまく、石と石の間に隙間がないほどしっかりと積み上げる。また、石の割り方もうまい。彼らに言わせると石の目というものがあって、そこを叩くときれいに割れるのだという。私も挑戦してみたがうまくいかず、石の目も結局わからなかった。彼らが積んだ石は安定がよく、押しても引いてもびくともしない。インディオの人々は、石の扱いには天性のものを持っているようだ。

池の養殖での問題点は、乾期と雨期とで水量の差が激しいことである。乾期は水量が非常に乏しく、雨期には激しく降った雨で大量の泥水が入ってくる。だがボリビアで養殖を志す以上、これは避けて通れない問題だ。

チチカカ湖では生簀で

チチカカ湖では、生簀養殖を指導した。1年を通して水温の変動は10～15度で、ニジマスの生育には適している。また、餌となる水生昆虫も豊富で、アイマラ語でカニカニと呼ばれる横エビの一種が多く、ニジマスの格好の餌となっている。

生簀には固定式生簀と浮き生簀の2種類があり、どちらも網と木材を組み合わせただけの簡単な構造だ。浮き生簀の場合は、それに加えて浮きの役目となる

ドラム缶が4個必要なのだが、農民達にはドラム缶さえ買うことができない。必然的に、ほとんど村では固定式生簀を設置することになった。ところが、チチカカ湖は雨期と乾期とで水位の差が激しく、生簀が水の中に潜ってしまうことがある。また、固定式は湖底に支柱を打ち付けるので移動に手間がかかるといった難点もあり、われわれとしては浮き生簀を勧めていたのだが‥‥。

トトラ舟で生簀

しかし、浮きの役目を果たすのはドラム缶だけではない。われわれの気付かなかった、素晴らしいアイデアが農民から出てきたのである。

チチカカ湖の沿岸にはトトラ（葦）が繁茂しており、インディオ達は昔からこれを乾燥させて束ね、トトラ舟を作っていた。これをドラム缶の替わりに使おうというのである。トトラの舟の寿命は1年ほどだが、原料の入手や製作は彼らにとっては日常の仕事であり、生活に密着したものである。維持・管理も簡単にできるのだ。

こうして、トトラ舟を利用した立派な浮き生簀ができた。彼らの考えたトトラ製浮き生簀は、ボリビアのインディオの養殖という感がする。

（了）

澤志泰正 Yasumasa Sawashi

派遣国：ボリヴィア
職　種：養殖
隊　次：昭和62年度2次（活動期間1987年12月～1989年12月）
出身地：大阪府
初　出：「養殖」1989 8.1（(株)緑書房）

ボリビア共和国は、ブラジル、ペルー、チリ、アルゼンチン、そしてパラグアイの5ヶ国に囲まれた南米大陸の中央に位置する海を持たない国である。国土面積は日本の約3倍、人口は約670万人である。標高は200mに満たない低地から、7010mのイリャンプ山までバラエティーに富んでいる。首都ラパスは標高3600m台、そして、我々の活動するチチカカ湖（面積は琵琶湖の約12倍、船舶が航行する湖では世界一海抜が高い）岸にあるティキーナ養殖センターは、富士山より高い3800m以上に位置する。国土の3分の1を占める、この標高3500～4000mの地域はアルティプラーノと呼ばれる。

1977年以降、アルティプラーノにて日本からの水産技術協力が行われて来た。その活動の目的は、同地域居住のカンペシーノと呼ばれる零細農民にニジマス養殖を普及し、そのニジマスを彼らの蛋白源および収入源に活用してもらうことと、自然水系への種苗放流を行い、乱獲により涸渇しているニジマス資源を回復することであった。そのため、40年以上も前にアメリカの援助で設立されたポンゴ養殖場を中心として人口受精を行い、孵化させたニジマス稚魚を小湖沼を持つ農民による共同体へ配布して来た。

私が、ボリビア共和国農牧省水産開発局に着任したのは1988年1月末であった。そして、2月には日本政府から8億円無償資金援助でチチカカ湖岸のティキーナ地区に水産開発センターが設立された。

センターの業務目的は、①2.5gサイズのニジマス稚魚を50万尾、500gサイズのニジマス食用魚を16t生産する。②生産した稚魚35万尾を地区農民へ配布し、10万尾をチチカカ湖に放流する。③センターにカンペシーノを研修員として受け入れ、ニジマスの養殖方法を普及する。④チチカカ湖を中心とするアルティプラーノ水系および小湖沼の基礎調査研究を行う。以上である。

センターは、採卵室、孵化室、育種用池、親魚池、網生簀、調餌室、倉庫等から成る生産施設と、業務室（2室）資料室、実習室、分析室、飼育実験室、講義室、暗室、事務室等から成る管理研修棟、さらに研修員宿舎や管理人棟、ガレージ等によって構成されている。孵化室や池の用水、生活用水はチチカカ湖からポンプで汲み上げており、停電でポンプが作動を停止した場合、止水化を起こして魚を窒息死させないように自家発電施設が設けられている。

6月から採卵、種苗生産を開始した。7月中旬まで、センターにて採卵・受精を試みたが、0.1%も孵化しなかった。全滅に近くなった原因は、孵化用水の高水温、低酸素、高pH、塩化物等の複合などによると推定され、急遽、7月下旬から9月上旬まで孵化事業については、ティキーナで採卵し卵が吸水した後、約150km離れたポンゴ養殖場に輸送して収容することにした。

その後10月から、ポンゴで孵化し卵嚢を吸収した稚魚を再度センターへ毎週輸送することとなった。折しも、9月からセンターの職員数が9名から18名に増員され、日本から短期派遣専門家が訪れていた。それによって、私が稚魚および収容卵の安全を見守り、最適時期に稚魚をセンターへ送り出すため、1ヶ月程ポンゴへ出張することが可能となった。

私がポンゴに滞在する間、ポンゴ養殖場からティキーナ養殖センターまで、毎週、0.16～0.22g平均の稚魚を輸送した。輸送された稚魚は、センターの孵化室、稚魚池で1g以上に育てられた後、網生簀へ移送された。しかし、ポンゴから全ての稚魚を輸送し、私がセンターに戻って2週間目、短期派遣専門家が任務を終えて帰国された1週間後に、事故が発生した。

この時、我々青年海外協力隊員2名を含む10名以上の職員が場内にいたが、全員が夕食を取っている1時間半程の間に波浪でポンプが作動を停止し、池に水が流れなくなり、96000尾もの稚魚が窒息死してしまったのである。深夜まで斃死した魚を拾い上げたが、全員無言であった。情けない想いのまま、翌日生き残った稚魚全てを強引に網生簀に移動した。今年度の生残数は、この時点で12万尾、前年度の約5万尾と比べ尾数は多くなったものの、目標の50万尾生産達成にはまだほど遠い状況である。

しかし、さらに稚魚の斃死は続いた。約20日間の休暇から1月中旬にセンターへ戻り、稚魚の入った網生簀を覗くと、稚魚に食欲がない。その後、2、3日もすると狂泳するものが出始め、斃死数が大幅に増えた。これら病魚には、肉眼で体表や鰓の至るところ白い点が確認出来た。顕微鏡でこれらの点々が白点虫であることを再確認した後、停電による窒息事故の再発を恐れながらも、白点虫駆除のため重傷の稚魚群を稚魚池へ移動した。移動した稚魚は翌日から

数日おきに塩水浴を行い、被害の増大を防いだ。白点虫による被害が出たのは、網生簀付近では水の循環が悪く、水質が悪化したことが主原因と思われる。以上が、赴任後約1年間の大まかな業務進捗状況である。

同センターを順調に機能させていくには、今後はより明確に業務の責任分担を行い、機材保守管理や、業務に対する責任感のある人材の育成を総合的に行っていかねばならない。そのためには、より経験豊富で専門的に助言し得る人が必要である。具体的には、日本を始めとする水産業先進諸国から、「養殖一般」、「養魚飼料」、「水産資源」等の専門技術を身につけ、さらに技術移転を行っていく上で、リーダーとしての人的魅力にあふれる個別専門家がティキーナ養殖センターに長時間滞在するような総合プロジェクトの必要性を感じる。

(了)

澤志泰正 Yasumasa Sawashi

派遣国：ボリヴィア
職　種：養殖
隊　次：昭和62年度2次隊（活動期間1987年12月～1989年12月）
出身地：大阪府
初　出：「水産世界」1989.12.25　（(有)農林水産研究所）

ボリビアでニジマスの増殖活動

<1回目>

ニジマス養殖で蛋白源供給

私の配属先である農牧省水産開発局のティキーナ養殖センターは、チチカカ湖の岸に位置し、同センターの目的は、大きくとらえればニジマス養殖を普及し、現地の人々の蛋白源及び収入源に活用するという事である。

同養殖センターの業務も人員再構成などから次第に多様化してきた。我々協力隊員は、増殖部に所属しており、育成魚養成、親魚養成、種苗生産等が主な仕事となっている。月に一度稚魚育成の平均魚体重を測定し2ヶ月に一度の割合で測定する。

各生簀の収容量と平均魚体重から給餌量を求め販売魚を推定している。最近は現地スタッフの一人が、それらの作業・操作・報告書の提出まで出来る様になり、我々は作業の手伝いや、操作、報告書作成上での質問をうけるという流れに変わってきている。

また網生簀、池については水の循環、量が不備な為、汚れが著しく定期的に掃除しなければならない。餌は当初、日本から送られてきた餌とペルー産の餌を配合していたが、それらの入手が困難なため当国で餌の原料を購入してスタッフの一人が責任管理する様になってきている。次第に現地スタッフに責任が移り、我々協力隊員が関わらなくても良くなる作業も多くなってきた。

親魚の養成に全力を注ぐ

そんな中で、我々が力を注いでいる業務の一つは親魚養成である。現在は生簀が必要数に足りないため、ビタミン等を混入したり、薄く飼ったりしている。採卵期にはその作業も潤滑なものにする為、池へ運んでいる。

親魚の雌雄の選別は、3年以上のものは前年までに済んでいるが、2年魚や、当初販売する予定であった魚の選別を主に生簀上で行わなければならない。

もっとも以前はボートを生簀わく内に入れ、網を片方へ寄せて、波にゆれながら無理な体勢で行なっていたため、故障するものが続出したが、現在は生簀わく上で麻酔剤を用いて行なっており、その作業は簡易化してきている。

またニジマスの卵の熟度鑑別も前年度までは、網生簀上で作業を行なっていたが、本年度は池で麻酔を使っての作業に変わった。ニジマスの卵は、搾出されず腹腔内に長期間留まると日数の経過に従い過熱化する。

そして適正熟期を過ぎると発眼率が低下し、ふ化仔魚に発育不良や奇形が多くなる。そのため約1週間に一度卵の熟度を鑑別しなければならないのである。

卵熟鑑別後採卵・受精を行なうわけだが鑑別をしていても、過熟卵死卵が多いため一尾ずつ採卵、チェック洗卵し数尾分まとめて受精を行なっている。吸水時間は、日本では普通1時間であるがその後も斃死する卵が多いため2時間程後に死卵を取りカウントを取っている。

ふ化率の向上に力を注ぐ

次に、吸水をした後ふ化させるわけだが昨年ティキーナ養殖センターでのふ化率が0.1%以下と極度に悪かったため本年度は比較的ふ化率の良いポンゴ養殖場へ、吸水後の卵の運搬することになった。

運送時間は約3時間余りだが、運搬中に斃死する卵はほとんどない。しかし、ふ化槽へ入れるや否や斃死し出すのでそれをカウントしながら摘出する。その原因解明とふ化率アップの為に、今後とも、より一層の努力を要することはまちがいない。

ふ化管理という点では発眼卵まで週2回、マラカイトグリーンを用いて消毒を行っている。発眼が始まると卵もかなりのショックに耐えるため検卵を行う。この際、死卵異状のある卵も摘出する。

ふ化後も、ふ化槽の底で窒息死したものから水槽菌が拡がるためこれを摘出しなければならない。浮上し始め卵のうが吸収されると給餌を始める。

本年度は、まだポンゴにて浮上まで経過していないが、ティキーナ養殖センターにおける浮上までの生残率は40%位である。

浮上、餌付け後数週間した仔魚は池へ移動されるのだが、例年この頃に停電による大斃死を起こしている。

今年ことは、雨季で停電が頻発する前に暗まくを

張った網生簀へ移動する必要がある。

料理や試食で普及活動も…

我々協力隊は前述した様に増殖部での業務を中心に行ってきたわけだが、今後はさらに、プロジェクト化に供い普及部の業務の占める割合が大きくなってくる。普及業務では、生産された育成魚の販売また普及先の育成魚が潤滑に販売される様に改善して行かなければならない。

しかし現在のニジマス価格が一般庶民にとって高価すぎる事、流通機構が確立されていない事に加えその調理方法も余り知られていない。その為、協力隊紹介展（日本祭）や、農業展示会場で、需要者への普及も試みた。

日本祭では、ニジマス料理の展示、試食、アンケート調査を、そして農業展では、ニジマス料理の写真展示、ニジマス調理の本（21品目掲載）の配布、アンケート調査等を行った。

こうした試みを続けていくことは大変意義の有る事だと思う。他にはセンター内でニジマス養殖に関する講座のクラスを数回開いた。我々は主に農民達にニジマス加工と調理のクラスを受け持っている。

こうしたニジマスの普及活動も、養殖プロジェクトと並行し、今後も続けていく必要がある。

<2回目>

私は昭和62年2次隊員として、ボリヴィア共和国の農牧省水産開発局ティキーナ養殖センターにて、協力活動を行っている。ティキーナ養殖センターは、チチカカ湖の岸にあり、富士山より高い3800メートル以上に位置する。国土の3分の1を占める、この標高3500メートルから4000メートルの地域は、アルティプラーノと呼ばれている。

前号では、ティキーナ養殖センターの目的と、我々協力隊員が、センターでどの様な活動をしているかという点を、主にお話ししたわけでありが、今回は日本とボリヴィア共和国の漁業に関わる違いという点に触れてみたい。

〈主な相違点〉

① 網生簀によるニジマスの育成。これは日本では行われていない。

② 高度が高い（標高3800メートル以上）ため、既成のデータにあてはまらないこと。

③ 2年魚から、親魚として使うことにより、熟度鑑別の方法が少々異なる。(実際に卵を控出して見る。)

④ ニジマスの肉色について。ここボリヴィアでは、ニジマスの肉は赤色だという感覚が強い。

以上の他に、気象・自然条件の違い、人事的なものと様々あるが、先に記した中の、特に④番についてのエピソードをお話ししたい。

我々の住む日本では、ニジマスの肉色は白色であり（だいたい赤色の身などは見た事がない。）、大きさも、小さすぎず大きすぎず程々で、身がしまっているものほど、おいしいと思っている。しかしここボリヴィアでは、肉色が赤く、大型である程味が良いと思われている。まさしく所ちがえば・　と言ったところである。その結果、当初ラパス市において、販売先から肉色が白いと言われ、大量に返品されてしまった。予期もしない出来事となったのだ。その後は、肉色を赤く変える為に色素入り餌料を用いたりして、ようやく販売網を回復することに成功した。この出来事は、私にあらためて外国に来ているのだという事を思い知らせたものであった。

「コロニア・オキナワ」へ

さて、ここで少し水産事情から離れ、私個人の小旅行でのお話しをしてみたい。

皆さんは「コロニア・オキナワ」と言う言葉をご存知だろうか。日本は戦前より南米への移住を行なってきた。初期の移住者には沖縄出身者が多く、移住した先で、彼らの生活協同体であるコロニーを形成した。その、いわゆる日本人村を「コロニア・オキナワ」と呼ぶのである。

ボリヴィアには、ペルーへいったん移住した人達がゴム景気に魅せられ、アンデスを越え、パンド・ベヒ州へやって来たことが始まりである。沖縄からの移住は、戦後琉球政府によって始まった。今では沖縄県が県費で、海外に移住した人々の子女を、日本へ留学させる制度を施しており、受入機関は、琉球大学をはじめ、県内の私立大学におよんでいる。

ボリヴィアからも毎年、1～2名の留学生が、琉球大学に来ている。彼らは、他地域からの留学生とともに、「日本国事情」「日本語」の他スペイン語等を履修することが多い。

今回は、私の学生時代の友人の住む、サンタクルス州にある日本人移住地「コロニア・オキナワ」への旅について簡単にお話ししたい。「コロニア・オキナワ」では、農作物として大豆を栽培している人が多い。他に米・野菜等もあるのだが、大豆が最も採算が採れるそうである。また沖縄独特の作物である、ゴーヤ（にがうり）、ナーベラー（ヘチマ）、オクラなどもあったのだが、時期はずれで余り食べられなかったのは残念である。

畜産業に関しては、カイコを利用して畜産飼料を作っている。そこでカイコを同じ様に、養魚飼料の製作が出来ないかと尋ねたところ、可能なことは可能なのだが国外産の物よりも、割高になるとの返答であった。

刺身を酢醤油で食べる

次に私の専門である漁業についてだが、四方を海で囲まれた沖縄から移住しているだけに、刺身を食べたいと言う人が多く、サバロや、その他の魚を、いったん冷凍して酢醤油で食したりしている。私もサバロの刺身をいただいてみたが、鯉の刺身に似て、小骨が多いものの、思っていた以上においしかった。また魚釣りを楽しむ人も多い。うなぎに似た（当地では"うなぎ"と言っていた。）手足の痕跡のある鱗のない魚がいるそうだが、山椒魚かは虫類の仲間ではないだろうか。

釣だけでなく、中には養殖をしてみたいと言う人もいた。彼は商用ではなく、楽しみでしたいということであったので、魚種によっては可能であろうと答えた。池や沼地も多くあるので、鯉やテラピアを育てるにも、問題となるのは、餌料生物及び再生産時の環境であろう。水温も結構高そうなので、テラピアが育つには良さそうに思えた。実験的に導入するのも興味深いのではないだろうか。施肥養魚なら成功するかもしれないと思った。

さて、現地では日本―沖縄独特の方言―語を話している。しかし、きれいな日本語を話せる人と言うと少なく、方言を日本語だと思い込んでしまう傾向がある。もちろん日本語教師が指導しているのだが、その日本語教師の数が不足して困っており、協力隊もしくは専門家で日本語教育が出来る人の派遣、訪問を望んでいる様であった。

今回の旅行では、他の人々にはなかなか出来ない体験が出来たと思う。また機会あればサンタクルズで過ごしてみたいと思っている。

総合プロジェクトを

前号から引き続き、私の協力隊員としての活動を紹介してきたわけだが、私の任期中だけで、すべてが順調に運ぶ様になることはないだろう。これから先も様々な努力が必要である。私がと感じることは、テイキーナ養殖センターを順調に機能させていくには、今後はより明確に業務の責任分担を行い、機材保守管理や、業務に対する責任感のある人材の育成を総合的に行っていかなければならない。その為にはより経験豊富で専門的に助言も出来る人が必要である。

具体的には、日本をはじめとする水産業における先進諸国から、「養殖一般」「養魚飼料」「水産資源」等の専門技術を身に付け、さらに技術移転を行っていく上で、リーダーとしての人的魅力あふれる個別専門家が、ティキーナ養殖センターに長期間滞在する様な総合プロジェクトが必要だと感じる。

（了）

行平英基 Hideki Yukihura

派遣国：コスタ・リカ
職　種：養殖
隊　次：昭和60年度2次隊（活動期間1985年12月～1987年12月）
出身地：広島県

初　出：「水産世界」1989 8.25（（有）農林水産研究所）

人口240万の小国家

コスタリカは、中央アメリカのニカラグアとパナマの国境にはさまれ（北緯8度0分から北緯11度15分）、日本の約7分の1の国土と約240万人の人口を有する小国家です。海岸線は、その東側がカリブ海に、西側が太平洋に面しており、気候的には、カリブ海側は沿岸貿易風気候、太平洋側は熱帯乾湿交替気候に属します。カリブ海側の海岸線は、ほぼ直線状で、魚介類の養殖に適するような大きな入り江や湾はなく、漁業面では、イセエビ（Panulirus argus）漁が主な収入源となっています。

一方、太平洋側の海岸線は、大きな湾を2つ有し、マングローブ湿地帯も広くみられます。太平洋側での漁業は、主にクルマエビ漁(Penaeus vannamei, P-stylirostris, P oc-cidentalis, P californiensis等)で、その漁獲量は27,000 t（1984年）に及びますが、近年天然エビ漁獲量は、減少傾向にあり、また、世界的なエビ需要の増加も手伝って、マンガル域で養殖池を造成してのエビ（P.vannameiとP.stylirostris）養殖が盛んになりつつあります。

コスタリカ側ではこのエビ養殖池を利用して、カリブ海側の河口に自生するマングローブガキCrassos-trea rhizophoraeを養殖すること、つまり、カキとエビの混養ができないかと考え、養殖試験を始めました。では、以下に、マングローブガキについて紹介します。

3つの小河川に分布

コスタリカでは、マングローブガキは、カリブ海沿岸の河口域に分布していますが、その自治区域はたいへん狭く、現在、3つの小河川の河口域に分布が認められるのみです。一般的に本種カキは、マングローブ（Phizophora属・Avicerria属等）の気根及び支柱根に着生するとされていますがコスタリカの場合、その着生場所の大部分は橋脚で、その表面に幾重にも重なって密生しています。生息場所の水温は約27～35℃、塩分濃度は4～23%です。雨量が多く、塩分濃度が10%以下となる時期には、付着椎貝が見られませんが、カリブ海側の気候には、雨期乾期の区別がないので、椎貝が出現時期は、毎年不規則となっています。自然条件下での本種カキの成長は5ヶ月で平均殻高60mm、全長量23gという結果が出ています。

夢はカキの商品化

カリブ海で採苗した種ガキを、太平洋側のエビ養殖場（水深70～90cm、池面積約3ha）へ移し、プラスチック籠中に約60個づつ収容して、小型筏（アルミ罐又は八方スチロール製の浮きと、角材又は塩ビパイプ製の骨組みを使用）に吊すか又は、マングローブ製の棚の上に置いて養殖します。

養殖籠は、池の水深の半分、水面下30～40cmに位置します。水温は24.2～34.0℃、塩分濃度は31～60‰、溶存酸素量は1.8～10.3cc/lで、特に1月から5月にかけての乾期には、海水の蒸発により、塩分濃度は常に40‰以上、最大で60‰となります。

この期間はへい死個体が多く、又、生残個体には、成長がほとんどみられませんでした。このため乾期には、カキを水深がより深く、ポンピングによる換水率の良いエビ種苗池へ移して養成しています。

現在、このエビ種苗池とエビ養成池の両方に筏を浮かべ、カキの成長差を見ていますが、種苗池の方が塩分濃度27.5～36.5‰と低く、出現する植物プランクトンの種類数や沈殿量も豊富なため良好な成長がみられています。

したがって、この種苗池は、カキ養殖場として、また、乾期の避難場所として適していると思われます。池内の養成カキは雨期の一番よい時期で、一ヶ月に殻高約10mm、全重量約10gの成長を見せ、最大個体の大きさは、殻高130mm、全重量170gでした。

商品サイズは、殻高80mm、全重量50g以上が適当と考えるので、出荷までには8ヶ月以上の養成期間が必要でしょう。将来的には1年1回の収穫をめざして、乾期に池面積の狭いエビ種苗池で、種ガキを成長させ、雨期になってエビ養成池へ移して、商品サイズまでカキを成長させることを考えています。

食品として普及を

次に害敵生物としては、ワタリガニCallinectes spがあり、主に小型のカキを捕食します。これは、

籠に野菜用のビニール網をかぶせることによって、食害を防止しています。

また、付着種として、フジツボと他種のカキがみられるため、2〜3週間に一度、籠内の掃除も含めて、ブラシで除去作業を行なっています。

種苗の供給については、今後、養殖の規模が本格化するにつれ、直線距離にしても220km離れたマングローブガキの自生池から天然の種ガキの供給を目指して、種苗生産の実験を行なうことになり、現在、実験機器や餌料プランクトンの確保を急いでいるところです。 中南米のマングローブガキ生産地としてはキューバ・ベネズエラ・ドミニカ共和国が知られていますが、その生産量（1983年）それぞれ、2370t、755t、23tで主に自国内のレストランやホテルで消費されています。

この状況にひきかえ、コスタリカでは、カキを食べる食習慣すらないためにまず、食品としてのカキの普及を考えなければなりません。

試験的にフランス料理店や大学内でカキ料理を作り、試食会を行なった結果では、コスタリカ人にも評判はよく今後はマスコミを利用してカキの栄養・料理法を含めたマングローブガキの宣伝を行ないコスタリカ側の反応を見てみたいと思っています。

以上コスタリカのマングローブガキ養殖はまだ試験段階ではありますが、将来カキ養殖が地方の漁民、塩田経営者、エビ養殖業者等の副収入となり同時に多くのコスタリカ人にカキの風味を味わっていただけたらと考えています。

（了）

岡本　一　Masaru Okamoto

派遣国：ドミニカ共和国
職　種：養殖
隊　次：平成元年度3次隊（活動期間1990年3月～1993年6月）
出身地：和歌山県

初　出：「水産世界」1992.2.25（（有）農林水産研究所）

キューバに次ぐ広さ

ここドミニカ共和国はカリブ海に浮かぶ島国です。カリブ海の島国と言うと、常夏の小さな島国を想像しがちですが、ところがどっこい、この国は海抜3,000メートル級の山々を抱え、九州がすっぽり入ってもまだおつりがくるだけの国土を有する、カリブではキューバに次いで2番目に大きな国です。

私の配属先は、国連やフォードやケロッグの基金からの援助を受けている半官半民の団体で、和訳にして「山間開発協会」と言い、農業指導を主とした幅広い活動を展開しています。養殖事業は農業指導の一環として位置付けられています。つまり売るためではなく、殆ど自給自足の生活をしている山間部の人々の蛋白源として、各農家、部落に作らせた養殖池の中に無償で稚魚の放流を行っているのです。

資材も餌料もない

私は主に、配属先が有する2ヶ所の種苗生産場にて農家分配用の稚魚生産に携わり、また3人いるカウンターパート（助手）達と共に農家を巡回指導したり、稚魚放流に立ち会ったりしています。配属先の有する漁具は、以前働いていたというアメリカのボランティアの置き網が大一張と、あとは小二張があるのみです。小型のものはコンクリート製の畜養池にやっと使える程度なので、大型の一張で2ヶ所の種苗生産場を賄っているのが現状です。

またこれらの網は使い勝手が悪く、また、手網なども持っていなかったため、日本に発注すべく3ヶ所の漁具製作所に見積りを依頼したのですが、地球の裏側まで送るのはおっうだっのか、ひとつとして返事は来ず何だか日本との距離を感じさせられた1件でした。

養殖池の施肥については、配属先が養鶏もやっていたので、鶏糞と、牛、豚などの畜糞も利用しています。面白いのはある地区の農家でコウモリの糞を利用し水作りに効果を上げていることです。餌は、専ら農家の食事の残りや、家畜の食べ残しなどで、その家畜の糞尿と一緒に池に流れ込んで給餌されるタイプが殆どです。配属先では魚用の配合飼料などという気のきいた物はないのでウサギ用のペレット、豚用の配合飼料を親魚用に利用しています。

やっと種苗生産も軌道に

また、稚魚には豚用のアフレッチョと呼ばれる穀類を配合した粉末状の飼料を与えています。山間部の村では時々肉を売るために広場で牛を殺すことがあるので、その時には駆け付けていってその血をもらいアフレッチョに混ぜて乾燥させたものを稚魚に与えたりもしています。

配属された当初、1カ所の種苗生産場ではすでに種苗を得ている状態で、実際に稚魚もいたため、結構機能しているんだなと思っていました。しかし、その時のものが配属先で初めて作った稚魚で、それまでは他所から稚魚を購入し、もしくは譲り受けていたのだということを後になってから知りました。本当にこれからが大変な時期だったのです。

そこで、カウンターパート達と案を出し合い、いろいろな試みを繰り返しながら努力した結果、種苗生産も少しずつ軌道に乗ってきた様です。着任当時、まだ機能していなかった2つめの種苗生産場でもこの春には何かと種苗を得ました。そこはまだ専用の水源を持たず、現在乾期に入っているため、ひとつの池に親魚を集めその場をしのいでいます。しかし今までは機材申請した水道パイプ類も揃い、貯水用のダムも完成し、工事は着々と進んでいます。

豊富な海洋資源の活用を

配属先はまだ親魚が不足し、漁具に関しても問題はありますが、今始まったばかりですので、あわてずゆっくりでも確実に発展するように努力したいと思っています。

この国はもともと魚を食べる習慣がないので、魚貝類は一部の高級ホテルやレストランで出される程度で、まだまだ非常に高価な物です。しかしこの国は海に囲まれ海洋資源も豊富なので、自然と調和を保ちつつこれらを大いに活用し、魚貝類ももっと一般家庭にとって身近な存在になってもらえればと願っています。

（了）

井川龍二郎 Ryujiro Ikawa

派遣国：パプア・ニューギニア
職　種：養殖
隊　次：昭和60年度2次隊（活動期間1985年12月～1987年12月）
出身地：愛媛県
初　出：「水産世界」1989 2.28（（有）農林水産研究所）

魚はイワシ・サバの缶詰

チンブー州の州都クンディアワはパプアニューギニアのほぼ中心部、標高1,500メートルの高地に位置する人口数千人の小さな町である。この町はこの国の最高峰Mtウィルヘルム（4,509メートル）の麓にあり毎年外国から多くの人々が登山に訪れる観光地でもある。ヤシの木の繁った青い海辺、コバルト色のサンゴ礁の見える海岸部の町とは対称的な風景である。

私はここクンディアワで1985年から87年にかけて青年海外協力隊員として養殖の技術指導に従事した。州政府の第一次産業省水生局に籍を置き、養殖技術のアドバイザーとして水産局保有の養鱒場の運営、管理、及び近隣農村への淡水魚養殖普及活動を行った。

パプアニューギニアは海に囲まれた島国にもかかわらず水産業があまり栄んではない。特に山間部の人たちは魚に接する機会がなかったため、魚を食べる習慣に乏しかったらしい。現在でも海岸部で獲れた魚はあまり山奥には入ってこない。従ってこの辺の農村の人たちは食用としての生の魚を見る事はほとんどない。彼らにとっての食用の魚はサバ、イワシ等の日本や南米チリかせの輸入缶詰なのである。昔と比べて彼らの食生活もだいぶ変わった。タロイモだった主食が、米、牛肉、外国からの輸入品と移った。しかしまだまだこのようなものを食べている者は町の周辺部に住んでいる比較的裕福なもので、多くの農村部の貧しい人たちは昔ながらのものを食べているのが現状である。従って魚はめったに口にできない。

餌料の問題が不可欠

パプアニューギニアの河川の生物相は非常に貧弱である。特に魚類に関してそれが顕著である。私も何度か河川の調査を行ったが数種の魚類を確認しただけであった。

私の行なっていたニジマスの試験飼育は、州政府の考えより、これらの河川に魚の自然繁殖を促し、近隣農村へのタンパク源の供給のために1983年に始められた。私の任期中を含めて、4度程オーストラリアよりニジマスの発眼卵を購入し、当養鱒場でふ化、飼育させ、又その1部を州内の河川へ放流した。餌は牛胆と養鶏用の配合飼料、数種の穀類を混合して与えていた。餌付けを開始して約1年後、魚は100～150gの食用魚サイズになりそれなりの成長を示したが、日本のものと比べると肉質も成長も劣る。途上国では餌の問題が不可欠である。与えるものがない。ニジマスのように、人為的に集約的に養殖する魚種にはそれが深刻に影響してくる。そういう意味で、湖沼等で粗放的に飼う場合を除いてこれらの魚種は途上国に適さない。さらに、熱帯の国で冷水魚を養殖、繁殖させるにはやはり無理がある。ここで標高が2,000メートルでも水温は10℃～12℃で魚の産卵期の水温としては適温とは言えず、人工採卵時の水温としても高い。魚の成長にはさしつかえない水温であるので種苗の自己生産を考えずに養殖種として成りたたせる事もできるが種苗は輸入にたよらざるを得ない。輸入量にも限度があるだろうし、コストも高くなる。多くの問題がでてき結局行き詰まってしまうだろう。従って、将来種苗の自己生産ができない限りこの魚はあまり割のいい養殖種とは言えないというのが私の考えである。しかし、放流後の捕獲報告では、魚が30センチ以上に成長していた。卵をだいていた等の報告もあり、今後の調査の余地の残るところである。要は、この地でニジマスが成熟し、産卵できるかにかかっている。2年という私の短い任期中にはその確認はできなかったが、今後の飼育、調査に期待したい。

養殖の必要性から

ハイランドの人達にも魚を食べて欲しいと思う。私は比較的管理の簡単なコイの幼魚を近隣農村に配布し魚の飼い方を教える事により興味をひこうとした事があるが、話を聞いて幼魚をくれ、地を作るからアドバイスしてくれと言った意欲的な者は少ない。養殖を普及させるという事は魚に対する興味を抱かせ、魚のおいしさ、産業としての商品価値を認識させる事だと思う。この国にはまずそれが重要であると感じた。

一度仕事でマヌス島という南緯3°位に位置する小さい島に養殖の意識調査に行った事がある。内湾

がありここでカキの養殖を始めようという話を聞いたためである。ここはパプアニューギニアの中では比較的水産業の発達した島であり、第一次産業組合のようなものを作り、漁民からの魚の買いとり、魚の価格決定、魚市場の管理等を行なっていた。このような島だから養殖にも興味を持つだろうと思ったのだが、役所のボスから出た言葉は、囲りが海だから獲ればいい、わざわざ陸に池を作って魚を飼う必要はない。養殖などという産業はない、と何を言ってもその一点張りであった。当然と言えば当然であるが、何か自分が何をしに来ているのか虚しくなった事を憶えている。

この国は本質的に豊かな国だと感じる。物質的にも人間的にも。自然にある食物だけで彼らは生きていける。飢えもないし寒さもほとんどない。明るい太陽の下で大らかに笑う彼らをみているとこちらまで楽しくなってくる。南の島特有の彼らの明るさは何ものにもかえがたいこの国の財産のように思えてならない。悩み事もなさそうな彼らには羨望さえ覚える。

最適の協力方法を…

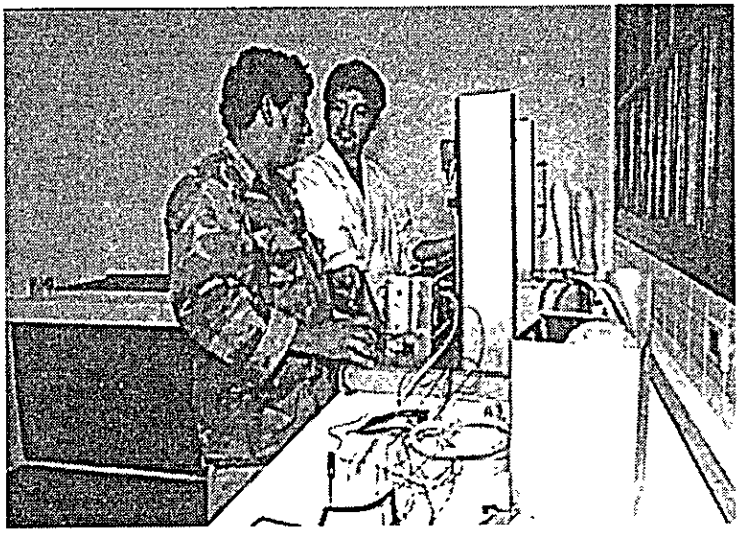
ハイランドの人達は、非常に感情的である。すぐ泣いたり怒ったりする。非常に人間的なのである。彼らは家族を非常に大切にする。助け合う精神が旺盛なのである。彼らの中には日本人が忘れかけた何かがあるように思える。私はここに技術協力に来たのだが、技術力が彼らにとって本当に大切かどうなのか疑問に思う。新しい技術が彼らの何かを変えてしまうように思える。

パプアニューギニアはこれからの国である。我々の協力活動が彼らにとってマイナスにならないよう彼らの方法で国づくりをしていってもらいたい。それが彼らにとって一番良い方法であると思う。いつも、この国の人たちが幸せで、あの明るさがたえることのないよう祈っていたい。

（了）

Japan Overseas Cooperation Volunteers

農林統計・水産統計



〈農林統計〉年度別・国別派遣実績

国　　名	88年度まで	89年度	90年度	91年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度	98年度	総　計
ラオス	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	4
ネパール	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
〈アジア地域〉	1	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	5
ガーナ	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
マラウイ	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
〈アフリカ地域〉	6	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	8
合　　計	7	0	1	1	1	0	0	1	2	0	0	13

〈水産統計〉年度別・国別派遣実績

国　　名	88年度まで	89年度	90年度	91年度	92年度	93年度	94年度	95年度	96年度	97年度	98年度	総　計
マレイシア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
モルディヴ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
〈アジア地域〉	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ケニア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
マラウイ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
〈アフリカ地域〉	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
フィジー	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
パプア・ニューギニア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
〈オセアニア地域〉	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合　　計	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

馬屋原一孝 Kazutaka Umayahara

派遣国:マラウイ
職　種:農林統計
隊　次:平成3年度1次隊(活動期間1991年7月～1992年11月)
出身地:奈良県

初　出:「日本農業新聞」1994.8.28／1994.10.16(2回連載)(全国新聞情報農業協同組合(連))

<1回目>
農業を知らずにマラウイへ

青年海外協力隊は、アジア、アフリカ、中近東、中南米などの開発途上国の人々のために自分の持っている技術を普及させる目的で派遣されている。今回はマラウイで活躍している隊員のレポートを2回に分けて紹介する。

*　　*　　*

最近は、青年海外協力隊に参加を希望される方が多くなったと聞いている。平成6年春の応募数は6301人（昨年秋は5531人）でその中でも農林水産部門は昨年の60%増の1264人と増えている。最近は、特に女性の参加者が多い。

私の任地は、アフリカの南東部に位置するマラウイの北の端、首都リロングェからバスで12時間、タンザニアとの国境近くのカロンガという町。職場は「農業者省カロンガ農業開発局」である。

マラウイという国は、周りのアフリカ諸国と比べても大きく工業化に立ち後れ、主要輸出品はタバコと紅茶である。食料については、平年は国内でまかなっているが、私が行っていた頃、エルニーニョ現象のため農作物に大きな被害を受け海外から援助を受けた。日本では知られていないが、日本からも大量の援助があり、新聞を賑わせていた。農業はマラウイにとって大切な産業であり、政府は農家に対して多方面の支援を行っている。

「農業についての指導」「農業機械の貸し出し」「家畜の病害虫予防・駆除」などこれらを全国的に実施するのが、私の職場「農業開発局」である。

また、ここでは、「各農作物の耕作面積調査」「各農作物の価格調査」「働き手・働き口の調査」「子どもの修学調査」「栄養状態」などの調査も行い、今後の方針決定のため、本省へレポートを提出する。

私の仕事は、これらのデータをコンピューターで処理することである。

ここにコンピューターが導入されたのは私が赴任する数年前である（それ以前に、協力隊員が自分のコンピューターを持ち込んで活用していたことはある)。まだまだ十分な活用がされているとはいえない。また、コンピューターが導入されたといっても、これだけの業務に対して1台である。

中には、「こんなところでコンピューターを導入しても仕方がない。もっと、もの作りに専念した方がいい」と言われる方もおられよう。しかし、私はそうは思わない。すぐには結果が表れなくとも、国レベルでの方針決定や能率の向上は必要不可欠であると考えている。すぐ目の前に見ることができなくとも、多くの人の命が左右される大事な仕事である。

<2回目>
人々は明るく大らかだ

青年海外協力隊は、アジア、アフリカ、中近東、中南米などの開発途上国の人々のために自分の持っている技術を普及させる目的で派遣されている。今回は、アフリカの南東部に位置するマラウイで活躍している隊員のレポートを紹介する。

*　　*　　*

マラウイの食べ物について少し触れておこう。一般的に、マラウイでの主食はトウモロコシである。とはいっても、日本で一般的なスイート・コーンではなく、実の中が白っぽいものである。この実を乾燥させ、小麦粉のような粉にする。これを「メイズ・フラワー」と呼び、店でも買える。食事の時には「メイズ・フラワー」を湯にかき混ぜながら入れていく。これが主食の「ン・シマ」である。淡泊で柔らかく、食べやすい。

次に一般的なのは、米である。この国で一般的な米は、やはりぱさぱさとした粒の長いものだ。しかし、私のいた町では台湾人がおいしい米を作っていた。「キロンベーロ」「ファア」などの品種で水を多めに入れると「おにぎり」が作れるほど粘り気がある。ただし、石がかなり多く混じっているのには閉口した。

また珍しい所では、バナナが主食という所もある。皮は緑色で、かなり厚くて硬い。手でむくことができず、ナイフなどで切り目を入れてむく。生では食べることはできず、肉などと一緒に煮込んだり、焼いて塩をつけて食べたりする。

さて仕事の中で日本と違い、大変だったのは言葉の問題だ。現在、日本ではどこでもほぼ言葉が通じるし、識字率も非常に高い。しかし、ここでは私の受け持つエリアの中でも、いくつもの部族語が使われており、公用語である「英語」や「チュワ語」が通じない所も多い。だから、調査に行く時には通訳してもらう必要がある。私の同僚（マラウイの人）でも同じで、これには大変な手間と時間がかかる。こういったところで、教育の重要性を痛感してしまう。

人々は、概して明るく大らかだ。しかし、お葬式では、身内や友人たちが集まって延々と大きな声で泣き叫びながら列を作っている。周りの原色の風景と同じほど、ストレートな悲しみを表す。それだけに彼らは毎日を一生懸命、真剣に生きているのだと思う。

この国はイギリスから独立後30年間、カムズ・バンダ大統領が終身大統領として、権力を一手に集めていた。しかし、内外からの圧力により今年の5月に選挙があり、新たな体制に移行することになった。これからも、人々の温かい心を失わず、前進してほしいと思う。

（了）

梅村哲夫 Tetsuo Umemura

派遣国：フィジー
職　種：水産統計
隊　次：昭和62年度3次隊（活動期間1988年3月～1990年8月）
出身地：京都府
初　出：「水産世界」1989.6.15（（有）農林水産研究所）

300余りの島に71万人

フィジー共和国は、大小約300の島々から成る、総面積は18000平方キロメーターで四国と同じぐらいの南太平洋の国である。

その300余りの島々には71万5000人（1986年国勢調査）の人々が住んでおり、内訳は原住民であるフィジー人46%、砂糖黍栽培労働者として流入してきたインド人49%、その他オーストラリア人、中国人等である。

フィジー語ヒンディー語が2大言語であり、英語が公用語に採用されている。経済活動の多くの部分をインド人が占め、政治の大部分はフィジー人が占めるといったアンバランスな状態が続いており、1987年の軍事クーデターもこの特殊性に起因する所が大きい。

フィジーでは金が採掘されるのが地下資源の乏しい国である。GDP（国内総生産）は、1987年で約13億2000万FD（FD=フィジードル、カレントエコノミックスタティスティックス、大蔵省統計局作成、速報値）であり一人当り1850FDと中所得開発途上国と言える。（1FD≒07USD）

年々伸びる輸出

私の見る限り、衣食住に関してはLLDC（後発発展途上国）のような危機的状況にはなく、特に食料は豊富にあると思われる。製品に関しては輸入に頼る部分が当然多く、それを買うための外資収入源として輸出産業及び観光業が重要になる。

1987年の輸出品を見ると1位が砂糖の輸出、2位金、3位水産物となっている。観光客は、クーデターの直後、一時激減し、最近また盛返してきており、特にオーストラリア、ニュージーランドから訪れる者が目立つ。

島国では、必然的に水産資源が食料として重要になってくる。フィジーにおいても例外ではなく貝、蟹、ナマコ、ロブスターやリーフ（珊瑚礁）に生息する沿海魚等の魚介類を食する習慣がある。今でもビレッジ（村）では自給自足的な生活をしている所が多く、タロ、キャッサバなどの農作物と共に消費されている。都市部においても重要なタンパク源の1つで他のタンパク源、例えば牛肉、豚肉などと比べると相対的に高価ではあるが、ちょっとした贅沢品として需要が高い。

輸出に関しては魚の缶詰（カツオ、マグロ類）が有名で、そのほか主要なものにナマコを香港や台湾に、真珠貝を日本にそれぞれ輸出している。

このような漁業は年々順調に伸びている反面、数種類の魚介類に乱獲の徴候が現れてきている。昨年もしゃこ貝やある一定の大きさ以下のナマコについて輸出のための捕獲が禁止となった。

このような状況に対応して、水産局では、水産資源や水産物市場の動向を把握するため、統計の整備を進めておりその手助けとして水産統計という職種の協力隊員を要請したわけである。

データーの収集に苦労

私は現在、第1次産業省水産局、資源開発評価部、市場調査課に水産統計者として配属されている。水産局は調査の他に、漁民対象のトレーニング、10メーター前後の漁船の建造、漁業ライセンスの発行、氷の販売なども行なっているが、総計約100名、市場調査課は5名でフィジー全土をカバーしており、かなりの人手不足な状況である。

我々の作成する統計の種類は、消費地水産物流通統計、輸出入統計、海区別生産量統計の3つであり、後者2つは、外部からのデータを基礎に作成し、消費地水産物流通統計に関しては、調査から統計作成まで全てを行わなければならない。

フィジーでは先進国と異なり、水産物の流通経路は多種多様で、誤差の少ない市場調査は非常に困難である。日本なら漁協、荷受け機関、中央卸売り市場等を調査客体に設定し効率よくデータ収集を行なえることが、ここでは各々の漁民が直接、消費者層相手に売買するのが一般的である。

この場合、調査員による面接調査が基本になる。しかしその調査員を雇うのに十分な予算は当然なく、スタッフ自らが全国をカバーすることになる。これらのデータは全て月次で集められ4半期報告書、年次報告書として、フィジー全体の水産物の動向を把握する基礎資料となる。

具体的な調査手順は、フィジーの水産物市場を2つ

に分け、地方市場と地方市場以外とすることから始まる。

地方市場とは、各主要都市にある昔からのマーケットで全国に14ヵ所あり、農作物などと共に魚介類が売買されている。

ここで売買するには、シティーカウンシル（管理者＝各市、町、村）に商品の種類、量に応じて規定の料金を支払わなければならなず、同時にそのマーケットを通った数量が記録される。

さらに、月4回、主にマーケットの1番活発な土曜日に、種別の価格、数量を面接調査し、そこから種別の割合いを算出、シティカウシルの記録と掛合わせてその月の種別の販売量と平均価格を求めるのである。

次に地方市場以外である。この流通経路は実にフィージ国内の魚介類の流通量の65パーセントを占め、ロードサイド（幹線道路沿いに商品を並べ販売）ホテル、レストラン、肉屋、魚屋、スパーマーケット等である。漁民は直接、または仲買人を通して魚介類を売買するのだが、その種、数量等は、天候、漁況に左右され極めて不規則で、当然調査は難しくなる。

そこで我々はこれら調査客体に対し、3ヵ月を1サイクルとした全数の面接調査を行いデータを収集する。もちろん月次データを集めるわけだから毎月行えばより良いのだが、とても人手が足りないのである。この様にして収集された全国のデーターをコンピューター上で、積みあげてゆきフィジー全体の魚介類の流通に関する統計をまとめていくのである。

処理の効率化に取組む

私が配属されてまず最初に始めたことは、調査方法と現地スタッフによるコンピューターでのデーター処理方法の把握であった。

調査方法は、調査を始めてからすでに10年近く経っており、様々な改良が加えられたようで少ない人員、限られた予算の割には効率的なものになってきている。

コンピューターでのデーター処理方法は効率の良いものとは言えなかった。これは、私の前任者が数年前、隊員支援経費で購入したコンピュータから、ここでのコンピューター処理が始まり、その歴史は浅く、スタッフがそれに関する知識を得る機会に恵まれなかったためであろう。

現在、私が特に力を入れているのは、データー処理の効率化と原数値の加工、分析である。全国から集まってくるデーターは国の規模は小さいものの、やはり塵も積もれば山となるがごとく膨大になる。これを本部の3人が市場調査を行いながらコンピューター処理をしていくので、効率化による処理時間の短縮は不可欠である。

また、過去の報告書を見ると水産統計の資料は原数値だけを発表することがほとんどで、昨年との比較ぐらいしか分析は行われていなかった。本来、統計とは手段の1つであり、そこから何かを探りだすもので、資源開発評価部にとって、加工、分析は重要な仕事であり、第1にこれではせっかく苦労して作成した統計資料が十分活用されないことになる。

管理体制の確立を

そこで赴任当初、季節変動など、簡単な時系列分析の手法を紹介したのだが、スタッフはこの新しい仕事には、なかなかタッチしようとせず、さらに調査についても、規則正く出来ず、誤差が大きくなると注意してもなかなか是正されないなどアドバイスをするのは非常に難しかった。

自分の職場にいきなり若い外国人が入ってきて、あれこれ言うのだから当然であろうし、私も赴任前から予想はしていたことだった。

だが時間が経つに従い、徐々にではあるがお互い理解しあえるようになり、私も彼等から学び、彼等も私から学ぶといった関係が生れてきたのである。

彼等について考えるとき、日本人の私から見ると、なんといいかげんな人達だと思うこともあるが、国民性の違い、仕事に対する考え方の違い、さらには軍事クーデターなど社会的背景を考慮に入れると、納得のいく場合がかなり多い。

価値観の違いが意見の対立の根本的原因なのであり、それをお互いが理解し合うことが重要なのである。その上で初めて技術協力という関係が成立っのだと私は考える。

来年3月まであともう1年、現地の人々に教えまた教えられ、共に考えながら、より充実した水産統計の整備、限られた水産資源の管理体制の確立を進めていこうと計画している。

（了）

伊東京子 Kyoko Ito

派遣国：パプア・ニューギニア
職　種：水産統計
隊　次：昭和56年度3次隊(活動期間1982年1月～1986年1月)
出身地：福島県
初　出：「水産世界」1988 9.30 （(有)農林水産研究所）

「南太平洋の楽園の島」

ブーゲンビル島はパプアニューギニアでもいちばん東の端、ソロモン諸島との国境にある。ジャングルの緑深くコバルト色のサンゴ礁からすぐ数千メートルの深い外海に続いている。キエタ空港からわたしの住んでいたアラワの町までの道路は片側はココナツとカカオのプランテーション、そしてもう片側は外サンゴ礁の波が白くくだけ、その所々に小島が浮かぶ海である。まさに南太平洋の楽園の風景である。

ここで1982年から86年まで青年海外協力隊員として活動していた。この島を中心とした北ソロモンズ州の都アラワで政府の水産局に席を置き、水産統計官として必要なデータを収集し分析することが主な仕事であった。わたしが来るまでは水産開発の土台となるべき統計がほとんど取られていなかった。

この州の人口は10万人程でブーゲンビル島、ブカ島と5つの環礁の島々からなり、岐阜県ほどの大きさの州である。島々には大きな漁船などなく、カヌーや船外機付きのボートで漁をするが集中して漁獲物が集められる漁港などはない。町や島の内部に住む人々がほしい時に魚を手に入れるのは難しかった。ローカルマーケットに少し出る程度でとても需要をみたしてはいなかった。赴任前はここに来たら新鮮な魚がたくさん食べられるだろうと思っていたが、そういう状況ではなかった。この島は土地が肥沃でコプラやカカオの生産はこの国で1、2位を競うほどである。また何といっても国家歳入の1／3を占める世界でも有数の銅山があり、オーストラリアをはじめとする外国人が多数出稼ぎに来ている。とにかくこの国の中では特殊な州であった。

はじめに計画したのは漁船センサスである。沿岸の村々を廻り、カヌーやボートの数を記録する。ブーゲンビル島では専業の漁師はほとんど存在せず、人々は農業の合間に漁をする。だから沿海の村民はほとんどが漁業従事者だし、そうでないとも言える。聞きとり調査によると週2度ほど漁に行くと答えた人が多い。離島の場合になると週に4－5回となる。船の数とともに漁具や漁期、水産局への要望など調べる。そこで漁網の縫い方を教えてほしいと言われれば職員と出張したり、若者のグループで漁をしている所のアドバイスなどをする。その他に例えばカヌーからパンダヌスの葉で作った凧をあげそこから糸を水面にたらし、くもの巣と木片をつかったダツなどを取るような伝統的漁法の調査をしたが、老人の話の中だけで今はもうほとんどがすたれている。老人たちはそういった伝統を若者が知りたがらないとこぼしていた。ある離島に行った時、中年の人々が言っていたのは若人は町へ出ていきたがり、残った者たちはキリスト教活動にばかり熱中していて昔からのものを受けつごうとしないということであった。どこの世界でも共通の悩みかもしれない。

上司リンドン氏と

ある村でカツオの漁期を聞いていたらその内のひとりの男が「あんた日本のスパイか」とまじめな顔で言った。それには私もショックだったが話を聞いていくと時々出没するバナナボートと呼ばれる台湾船らしき密漁船に気をよくしていなかったためらしい。同じアジア人で彼らにとっては区別がつかないのは当然だろう。また、わたしの任期中に2度も、離島にシャコガイを密漁に来ていた台湾船が武器を持たない島民たちに捕えられた。この国には取り締まり船は1隻しかなくしかもこの広い海域であるからカバーできるはずがない。それを知っている彼らはまた密漁に来る。

州政府の中にもお雇い外国人や協力隊のようなカナダやイギリスからのボランティアが活動していた。わたしの上司である水産局のボスはイギリス人（ジョン・リンドンさん）であった。彼は魚の血しぶきで服をよごして皆と働く。白人の上司は自らの手を汚さず冷房の効いた部屋で指示するだけの人が多いが、彼は違ったタイプの人であった。彼を中心として、水産局は州の各地点に支所をつくり、いつでも漁民が持って来た魚を買い取り、彼らに氷を渡すといったシステムを作った。そこでその魚を人々に売りまたは時々町へ運ぶ。離島にも月1度の定期船を利用して魚を買いつけに行き氷づめで消費地に運んで来るようになった。これで漁民が安心して漁にいけ、町の人も多く魚にお目にかかれるようになってきた。魚を買いつける時は必ずすべて大まかな種にわけて記録するようにした。以前は水揚げされる魚

が全くばらばらでしかも少量ずつ、この広い州でどうやって漁獲統計を取るかあれこれ試しているところだったのでわたしの仕事は非常にやりやすくなった。

太平洋戦争の後遺症

ここは太平洋戦争中激戦地であった所だ。人々と話していて時々戦争の話がでてくる。今でも日本語を片語ながら話せる老人がいて「タナカを知っているか。」などと聞いてくる。また、心やさしいこの地の人々はわたしに遠慮してかめったに戦争中の日本人のことを悪く言わない。いつもよい話ばかり聞かされる。ある老人は白人たちは食事はいつもわれわれとは別だったが、日本人はいっしょに食べたと言っていた。その他塩のつくり方を教えてくれたとか、すもうを教えてくれたとか。たぶんこれらは戦争も前期で現地の人々と仲よくやっていたころの話であろう。ある村では50歳ぐらいの男性が日本の男性は戦争中にたくさん見たが女をみたのは初めてだといって歓迎してくれた。彼の覚えている日本の歌をいっしょに歌うとまわりの若者たちが大喜びで彼に目をみはっていた。しかし、戦争、しかも自分たちにかかわりのないこの国の人たちが犠牲になっている。ある時、村人は、この村では戦争中日本軍のために銃を取らされ、その他いろいろ働かされた、この代償をどうしてくれるんだと言われた。その時わたしはただ"SOORY"を言うしかできなかった。今わたしは協力隊員として日本からこの国の開発を協力するために来た人だなんてとても言えない。日本人であるというだけでいい思いをいろいろしてきたし、これは私個人の力ではない。その逆に日本人であることでいやな思いをすることがあるのは仕方がない。ここではわたしは日本人の代表のひとりなのだから。その同じ村で別の時、子どもたちが祖父母たちに日本人は村人のめんどうをよく見てくれたということを聞かされてわたしに言っていたのを思い出した。

海産物輸出で試行錯誤

統計の仕事の他に海産物の輸出振興の仕事をやり始めた。これは主にビスラマとよばれる中華料理に使う乾燥ナマコとトロッカスと呼ばれるボタン用の貝である。特にコプラ以外これといった商品作物のない離島の人々にはよい現金収入になり、それらの資源も豊富である。ビスラマは今まで離島の人々が細々と生産して他所から来るバイヤーに貝と共に安く買われていた。わたしがいったころちょうど州に1軒の貝の輸出業者ができてこれらの産物を買いはじめていた。それで今まで生産していなかった人々にも作り方のパンフレットを作って配ったり、デモンストレーションを行なったりした。またよい外国の輸入業者をさがし、こちらの業者につなぎしているうちに貝、ビスラマともに生産量は上がりこの国第1の海産物輸出の州になった。それらの生産はどの地域からどれだけという数字も業者の協力で詳しく取っていった。地元の輸出業者もふえ、これにより漁民からの買い取りの価格が高くなってきたのはよいことであったが、特に貝は小さなものも取る傾向がでてきた。そこで小さな貝を取らないようキャンペーンをはじめた。印刷物を作ったり、小さな木片のペンダントを作って漁民にくばり、この木片の長さより小さい貝はとらないようにと村々をまわった。このキャンペーンの途中、ある離島で老人に、自分たちは昔から指4本分の長さにみたない小貝は取らないというきまりがあると言われ、知らなかったとは言えはずかしい思いをした。この島は海洋民族であるポリネシア人が住んでいる。彼らには伝統的に自らの資源を守る方法があったのだ。水産局は今後禁漁期や禁漁区などの導入を考え資源を守っていくであろう。残念ながら私の任期も途中で終わってしまった。だが自分たちの手で輸出したいと云ってきたこの離島の人々の相談にのり、第1回目の船積みの時の彼らの笑顔を見た時、ほんとうにこの人たちの役に立ったという喜びでいっぱいになった。

この国の人々の生活をみているとほんとうの豊かさって何だろうと思う。自然の恵みを十二分に受け、たぶん彼らには彼らのしがらみがあるだろうが、毎日明るく楽しく生きている。時間にしばられることなく1日は午前と午後と夜とにしかわかれていない。

こんな生活を送っている彼らにいったいわたしたちは何を協力できるというのだろうか。彼らは十分幸せなのではないか、われわれが開発という名のもとによけいなことをして悪影響以外何もあたえられないのではないかと思ったりする。私の場合などかえって彼らから得たものの方が多かった。州政府で働く友人が研修に行く時、研修から帰ってきたら職員をやめて自分の商売を始めると言ったので、政府にお金を出させうら切るようなことをしてよいのかと言うと、彼は、結局は研修が自分の役に立ちそしてそれが政府の中でないにしろ社会のために役立つのだからよいのではないかと言われ、返す言葉がなかった。その後私が帰国して進路相談へ行き大学院へ行き、もっと水産の勉強をしたいと言うと、あなた方は協力隊で行くために国民の税金を使ったのだからこんどはそれを日本社会で働いて還元すべきだと言われた。その時、世界のどこかで役に立てば、それで日本にめぐりめぐって還元されるのではないかと前の友人の言ったことを思い出しながら考えた。

最後にいつまでもこの国の人々が、わたしの友人たちが、幸せに暮らせることを祈りながら、わたし

もこれからの自分の道をさぐっている。

（了）

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁
■アジア				
バングラデシュ	片浦雅之	H3/3	① 野菜	1
	小笠原一博	S59/3	① 農業機械	1
	酒井強志	H元/3	① 村落開発普及員	1
	増山光次郎	H3/3	② 自動車整備	1
	下畦逸次	S62/2	② 電気工事	1
	中村信行	H元/3	② 電子機器	1
	空中修三	S63/2	② 航海術	1
	鈴木隆裕	H元/1	② 土木施工	1
	盛　清司	H3/2	② 土木施工	3
	島田みづき	S63/2	③ 看護婦	1
	梅本喜久江	H元/3	③ 看護婦	5
	江連ひろみ	H3/3	③ 臨床検査技師	1
	岩瀬哲也	S61/2	③ 図学	1
	辻　敏彦	H3/2	③ サッカー	1
	吉田光男	H元/2	③ 空手	1
ブータン	飯塚洋子	H2/3	① 野菜	11
	境　貴志	H3/3	② 電子工学	1
	南川真理子	H元/1	③ 臨床検査技師	2
	藤本武司	S63/3	③ 在庫管理	1
中華人民共和国	阿部喜至夫	H3/2	① 果樹	1
	安田　潔	S63/3	② 自動車整備	3
	安田　潔	S63/3	② 自動車整備	5
	渡辺秀和	H5/2	② 自動車整備	7
	清水多門	S62/3	② 精密機器	1
	南林　正	H元/1	② 精密機器	3
	中居満穂	H3/2	② 土木設計	1
	國枝郁代	S62/3	③ 栄養士	1
	菊地敦子	H2/1	③ 栄養士	4
	星野房子	H元/3	③ 美容師	1
	古川美保	H元/1	③ 婦人子供服	1
インドネシア	山村正勝	H2/2	② 電話線路	1
	近藤康雄	H4/3	② 工作機械	1
	宮内和代	S63/1	③ 看護婦	7
	藤田朝子	H2/2	③ 看護婦	9
	岡本泉美	H3/2	③ 看護婦	11
	宇野哲夫	H5/1	③ 鍼灸マッサージ師	1
	澁谷重夫	H5/2	③ 水質検査	1
	櫻井宜彦	H2/1	③ 化学	1
	後藤篤彦	H3/3	③ 視聴覚教育	1
	安斎俊哉	S63/1	③ 柔道	1
ラオス	三浦　悟	H3/3	① 稲作	1
	牛丸善博	H5/1	① 稲作	3
	石綿浩一郎	H2/3	① 農業土木	1
	内藤盛行	H3/1	② 自動車整備	9
	泊津義代	H3/3	③ 看護婦	12
マレイシア	小田島成良	S61/2	① 稲作	5
	田中修二	S62/2	① 稲作	6
	佐藤秀樹	H元/1	① 稲作	8
	横山和正	S61/3	① 野菜	3
	藤原俊次	S62/1	① 野菜	4
	久保田淳	H元/3	① 野菜	6
	金田克己	H元/1	① きのこ	1
	廣西秀俊	S62/1	① 病虫害	1
	飯塚　昌	S59/3	① 家畜飼育	1
	比嘉勇雄	S62/3	① 土壌肥料	1
	多勢伸一	H元/2	① 農業協同組合	1
	梅澤みき	H元/1	① 農産物加工	1
	栗原優子	H2/1	① 農産物加工	2
	飯沼光生	H2/3	① 養殖	1
	田島義明	S63/3	② 電気工事	3
	坂本住三	S62/3	② 電子機器	4
	末満広志	S62/3	② 電子機器	3
	中西敏男	S62/2	② 電子計算機	1
	岩見和久	H2/2	② 無線通信機	1
	野添雄二	H3/1	③ 作業療法士	1
	小林美幸	H元/3	③ 保母	1
	佐藤　薫	H元/3	③ 視聴覚教育	3
	岩館光重	H元/2	③ 手工芸	1
	宮本純子	S62/2	③ 幼稚園教諭	1
	福永理和	S62/1	③ 体育	1
ネパール	小倉浩一	S60/2	① 野菜	8
	片山正巳	S58/2	① 農業土木	2
	川田晃弘	S62/3	① 養殖	3
	米田直史	H2/2	② 自動車整備	11
	二瓶浩彰	S60/1	② 測量	1
	細田照茂	H2/1	② 都市計画	1
	九鬼宏美	H元/3	③ 臨床検査技師	4
	古海智子	H2/1	③ 栄養士	8
	高橋　久	S62/3	③ 自然エネルギー利用学	1
	小田康子	S62/3	③ 視聴覚教育	5
	小田康子	S62/3	③ 視聴覚教育	7
	岸田　茂	H3/1	③ 理数科教師	1
	小杉　誠	S59/2	③ 体育	3
	金田英子	S62/1	③ 体育	5
	金子　晃	S59/2	③ 柔道	3
フィリピン	小路克雄	S57/2	① 家畜飼育	2
	角川　修	S59/1	① 農業機械	3
	新田美砂人	H2/2	① 養殖	5
	秋庭守正	S53/2後	② 自動車整備	13
	安藤祥二	S58/4	② 自動車整備	15
	越智貫行	H3/3	② 電気機器	1
	藤好紀男	H元/2	② 電子工学	4
	高橋一男	S61/2	③ 柔道	5
	酒井陽子	H3/3	③ 看護婦	14
	辻本直樹	S63/3	③ 臨床検査技師	6
スリ・ランカ	飯塚洋子	S58/3	① 野菜	9
	村橋美代子	S61/1	① 野菜	14
	木島祐子	S61/1	① 野菜	13
	佐々木透	S61/2	① 野菜	15
	鈴木篤志	S61/2	① 家畜飼育	4
	上野三枝子	S62/1	① 家畜飼育	5
	西谷義徳	H元/3	① 家畜飼育	6
	野々部誠	S61/2	① 森林経営	1
	倉田九豪	S61/2	① 漁具漁法	1
	倉田九豪	S61/2	① 漁具漁法	3
	渡辺雄一郎	H3/3	② 自動車整備	16
	野呂幸雄	H2/3	② 電子機器	6
	大野　勉	S63/2	② 電子工学	5
	野田　浩	H元/3	② 電話交換機	1
	浜田康浩	H元/3	② 電話交換機	2
	中島義和	H元/3	② 冷凍機器	1
	梶　恵一	S58/2	② 視聴覚機器	1
	栗山里和	S61/1	③ 家政	1
	小林優子	H元/3	③ 家政	3
	石谷早予子	H元/3	③ 手工芸	3
	星野照美	H元/3	③ 体育	7
	下形敏彦	S60/1	③ バレーボール	1
タイ	遠藤　久	S63/3	① 養蚕	1
	里見洋司	S60/3	① 家畜飼育	7

◆地域・国別索引

索引順位は国名、職種、隊次順となっています。

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁
	佐藤久明	S62/3	① 家畜飼育	9
	小西洋一	H2/2	① 家畜飼育	11
	高橋裕文	H元/2	① 土壌肥料	2
	堤　朝弘	S61/3	① 農業土木	4
	中野晴彦	H元/1	① 農業機械	4
	森泉智子	S62/1	② 陶磁器	3
	小野原孝	S62/2	② 陶磁器	1
	大瀬貴生	S62/3	② 自動車整備	18
	小林拓司	H元/2	② 自動車整備	20
	幸田皇王	H3/1	② 自動車整備	22
	須賀元泰	S61/3	② 電子機器	8
	永野重雄	H元/3	② 電子機器	9
	八幡　聡	H元/3	② 電子計算機	4
	山崎裕司	H2/2	② 船舶機関	1
	斉藤みゆき	H元/1	③ 婦人子供服	3
■中近東				
ジョルダン	原口　忠	H元/1	② 無線通信機	2
	佐藤寿一	S62/2	② 測量	3
	守屋里美	S62/2	③ 体育	9
モロッコ	村田　忠	H元/2	② 養殖	7
	真子潤也	S63/1	② 陶磁器	5
	阿部幸広	S62/3	② 自動車整備	24
	花村豪夫	S62/3	② 自動車整備	26
	大石常夫	H元/3	② 自動車整備	28
	山田龍彦	S62/2	② 電気機器	3
	楠　正宏	H元/2	② 電気機器	5
	八木宏文	H2/3	② 電気工事	4
	井川　久	S61/2	② 電子機器	10
	藤井克巳	H元/3	② 土木施工	5
	石黒正彦	H元/3	② 土木施工	6
	中村清郎	S61/3	② 測量	5
	鳩田靖久	H2/1	② 測量	7
	門口義明	S62/2	② 建築	1
	鈴木良直	S62/2	② 建築	3
	松崎一明	H3/2	② 建築	5
	井上博司	S62/3	③ 写真	1
	井上博司	S62/3	③ 写真	3
	徳登志夫	S61/2	③ バレーボール	3
	岩井貴人	H2/2	③ 柔道	7
スーダン	宇佐見由加	H2/2	③ 臨床検査技師	8
シリア	宮川幸二	S62/1	① 獣医師	1
	阿部倫久	S60/1	① 養殖	8
	神尾誠司	S61/2	① 養殖	10
	森田　功	S62/2	② 測量	9
	松原　渉	S62/2	③ バレーボール	5
	杉田邦子	S63/1	③ 体育	11
テュニジア	徳山晴一	S62/3	② 電子機器	11
■アフリカ				
エティオピア	村田秀行	S62/1	① 稲作	9
	塩見慎次郎	S61/1	① 野菜	16
	橋田　博	H元/1	① 果樹	3
	塩飽康利	S61/2	① 農業土木	6
	小島正男	H元/1	① 農業土木	8
	神倉　潤	S62/2	② 自動車整備	29
	山田英晶	S62/2	② 自動車整備	31
	星澤正浩	S62/2	② 電気機器	6
	田村正弘	H2/2	② 電気機器	7
	大高明夫	S61/2	② 測量	11

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁
エティオピア/ザンビア	小川正尋	H元-2/H3編替	② 自動車整備	33
ガーナ	高橋知見	H3/1	① 稲作	10
	三木　誠	S61/3	① 野菜	17
	星　洋介	S62/2	① 野菜	18
	伊藤正彦	S63/2	① 野菜	20
	金子純久	S56/2	① 農業機械	5
	福永郁夫	S62/2	① 農業機械	8
	武辺寛則	S61/2	① 村落開発普及員	2
	新岡隆二	H元/2	① 村落開発普及員	4
	高橋信吾	S60/1	① 漁具漁法	4
	大田知久	S62/2	② 自動車整備	35
	斎藤秀昭	S62/2	② 自動車整備	37
	大黒弘樹	S62/3	② 電子機器	12
	中村健一	H3/2	② 電話線路	3
	宮路徳男	S62/2	② 工作機械	3
	福川　治	H3/2	② 工作機械	5
	中村政志	S59/3	② 視聴覚機器	3
	若林敏弘	S60/3	② 建設機械	1
	足立保彦	H元/3	② 通信電力	1
	児玉幸人	S62/1	② 土木施工	7
	山本清太	H3/1	② 建築施工	1
	本田恵子	S62/3	③ 臨床検査技師	10
	関　加代子	H3/1	③ 手工芸	4
	倉田久恵	S62/2	③ 婦人子供服	5
	中出理恵子	S62/3	③ 婦人子供服	7
	川口栄一	S63/1	③ 理科教師	1
ケニア	大野和徳	S60/3	① 園芸作物	1
	森川伸昭	S63/1	① 家畜飼育	12
	森丘貴宏	S60/3	① 漁具漁法	6
	伊藤　毅	S62/3	① 養殖	11
	堀江克之	H2/3	① 養殖	13
	高石一朗	S60/2	② 自動車整備	39
	内野直也	S62/2	② 自動車整備	41
	中村光之	S63/1	② 自動車整備	43
	北村仁志	H3/1	② 自動車整備	45
	木立孝志	H3/3	② 自動車整備	49
	浅川敬三	H3/3	② 自動車整備	47
	井上善次郎	S59/3	② 電気機器	8
	森田高広	S61/1	② 電子機器	13
	池ノ本利治	S62/2	② 電子機器	14
	北原仁美	S62/3	② 電子機器	16
	和田治夫	S62/1	② 電子工学	6
	土橋　傑	H3/2	② 土木施工	9
	井戸正治	S62/2	② 建築	6
	安藤ゆう子	S63/3	③ 婦人子供服	8
	山本竜正	S62/2	③ 柔道	9
	山本竜正	S62/2	③ 柔道	11
	山本竜正	S62/2	③ 柔道	13
リベリア	深澤公史	S60/1	① 食用作物	1
	富樫　正	S62/2	② 自動車整備	51
	永尾丈二	S62/3	② 建築製図	1
リベリア／ジンバブエ	石渡　仁	H元-1/H2-編替	② 自動車整備	53
マラウイ	南　雄三	H元/3	① 野菜	21
	草地千里	H3/2	① 果樹	4
	牧野真理	S60/3	① 家畜飼育	13
	本山　彰	S62/2	① 家畜飼育	15
	原口敏明	S60/2	① 養鶏	1
	吉岡　剛	S61/1	① 養鶏	3
	吉岡　剛	S61/1	① 養鶏	4
	阿久津基弘	H3/3	① 養鶏	5

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁
	久保田早苗	S62/2	① 獣医師	3
	橋本能子	H2/2	① 獣医師	5
	樋口　充	H3/1	① 獣医師	7
	尾関　修	H元/2	① 農業土木	9
	坂井勇夫	S61/2	① 森林経営	2
	馬屋原一孝	H3/1	① 農林統計	1
	大田　忍	S60/1	② 自動車整備	55
	長峰　敦	H元/2	② 自動車整備	56
	入谷　隆	H3/3	② 自動車整備	58
	鈴木祝雄	S60/3	② 電気工事	5
	工藤雅明	S62/2	② 電子工学	8
	桑原宏仁	S61/3	② 冷凍機器	2
	桑原宏仁	S61/3	② 冷凍機器	4
	元位喜秀	H元/2	② 無線通信機	4
	今村　浩	H元/2	② 土木施工	11
	関根信一	S62/1	② 測量	15
	徳丸周志	S62/2	② 測量	13
	山田英之	H元/3	② 測量	16
	西川忠明	S62/3	② 建築	8
	吉田和弘	S61/2	③ 臨床検査技師	12
	薬師寺小百合	H2/2	③ 臨床検査技師	14
	松井麗子	H元/2	③ 栄養士	10
	鐵田靖子	S63/2	③ 秘書	1
	澤野新一郎	S61/2	③ 写真	5
ニジェール	太田恵美	S63/2	① 野菜	23
	平林輝美	S62/2	① 獣医師	9
	橋本康子	H元/2	① 土壌肥料	3
	奥山輝志	H2/2	② 溶接	1
	佐藤　裕	S61/2	② 自動車整備	59
	近藤文彦	S62/2	② 自動車整備	61
	妹尾善則	S62/2	② 自動車整備	63
	横山直人	S63/1	② 自動車整備	65
	矢口義光	S63/2	② 自動車整備	67
	潤上哲也	H2/2	② 自動車整備	69
	藤川宗一	S62/3	② 電気機器	9
	満留典理	S62/1	② 建設機械	3
	米倉英子	H2/3	③ 栄養士	12
	藤間正志	S62/1	③ 柔道	15
	佐藤一也	H元/2	③ 柔道	17
	岡嶋正和	S62/1	③ 空手	2
ルワンダ	牧田安史	S62/3	② 電子機器	18
	吐綬　修	S63/2	③ 臨床検査技師	16
セネガル	菊池香波	H元/1	① 家畜飼育	17
	鈴木　稔	S57/2	① 養殖	15
	白石　豊	H元/2	② 浄水場機械	1
タンザニア	田井勇次	S62/2	① 農業土木	11
	大沢幸生	S61/3	① 森林経営	4
	安　洋巳	H元/1	① 森林経営	6
	南川拓作	S60/1	② 陶磁器	6
	近藤浩美	S62/2	② 陶磁器	7
	森谷　均	S61/3	② 自動車整備	71
	常松信人	S62/3	② 自動車整備	73
	久保政幸	H元/1	② 自動車整備	75
	永末九州男	H3/2	② 自動車整備	76
	清水信之	S62/3	② 電気工事	6
	植村新一	S62/3	② 土木施工	13
	青山芳貴	S63/1	② 土木施工	15
	大道寺徹	H2/1	② 土木施工	17
	山川　愛	H2/2	③ 臨床検査技師	18
	似鳥郁子	S61/1	③ 作業療法士	3

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁
	徳永辰巳	S60/1	③ 在庫管理	2
ザンビア	阿部吉夫	S59/1	① 野菜	24
	萩原　博	S57/2	① 獣医師	11
	篤沢秀之	S61/1	① 獣医師	13
	石原登美子	S61/3	① 獣医師	15
	木下秀俊	H元/1	① 獣医師	17
	本谷美智代	H2/1	① 獣医師	19
	樫本尚文	H2/2	② 自動車整備	77
	岡本淳一	H2/2	② 電子機器	19
	鈴木良明	S59/1	② 冷凍機器	6
	服部御彦	H2/2	② 無線通信機	5
	村山由孝	S62/2	② 土木設計	4
	山寺　彰	H2/1	② 測量	18
	眞木裕子	H元/2	③ 栄養士	15
ジンバブエ	村井洋介	H4/1	③ 野球	1
■中南米				
ボリヴィア	小泉雅弘	H3/3	① 野菜	25
	石岡　司	S61/1	① 果樹	6
	藤井淑子	S62/1	① 獣医師	20
	篇　光博	H2/3	① 獣医師	23
	百田龍治	S62/2	① 農産物加工	4
	石塚治男	S58/3	① 養殖	18
	石塚治男	S58/3	① 養殖	20
	澤志泰正	S62/2	① 養殖	22
	澤志泰正	S62/2	① 養殖	24
	池田　武	S62/2	② 電気機器	11
	吉田　誠	S62/1	② 電気工事	8
	吉田　誠	S62/1	② 電気工事	10
	鈴木一代	S61/1	② 電子機器	21
	板橋悦子	S62/1	③ 助産婦	1
	安食愛彦	H2/2	③ 臨床検査技師	19
	水本洋子	H3/2	③ 栄養士	17
	水本洋子	H3/2	③ 栄養士	19
	北山恭子	S62/2	③ 手工芸	6
コロンビア	板橋宏晩	S62/3	① 野菜	27
	相馬多一郎	S62/2	① 村落開発普及員	5
	石田光洋	H元/3	① 水産物加工	1
コスタ・リカ	広瀬　泉	S61/1	① 野菜	29
	間瀬朝夫	S62/2	① 野菜	31
	軌印拓輔	S63/1	① 野菜	32
	中條信介	S60/2	① 家畜飼育	19
	下久保綾子	H3/1	① 家畜飼育	20
	富岡丈朗	S60/1	① 農業機械	9
	行平英基	S60/2	① 養殖	27
	塚本利夫	H元/3	② 自動車整備	79
	有薗正文	S62/2	② 電子工学	10
	秋山正治	S63/2	② 電子工学	9
	東井克己	H3/1	② 電子工学	11
	中川典之	S60/1	② 視聴覚機器	4
	今井信之	H2/2	③ 視聴覚教育	9
	池水佐千子	H3/1	③ 手工芸	8
	米倉美子	S61/3	③ 水泳	1
	伏見勝利	S62/1	③ 柔道	18
ドミニカ共和国	岡本　一	H元/3	① 養殖	29
	高森敏郎	S62/3	② 自動車整備	80
	浅井俊一	H元/3	② 冷凍機器	8
	國頭伸子	H元/1	③ 作業療法士	4
	笹川泰利	H元/1	③ 体操競技	1
エクアドル	西森智光	H3/2	② 電子機器	22

◆地域・国別索引

索引順位は国名、職種、隊次順となっています。

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁
	川上真哉	H5/1	② 電子機器	24
	伊藤美智子	H3/3	③ 栄養士	21
	児玉郁子	H3/3	③ 映像	1
	山畑孝志	H3/3	③ 視聴覚教育	11
エル・サルヴァドル	北野日士	S46/3	③ 水泳	2
グァテマラ	林かおり	S63/3	① 野菜	34
	小坂重樹	H3/3	① 野菜	35
	大木智之	H3/2	① 養蜂	1
	金子修一	H3/1	① 植林	1
	秋山　亘	H元/1	② 精密機器	5
	木下健二	H3/2	② 土木施工	19
	高須好子	H元/3	③ 婦人子供服	10
	石村久美代	H3/1	③ 婦人子供服	12
	折口文宏	H元/1	③ 陸上競技	1
	林　千鄭	H元/1	③ 水泳	4
	不破　央	H5/1	③ 水泳	6
	吉水直保	H元/1	③ バレーボール	7
	西　智弘	H元/3	③ ソフトボール	1
	笠井義晃	H元/1	③ 野球	3
	中畑　桂	H元/2	③ 空手	3
ホンデュラス	清水　裕	S62/2	① 花き	1
	鈴木あや子	S62/3	① 花き	2
	近藤喜代美	H2/2	① 花き	4
	大道雅之	S60/1	① 野菜	37
	浜田守彦	S61/1	① 野菜	38
	伊船弘志	H元/1	① 野菜	40
	菊地徹吉	H3/1	① 野菜	41
	間瀬　満	S62/3	① 果樹	7
	石井昌樹	S62/2	① 農業土木	13
	佐藤勝正	H元/1	① 農業土木	14
	葉野久夫	S61/2	① 村落開発普及員	6
	青西鋪夫	S62/2	① 村落開発普及員	8
	木伏克実	S63/2	① 村落開発普及員	9
	大淵喜隆	S59/2	① 食品加工	1
	坂田重登	H元/3	① 漁具漁法	8
	中村博典	S62/1	② 自動車整備	82
	伊藤敏彦	H元/3	② 自動車整備	84
	安藤聖一	H2/3	② 自動車整備	86
	丸橋奈津子	H3/2	② 自動車整備	88
	丸橋奈津子	H3/2	② 自動車整備	90
	丸橋奈津子	H3/2	② 自動車整備	92
	遠山　満	S60/1	② 電子機器	25
	岡村康夫	S62/2	② 電子機器	26
	平岩　正	S63/3	② 電子機器	27
	條原比呂志	H元/2	② 電子機器	28
	植松信吉	H元/1	② 電話交換機	3
	杉山俊一	H元/1	② 電話線路	5
	煙橋謹吾	H元/2	② 冷凍機器	10
	番地亨勝	S62/3	② 航海術	3
	番地亨勝	S62/3	② 航海術	5
	吉川敬子	H2/1	③ 栄養士	23
	森井美香	H2/2	③ 視聴覚教育	12
	川口　茂	H2/2	③ 潜水指導	1
	池ヶ谷洋美	S62/2	③ 家政	5
	藏下順子	H元/1	③ 家政	7
	内田早苗	H元/1	③ 家政	9
	安藤幸子	H元/3	③ 家政	10
	鈴木賢一	S62/2	③ 体育	13
	菊池威臣	S62/3	③ 体育	15
	菊池泰雄	S62/3	③ 体育	17

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁
	関谷武司	H元/2	③ 体育	19
	川畑春彦	H元/3	③ 柔道	20
ジャマイカ	林由美子	H元/1	③ 臨床検査技師	21
ニカラグァ	小林裕次	H3/3	③ 野球	4
パナマ	宗石喜美	H3/2	③ 栄養士	25
パラグァイ	米井尚道	S63/1	① 花き	5
	村上　健	S62/3	① 野菜	43
	武岡鳴人	H元/2	① 果樹	8
	三枝正彦	S61/2	① 獣医師	25
	花井博之	S62/2	① 獣医師	28
	大澤健司	H元/1	① 獣医師	30
	井星哲也	H元/3	① 獣医師	32
	上山則夫	S62/2	① 農業協同組合	2
	木村正弘	S61/2	② 無線通信機	7
	大西真由美	H2/1	③ 保健婦	1
	成田笑里子	S62/1	③ 家政	11
	菊山順子	S62/2	③ 家政	13
	井口昭夫	S60/2	③ 体育	20
	盛重浩一	S62/1	③ 陸上競技	3
ペルー	松寡恵介	S61/1	① 獣医師	34
	江塚利幸	S57/3	① 農業土木	16
	土岐昭彦	S62/2	② 土木施工	21
	若狭高秀	H元/1	② 建築	10
	石川みどり	H元/1	③ 栄養士	27
	杉村裕子	H元/2	③ 栄養士	29
	石田真弓	H元/2	③ 婦人子供服	14
	江川恵子	S61/1	③ 体育	22
ペルー/ニカラグァ	水谷哲男	H2·2/H3·振替	② 視聴覚機器	5
ペルー/パナマ	佐々木理世	H2·3/H3·振替	① 稲作	12

■大洋州

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁
フィジー	小島英隆	H元/3	① 稲作	14
	梅村哲夫	S62/3	① 水産統計	1
	吉川京樹	H元/3	② 自動車整備	94
	東　誠	S63/3	② 航海術	7
	渡辺　進	S63/2	② 浄水場機械	8
	武藤直登	H元/3	② 土木施工	23
	杢尾雪絵	S62/2	② 都市計画	3
パプア・ニューギニア	大和田俊雄	S60/3	① 野菜	48
	渡辺晃徳	S63/1	① 野菜	45
	鶴田博信	H元/3	① 野菜	49
	千葉善康	S60/2	① 家畜飼育	22
	丸尾　朗	S55/2	① 養殖	6
	出井　務	H3/2	① 農業機械	10
	伊藤淳雄	S63/2	① 漁具漁法	10
	井川龍二郎	S60/2	① 養殖	30
	伊東京子	S56/3	① 水産統計	3
	宮澤敏幸	S62/1	② 自動車整備	96
	松原庄平	H2/2	② 自動車整備	98
	松川智典	H4/1	② 自動車整備	100
	野口信雄	S62/3	② 船舶機関	3
	玉腰良人	S62/3	③ 柔道	21
	持田智男	S57/1	③ 合気道	2
	小野健次	S62/2	③ 合気道	3
	冲原健嗣	H元/1	③ 合気道	1
トンガ	石間　宗	S62/2	① 野菜	50
	斎藤明弘	S61/1	② 電気工事	11
	長坂雅文	S56/3	② 船舶機関	5
	辻林英高	H3/3	② 船舶機関	7
	中野友由枝	S62/3	③ 臨床検査技師	22

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁
	小川幸子	S63/1	③ 家政	15
	村上悦子	S63/3	③ 家政	17
西サモア	長縄弘美	H3/3	② 通信電力	2
	兵頭吉之	S60/2	① 野菜	51
	相木　寛	S62/2	② 土木施工	24
	林　正巳	S63/2	② 自動車整備	102
ソロモン諸島	石崎程之	H2/1	① 村落開発普及員	10
	石井優一	S61/1	① 漁具漁法	12
	高橋和久	S62/2	① 漁具漁法	15
	戸田誠人	S62/3	① 漁具漁法	17
	杉山俊士	H2/1	① 漁具漁法	19
	小西憲治	H元/2	② 自動車整備	104
	岩男靖司	S62/2	② 船舶機関	9
	岩男靖司	S62/2	② 船舶機関	11
	久慈広信	H元/2	② 船舶機関	13
	柳原　整	S62/2	② 土木施工	26
	内山玲子	H3/3	③ 看護婦	16
	川畑さつき	S63/1	③ 臨床検査技師	23
	高橋宏彰	H3/2	③ 経済	3
	飛間昌巳	H3/2	③ 経済	1
	小坂郁夫	H元/3	③ 合気道	5
ミクロネシア	磯元賢志	H2/1	② 土木設計	6
	八坂由美	H2/2	③ 放送	1
マーシャル諸島	姫野唯一	H3/1	② 船外機	1
	伊藤嘉章	H3/2	② 土木施工	28
	高谷春美	H3/1	③ 日本語教師	1

国名	氏名	隊次	ファイル・職種	頁

◆掲載誌（紙）索引

索引順位は発行日、氏名(A、B、C～)順となっています。

■医道の日本（㈲医道の日本社）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
宇野哲夫	1995/2/1発行	H5/1	インドネシア	③ 鍼灸マッサージ師	1

■栄養と料理（女子栄養大学出版部）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
國枝郁代	1989/3/1発行	S62/3	中華人民共和国	③ 栄養士	1
内田早苗	1992/7/1発行	H元/1	ホンデュラス	③ 家政	9
松井幾子	1995/2/9発行	H元/2	マラウイ	③ 栄養士	10

■栄養日本（㈳日本栄養士会）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
吉川敬子	1992/12/25発行	H2/1	ホンデュラス	③ 栄養士	23

■エキスパートナース（㈱照林社）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
藤田朝子	1993/4/20発行	H2/2	インドネシア	③ 看護婦	9
江邊ひろみ	1994/4/12発行	H3/3	バングラデシュ	③ 臨床検査技師	1
岡本泉美	1994/4/12発行	H3/2	インドネシア	③ 看護婦	11
内山玲子	1995/2/25発行	H3/3	ソロモン諸島	③ 看護婦	16
宇佐見由加	1995/2/25発行	H2/2	スーダン	③ 臨床検査技師	8

■NGO協力情報（㈳国際食糧農業協会）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
小泉雅弘	1993/7/25発行	H3/3	ボリヴィア	① 野菜	25
下久保綾子	1993/10/5発行	H3/1	コスタ・リカ	① 家畜飼育	20
橋本能子	1994/1/25発行	H2/2	マラウイ	① 獣医師	5
近藤喜代美	1994/5/20発行	H2/2	ホンデュラス	① 花き	4
高橋知見	1994/10/10発行	H3/1	ガーナ	① 稲作	10
牛丸善博	1995/2/20発行	H5/1	ラオス	① 稲作	3

■FHJ（（財）家庭クラブ）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
高須好子	1992/10/1発行	H元/3	グァテマラ	③ 婦人子供服	10

■エレクトロニクス実装技術（㈱技術調査会）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
境　貴志	1995/2/20発行	H3/3	ブータン	② 電子工学	1

■OHM（㈱オーム社）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
和田治夫	1989/9/12発行	S62/1	ケニア	② 電子工学	6

■オートメカニック（㈱内外出版社）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
小川正尋	1992/12/3発行	協力隊	エティオピア/ザンビア	② 自動車整備	33

■オリンピアン（㈱ベースボールマガジン社）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
折口文宏	1992/11/14発行	H元/1	グァテマラ	③ 陸上競技	1
不破　央	1993/7/13発行	H5/1	グァテマラ	③ 水泳	6

■カー&メインテナンス（㈱日整連出版社）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
安藤祥二	1988/8/25発行	S58/4	フィリピン	② 自動車整備	15
斎藤秀昭	1988/9/25発行	S62/2	ガーナ	② 自動車整備	37
神倉　潤	1988/11/25発行	S62/2	エティオピア	② 自動車整備	31
森谷　均	1988/12/25発行	S61/3	タンザニア	② 自動車整備	71
大田知久	1989/3/25発行	S62/2	ガーナ	② 自動車整備	35
高石一朗	1989/4/25発行	S60/2	ケニア	② 自動車整備	39
中村博典	1989/5/25発行	S62/1	ホンデュラス	② 自動車整備	82
宮澤敏幸	1989/6/25発行	S62/1	パプア・ニューギニア	② 自動車整備	96
内野直也	1989/8/25発行	S62/2	ケニア	② 自動車整備	41
高森敏郎	1989/11/25発行	S62/3	ドミニカ共和国	② 自動車整備	80
花村豪夫	1989/12/10発行	S62/3	モロッコ	② 自動車整備	26
大瀬貴生	1989/12/25発行	S62/3	タイ	② 自動車整備	18
常松信人	1990/1/25発行	S62/3	タンザニア	② 自動車整備	73
横山直人	1990/6/25発行	S63/1	ニジェール	② 自動車整備	65
近藤文彦	1990/7/25発行	S62/2	ニジェール	② 自動車整備	61
妹尾善則	1990/7/25発行	S62/2	ニジェール	② 自動車整備	63
安田　潔	1990/8/25発行	S63/3	中華人民共和国	② 自動車整備	3
佐藤　裕	1990/9/25発行	S61/2	ニジェール	② 自動車整備	59
矢口義光	1990/12/25発行	S63/2	ニジェール	② 自動車整備	67
中村光之	1991/3/25発行	S63/1	ケニア	② 自動車整備	43
安田　潔	1991/7/25発行	S63/3	中華人民共和国	② 自動車整備	5
伊藤敏彦	1991/8/25発行	H元/3	ホンデュラス	② 自動車整備	84
吉川京樹	1991/11/25発行	H元/3	フィジー	② 自動車整備	94
小西憲治	1992/1/25発行	H元/2	ソロモン諸島	② 自動車整備	104
長峰　敦	1992/4/5発行	H元/2	マラウイ	② 自動車整備	56
久保政幸	1992/7/25発行	H元/1	タンザニア	② 自動車整備	75
丸橋奈津子	1992/8/25発行	H3/2	ホンデュラス	② 自動車整備	88
丸橋奈津子	1993/4/5発行	H3/2	ホンデュラス	② 自動車整備	90
内藤盛行	1993/5/5発行	H3/1	ラオス	② 自動車整備	9
浅川敬三	1993/8/25発行	H3/3	ケニア	② 自動車整備	47
丸橋奈津子	1993/9/25発行	H3/2	ホンデュラス	② 自動車整備	92
増山光次郎	1993/11/25発行	H3/3	バングラデシュ	② 自動車整備	1
姫野唯一	1994/2/25発行	H3/1	マーシャル諸島	② 船外機	1
木立孝志	1994/3/25発行	H3/3	ケニア	② 自動車整備	49
永末九州男	1994/5/25発行	H3/2	タンザニア	② 自動車整備	76
米田直史	1994/8/25発行	H2/2	ネパール	② 自動車整備	11
石渡　仁	1994/11/25発行	協力隊	リベリア/ジンバブエ	② 自動車整備	53

■海外新聞（㈳日本海外協会）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
三木　誠	1988/11/1発行	S61/3	ガーナ	① 野菜	17
木村正弘	1989/1/1発行	S61/2	パラグァイ	② 無線通信機	7
倉田九豪	1989/12/25発行	S61/2	スリ・ランカ	① 漁具漁法	3
西川忠明	1990/3/26発行	S62/3	マラウイ	② 建築	8
米倉美子	1990/6/25発行	S61/3	コスタ・リカ	③ 水泳	1
盛重浩一	1990/9/25発行	S62/1	パラグァイ	③ 陸上競技	3
笠井義晃	1990/12/25発行	H元/1	グァテマラ	③ 野球	3
新岡隆二	1992/1/25発行	H元/2	ガーナ	① 村落開発普及員	4
酒井強志	1992/6/25発行	H元/3	バングラデシュ	① 村落開発普及員	1
石綿浩一郎	1992/11/25発行	H2/3	ラオス	① 農業土木	1

■海技士コース（海文堂出版㈱）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
長坂雅文	1988/9/25発行	S56/3	トンガ	② 船舶機関	5
野口信雄	1989/6/22発行	S62/3	パプア・ニューギニア	② 船舶機関	3
番地亨勝	1989/8/25発行	S62/3	ホンデュラス	② 航海術	3
岩男鎮司	1989/9/25発行	S62/2	ソロモン諸島	② 船舶機関	9
空中修三	1989/12/25発行	S63/2	バングラデシュ	② 航海術	1
東　誠	1990/3/28発行	S63/3	フィジー	② 航海術	7
番地亨勝	1990/6/25発行	S62/3	ホンデュラス	② 航海術	5
久慈広信	1991/12/25発行	H元/2	ソロモン諸島	② 船舶機関	13
杉山俊士	1993/2/25発行	H2/1	ソロモン諸島	① 漁具漁法	19
山崎裕司	1993/9/25発行	H2/2	タイ	② 船舶機関	1

■花き園芸新聞（㈱花き園芸新聞社）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
米井尚道	1992/4/25発行	S63/1	パラグァイ	① 花き	5

■学園随筆（㈱学園書房）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
岸田　茂	1994/11/5発行	H3/1	ネパール	③ 理数科教師	1

■果実日本（日本園芸農業協同組合㈳）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
間瀬　満	1990/2/25発行	S62/3	ホンデュラス	① 果樹	7

■学研ピコロ（㈱学習研究社）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
宮本純子	1989/8/1発行	S62/2	マレイシア	③ 幼稚園教諭	1

■学校体育（㈱日本体育社）

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
井口昭夫	1988/11/25発行	S60/2	パラグァイ	③ 体育	20
下形敏彦	1990/4/25発行	S60/1	スリ・ランカ	③ バレーボール	1

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
金田英子	1991/4/25発行	S62/1	ネパール	③ 体育	5
鈴木賢一	1991/12/25発行	S62/2	ホンデュラス	③ 体育	13
笹川泰利	1992/5/25発行	H元/1	ドミニカ共和国	③ 体操競技	1

■家庭科教育(㈲家政教育社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
池ヶ谷洋美	1989/7/21発行	S62/2	ホンデュラス	③ 家政	5
成田笑里子	1989/9/21発行	S62/1	パラグァイ	③ 家政	11
栗山里和	1989/10/21発行	S61/1	スリ・ランカ	③ 家政	1
菊山順子	1990/1/21発行	S62/2	パラグァイ	③ 家政	13
北山恭子	1990/3/1発行	S62/2	ボリヴィア	③ 手工芸	6
中出理恵子	1990/9/25発行	S62/3	ガーナ	③ 婦人子供服	7
倉田久恵	1990/11/25発行	S62/2	ガーナ	③ 婦人子供服	5
小川幸子	1990/12/25発行	S63/1	トンガ	③ 家政	15
村上悦子	1991/4/25発行	S63/3	トンガ	③ 家政	17
安藤ゆう子	1991/10/21発行	S63/3	ケニア	③ 婦人子供服	8
蔵下順子	1991/12/21発行	H元/1	ホンデュラス	③ 家政	7
斉藤みゆき	1992/2/1発行	H元/1	タイ	③ 婦人子供服	3
安藤幸子	1992/8/21発行	H元/3	ホンデュラス	③ 家政	10
古川美保	1993/1/5発行	H元/1	中華人民共和国	③ 婦人子供服	1
小林優子	1993/4/5発行	H元/3	スリ・ランカ	③ 家政	3
石田真弓	1993/4/25発行	H元/2	ペルー	③ 婦人子供服	14
石谷早予子	1993/8/21発行	H元/3	スリ・ランカ	③ 手工芸	3
石村久美代	1994/4/21発行	H3/1	グァテマラ	③ 婦人子供服	12
関　加代子	1994/10/21発行	H3/1	ガーナ	③ 手工芸	4

■空手道(㈱福昌堂)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
岡嶋正和	1988/12/27発行	S62/1	ニジェール	③ 空手	2
吉田光男	1992/6/23発行	H元/2	バングラデシュ	③ 空手	1

■看護教育(㈱医学書院)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
泊津義代	1993/10/15発行	H3/3	ラオス	③ 看護婦	12

■機械化農業(㈱新農林社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
金子純久	1988/10/1発行	S56/2	ガーナ	① 農業機械	5
福永郁夫	1988/12/1発行	S62/2	ガーナ	① 農業機械	8
富岡丈朗	1989/3/1発行	S60/1	コスタ・リカ	① 農業機械	9
小笠原一博	1989/10/25発行	S59/3	バングラデシュ	① 農業機械	1
渡辺晃徳	1992/6/10発行	S63/1	パプア・ニューギニア	① 野菜	45

■機械新聞(㈱商工経済新聞社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
近藤康雄	1995/1/5発行	H4/3	インドネシア	② 工作機械	1

■技術と普及((社)全国農業改良普及協会)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
角川　修	1988/11/25発行	S59/1	フィリピン	① 農業機械	3
田中修二	1989/8/25発行	S62/2	マレイシア	① 稲作	6

■気マガジン(レイ出版)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
小野健次	1990/4/27発行	S62/2	パプア・ニューギニア	③ 合気道	3
沖原健嗣	1993/4/27発行	H元/1	パプア・ニューギニア	③ 合気道	1

■教育家庭新聞

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
大西眞由美	1994/4/9,4/23,5/23	H2/1	パラグァイ	③ 保健婦	1

■教育ジャーナル(㈱学習研究社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
池水佐千子	1993/5/15発行	H3/1	コスタ・リカ	③ 手工芸	8

■漁協経営(㈱漁協経営センター)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
辻林英高	1994/11/1発行	H3/3	トンガ	② 船舶機関	7

■鶏友(㈱鶏友社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
丸尾　朗	1988/9/15発行	S55/2	パプア・ニューギニア	① 養鶏	6
藤井淑子	1989/6/25,9/25,10/15発行	S62/1	ボリヴィア	① 獣医師	20
吉岡　剛	1989/12/15発行	S61/1	マラウイ	① 養鶏	4
阿久津基弘	1993/10/5発行	H3/3	マラウイ	① 養鶏	5

■月刊カメラマン(㈱モーターマガジン社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
澤野新一郎	1991/3/20発行	S61/2	マラウイ	③ 写真	5

■月刊下水道(㈱環境新聞社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
中居満穂	1994/12/19発行	H3/2	中華人民共和国	② 土木設計	1

■月刊すこーれ(㈱すこーれ出版)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
高谷春美	1995/1/1発行	H3/1	マーシャル諸島	③ 日本語教師	1

■月刊整備界(㈲せいび広報社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
北村仁志	1994/8/18発行	H3/1	ケニア	② 自動車整備	45

■月刊バレーボール(日本文化出版㈱)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
吉水直保	1991/3/15発行	H元/1	グァテマラ	③ バレーボール	7

■建設の機械化(㈳日本建設機械化協会)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
満留典理	1989/8/25発行	S62/1	ニジェール	② 建設機械	3
若林敏弘	1990/2/25発行	S60/3	ガーナ	② 建設機械	1

■現代保育(㈱チャイルド本社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
小林美幸	1993/5/1発行	H元/3	マレイシア	③ 保母	1

■工事と受験(㈱電気書院)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
遠山　満	1988/9/1発行	S60/1	ホンデュラス	② 電子機器	25
鈴木悦雄	1989/1/31発行	S60/3	マラウイ	② 電気工事	5
岡村康夫	1989/12/1発行	S62/2	ホンデュラス	② 電子機器	26
末満広志	1990/8/1発行	S62/3	マレイシア	② 電子機器	3
池ノ本利治	1990/12/1発行	S62/2	ケニア	② 電子機器	14
坂本佳三	1991/3/10発行	S62/3	マレイシア	② 電子機器	4

■兵庫タイムス(㈱兵庫タイムス本社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
土橋　傑	1993/12/11発行	H3/2	ケニア	② 土木施工	9

■作業療法ジャーナル(㈱医薬広告社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
國頭伸子	1991/6/25発行	H元/1	ドミニカ共和国	③ 作業療法士	4

■視覚障害(日本盲人福祉研究会)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
後藤篤彦	1994/1/1発行	H3/3	インドネシア	③ 視聴覚教育	1

■実験医学(㈱羊土社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
櫻井宜彦	1994/3/25発行	H2/1	インドネシア	③ 化学	1

■自動車機械工具(㈱自動車新聞社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
入谷　隆	1993/10/1発行	H3/3	マラウイ	② 自動車整備	58

■自動車工学(㈱鉄道日本社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
秋庭守正	1989/5/1発行	S53/2後	フィリピン	② 自動車整備	13
大田　忍	1989/5/1発行	S60/1	マラウイ	② 自動車整備	55
富樫　正	1989/9/25発行	S62/2	リベリア	② 自動車整備	51
阿部幸広	1990/1/25発行	S62/3	モロッコ	② 自動車整備	24
山田英晶	1990/6/25発行	S62/2	エティオピア	② 自動車整備	31
南林　正	1991/3/25発行	H元/1	中華人民共和国	② 精密機器	3
小林祐司	1991/9/25発行	H元/2	タイ	② 自動車整備	20
大石常夫	1992/6/25発行	H元/3	モロッコ	② 自動車整備	28

◆掲載誌（紙）索引

索引順位は発行日、氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
樫本尚文	1992/10/25発行	H2/2	ザンビア	② 自動車整備	77
林　正巳	1993/5/25発行	S63/2	西サモア	② 自動車整備	102
松川智典	1993/10/25発行	H4/1	パプア・ニューギニア	② 自動車整備	100
松原庄平	1994/9/25発行	H2/2	パプア・ニューギニア	② 自動車整備	98
■写真工業（㈱写真工業出版社）					
井上博司	1989/7/20発行	S62/3	モロッコ	③ 写真	1
■獣医畜産新報（文永堂出版㈱）					
萩原博	1989/5/1発行	S57/2	ザンビア	① 獣医師	11
■柔道（（財）講道館）					
伏見勝利	1989/8/1発行	S62/1	コスタ・リカ	③ 柔道	18
玉腰良人	1989/8/1発行	S62/3	パプア・ニューギニア	③ 柔道	21
山本竜正	1989/8/1発行	S62/2	ケニア	③ 柔道	13
■食生活（（財）国民栄養協会）					
眞木裕子	1994/11/10発行	H元/2	ザンビア	③ 栄養士	15
■食の科学（㈱光琳）					
水本洋子	1994/5/15発行	H3/2	ボリヴィア	③ 栄養士	17
菊地敦子	1994/8/15発行	H2/1	中華人民共和国	③ 栄養士	4
石川みどり	1994/9/15発行	H元/1	ペルー	③ 栄養士	27
伊藤美智子	1994/10/15発行	H3/3	エクアドル	③ 栄養士	21
古海智子	1994/11/15発行	H2/1	ネパール	③ 栄養士	8
水本洋子	1994/12/15発行	H3/2	ボリヴィア	③ 栄養士	19
宗石喜美	1995/1/15発行	H3/2	パナマ	③ 栄養士	25
杉村裕子	1995/2/15発行	H元/2	ペルー	③ 栄養士	29
米倉英子	1995/3/15発行	H2/3	ニジェール	③ 栄養士	12
■新電気（㈱オーム社）					
井上善次郎	1988/9/1発行	S59/3	ケニア	② 電気機器	8
工藤雅明	1989/2/1発行	S62/2	マラウイ	② 電子工学	8
須賀元泰	1989/8/1発行	S61/3	タイ	② 電子機器	8
森田高広	1989/9/1発行	S61/1	ケニア	② 電子機器	13
鈴木一代	1989/10/25発行	S61/1	ボリヴィア	② 電子機器	21
吉田　誠	1990/4/1発行	S62/1	ボリヴィア	② 電気工事	10
秋山正治	1990/10/1発行	S63/2	コスタ・リカ	② 電子工学	9
平岩　正	1991/3/1発行	S63/3	ホンデュラス	② 電子機器	27
佐原比呂志	1991/9/12発行	H元/2	ホンデュラス	② 電子機器	28
野田　浩	1992/2/1発行	H元/3	スリ・ランカ	② 電話交換機	1
浜田康浩	1992/6/1発行	H元/3	スリ・ランカ	② 電話交換機	2
大黒弘樹	1992/8/1発行	S62/3	ガーナ	② 電子機器	12
岩見和久	1992/11/1発行	H2/2	マレイシア	② 無線通信機	1
藤好紀男	1993/3/1発行	H元/2	フィリピン	② 電子工学	4
田島義明	1993/8/1発行	S63/3	マレイシア	② 電気工事	3
八木宏文	1994/6/1発行	H2/3	モロッコ	② 電気工事	4
川上真哉	1995/2/1発行	H5/1	エクアドル	② 電子機器	24
■水産界（㈳大日本水産会）					
石塚治男	1989/1/31発行	S58/3	ボリヴィア	① 養殖	20
飛間昌巳	1992/11/1発行	H3/2	ソロモン諸島	③ 経済	1
■水産世界（㈲農林水産研究所）					
伊東京子	1988/9/30発行	S56/3	パプア・ニューギニア	① 水産統計	3
石塚治男	1988/10/31発行	S58/3	ボリヴィア	① 養殖	18
大淵喜隆	1988/12/31発行	S59/2	ホンデュラス	① 食品加工	1
阿部倫久	1989/1/30発行	S60/1	シリア	① 養殖	8
井川龍二郎	1989/2/28発行	S60/2	パプア・ニューギニア	① 養殖	30
高橋信吾	1989/3/31発行	S60/1	ガーナ	① 漁具漁法	4
倉田九豪	1989/4/15発行	S61/2	スリ・ランカ	① 漁具漁法	1
高橋和久	1989/5/15発行	S62/2	ソロモン諸島	① 漁具漁法	15
梅村哲夫	1989/6/15発行	S62/3	フィジー	① 水産統計	1
神尾誠司	1989/7/20発行	S61/2	シリア	① 養殖	10
行平英基	1989/8/25発行	S60/2	コスタ・リカ	① 養殖	27
石井優一	1989/9/25発行	S61/1	ソロモン諸島	① 漁具漁法	12
森丘貴宏	1989/11/20発行	S60/3	ケニア	① 漁具漁法	6
澤志泰正	1989/12/25,1/25発行	S62/2	ボリヴィア	① 養殖	24
川田晃弘	1990/2/25発行	S62/3	ネパール	① 養殖	3
伊藤　毅	1990/3/25発行	S62/3	ケニア	① 養殖	11
戸田誠人	1990/5/5発行	S62/3	ソロモン諸島	① 漁具漁法	17
坂田重登	1991/9/5発行	H元/3	ホンデュラス	① 漁具漁法	8
岡本　一	1992/2/25発行	H元/3	ドミニカ共和国	① 養殖	29
伊藤淳雄	1992/8/15発行	S63/2	パプア・ニューギニア	① 漁具漁法	10
石田光洋	1993/8/5発行	H元/3	コロンビア	① 水産物加工	1
鈴木　稔	1988/11/31発行	S57/2	セネガル	① 養殖	15
■水道公論（㈱日本水道新聞社）					
渋谷重夫	1995/2/10発行	H5/2	インドネシア	③ 水質検査	1
■生化学（㈳日本生化学会）					
安食愛彦	1993/4/25発行	H2/2	ボリヴィア	③ 臨床検査技師	19
■セイビ（㈱自動車公論社）					
奉田皇王	1993/12/10発行	H3/1	タイ	② 自動車整備	22
安藤聖一	1994/4/10発行	H2/3	ホンデュラス	② 自動車整備	86
■整備戦略（㈱日刊自動車新聞社）					
渡辺雄一郎	1993/10/1発行	H3/3	スリ・ランカ	② 自動車整備	16
■設備と管理（㈱オーム社）					
渡辺　進	1991/1/10発行	S63/2	フィジー	② 浄水場機械	8
■世界画報（㈱国際情報社）					
森泉智子	1990/3/10発行	S62/1	タイ	② 陶磁器	3
板橋悦子	1990/12/15発行	S62/1	ボリヴィア	③ 助産婦	1
井上博司	1991/1/10発行	S62/3	モロッコ	③ 写真	3
杉田邦子	1991/5/10発行	S63/1	シリア	③ 体育	11
■ZENBI（全日本美容業環境衛生同業組合連）					
星野房子	1993/10/5発行	H元/3	中華人民共和国	③ 美容師	1
■全国農業新聞（全国農業会議所）					
大和田俊雄	1989/8/25発行	S60/3	パプア・ニューギニア	① 野菜	48
清水　裕	1990/1/19発行	S62/2	ホンデュラス	① 花き	1
伊崎弘志	1990/12/21発行	H元/1	ホンデュラス	① 野菜	40
■測量（㈳日本測量協会）					
森田　功	1989/5/25発行	S62/2	シリア	② 測量	9
児玉幸人	1989/6/25発行	S62/1	ガーナ	② 土木施工	7
中村清郎	1989/8/25発行	S61/3	モロッコ	② 測量	5
塩飽康利	1989/11/25発行	S61/2	エティオピア	① 農業土木	6
佐藤寿一	1989/12/25発行	S62/2	ジョルダン	② 測量	3
土岐昭彦	1990/2/25発行	S62/2	ペルー	② 土木施工	21
徳丸周志	1990/4/10発行	S62/2	マラウイ	② 測量	13
堤　朝弘	1990/5/10発行	S61/3	タイ	① 農業土木	4
奈尾雪絵	1990/5/25発行	S62/2	フィジー	② 都市計画	3
岩瀬哲也	1990/7/25発行	S61/2	バングラデシュ	③ 図学	1
永尾丈二	1990/9/25発行	S62/3	リベリア	② 建築製図	1
鈴木良直	1990/10/25発行	S62/2	モロッコ	② 建築	3

索引順位は発行日、氏名(A、B、C〜)順となっています。

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
植村新一	1990/12/25発行	S62/3	タンザニア	② 土木施工	13
若狭高秀	1991/1/25発行	H元/1	ペルー	② 建築	10
青山芳貴	1991/3/25発行	S63/1	タンザニア	② 土木施工	15
鈴木隆裕	1991/3/25発行	H元/1	バングラデシュ	② 土木施工	1
井戸正治	1991/4/25発行	S62/2	ケニア	② 建築	6
村山由孝	1991/5/25発行	S62/2	ザンビア	② 土木設計	4
門口義明	1991/6/25発行	S62/2	モロッコ	② 建築	1
小島正男	1991/7/25発行	H元/1	エティオピア	① 農業土木	8
徳永辰巳	1991/9/12発行	S60/1	タンザニア	③ 在庫管理	2
武藤直登	1991/10/25発行	H元/3	フィジー	② 土木施工	23
藤井克巳	1991/12/25発行	H元/3	モロッコ	② 土木施工	5
尾関　修	1992/5/25発行	H元/2	マラウイ	① 農業土木	9
石黒正彦	1992/6/25発行	H元/3	モロッコ	② 土木施工	6
伊藤嘉章	1992/8/25発行	H3/2	マーシャル諸島	② 土木施工	28
細田照茂	1992/9/25発行	H2/1	ネパール	② 都市計画	1
安　洋巳	1992/10/25発行	H元/1	タンザニア	① 森林経営	6
山寺　彰	1993/3/25発行	H2/1	ザンビア	② 測量	18
山田英之	1993/3/25発行	H元/3	マラウイ	② 測量	16
大道寺徹	1993/8/10発行	H2/1	タンザニア	② 土木施工	17
木下健二	1994/2/1発行	H3/2	グァテマラ	② 土木施工	19
盛　清司	1994/5/1発行	H3/2	バングラデシュ	② 土木施工	3
■体育科教育(大修館書店)					
小林裕次	1994/9/1発行	H3/3	ニカラグア	③ 野球	4
■WAN(㈲ペットライフ社)					
樋口　充	1994/10/14発行	H3/1	マラウイ	① 獣医師	7
■地下水技術(㈳地下水技術協会)					
白石　豊	1994/9/25発行	H元/2	セネガル	② 浄水場機械	1
■畜産コンサルタント(㈳中央畜産会)					
松寓憲介	1988/9/1発行	S61/1	ペルー	① 獣医師	34
千葉善蔵	1989/3/1発行	S60/2	パプア・ニューギニア	① 家畜飼育	22
飯塚　昌	1989/4/1発行	S59/3	マレイシア	① 家畜飼育	1
平林輝美	1989/9/1発行	S62/2	ニジェール	① 獣医師	9
大沢幸生	1989/11/1発行	S61/3	タンザニア	① 森林経営	4
萬沢秀之	1989/12/1発行	S61/1	ザンビア	① 獣医師	13
石原登美子	1990/3/25発行	S61/3	ザンビア	① 獣医師	15
花井博之	1990/6/1発行	S62/2	パラグァイ	① 獣医師	28
里見洋司	1990/9/25発行	S60/3	タイ	① 家畜飼育	7
森川伸昭	1991/1/1発行	S63/1	ケニア	① 家畜飼育	12
佐藤久明	1991/1/1発行	S62/3	タイ	① 家畜飼育	9
小西洋一	1991/12/25発行	H2/2	タイ	① 家畜飼育	11
菊池香波	1993/3/1発行	H元/1	セネガル	① 家畜飼育	17
■ツールエンジニア(㈱大河出版)					
宮路徳男	1989/8/25発行	S62/2	ガーナ	② 工作機械	3
福川　治	1994/10/1発行	H3/2	ガーナ	② 工作機械	5
■デーリィマン(デーリィマン東京本社)					
中條信介	1989/3/1発行	S60/2	コスタ・リカ	① 家畜飼育	19
本山　彰	1989/12/25発行	S62/2	マラウイ	① 家畜飼育	15
西谷義徳	1992/4/20発行	H元/3	スリ・ランカ	① 家畜飼育	6
本谷美智代	1993/1/20発行	H2/1	ザンビア	① 獣医師	19
■電気計算(㈱電気書院)					
中西敏男	1989/12/15発行	S62/2	マレイシア	② 電子計算機	1
池田　武	1990/1/12発行	S62/2	ボリヴィア	② 電気機器	11
清水信之	1990/2/25発行	S62/3	タンザニア	② 電気工事	6
高橋　久	1990/3/15発行	S62/3	ネパール	③ 自然エネルギー利用学	1
下畦逸次	1990/9/15発行	S62/2	バングラデシュ	② 電気工事	1
大野　勉	1990/10/12発行	S63/2	スリ・ランカ	② 電子工学	5
有加正文	1990/11/15発行	S62/2	コスタ・リカ	② 電子工学	10
山田龍彦	1990/12/15発行	S62/2	モロッコ	② 電気機器	3
北原仁美	1991/4/12発行	S62/3	ケニア	② 電子機器	16
岩男靖司	1991/5/12発行	S62/2	ソロモン諸島	② 船舶機関	11
越田靖子	1991/8/12発行	S63/2	マラウイ	③ 秘書	1
秋山　亘	1991/9/12発行	H元/1	グァテマラ	② 精密機器	5
藤本武司	1991/9/12発行	S63/3	ブータン	③ 在庫管理	1
西　智弘	1991/9/12発行	H元/3	グァテマラ	③ ソフトボール	1
関谷武司	1991/9/12発行	H元/2	ホンデュラス	③ 体育	19
杉山俊一	1991/12/12発行	H元/1	ホンデュラス	② 電話線路	5
植松信吉	1991/12/12発行	H元/1	ホンデュラス	② 電話交換機	3
真子潤也	1992/2/12発行	S63/1	モロッコ	② 陶磁器	5
楠　正宏	1992/3/12発行	H元/2	モロッコ	② 電気機器	5
八幡　聡	1992/3/12発行	H元/3	タイ	② 電子計算機	4
清水多門	1992/6/10発行	S62/3	中華人民共和国	② 精密機器	1
元位嘉秀	1992/7/12発行	H元/2	マラウイ	② 無線通信機	4
原口　忠	1992/8/12発行	H元/1	ジョルダン	② 無線通信機	2
川口　茂	1992/9/12発行	H2/2	ホンデュラス	③ 潜水指導	1
今井信之	1992/10/12発行	H2/2	コスタ・リカ	③ 視聴覚教育	9
岡本淳一	1992/11/12発行	H2/2	ザンビア	② 電子機器	19
服部衛彦	1992/12/12発行	H2/2	ザンビア	② 無線通信機	5
川口栄一	1993/1/12発行	S63/1	ガーナ	③ 理科教師	1
山村正勝	1993/3/12発行	H2/2	インドネシア	② 電話線路	1
野呂幸雄	1993/5/12発行	H2/3	スリ・ランカ	② 電子機器	6
中村信行	1993/7/12発行	H元/3	バングラデシュ	② 電子機器	1
小田康子	1993/8/12発行	S62/3	ネパール	③ 視聴覚教育	7
越智資行	1993/10/21発行	H3/3	フィリピン	② 電気機器	1
西森智光	1993/11/12発行	H3/2	エクアドル	② 電子機器	22
松崎一明	1994/1/12発行	H3/2	モロッコ	② 建築	5
辻　敏彦	1994/4/12発行	H3/2	バングラデシュ	③ サッカー	1
東井克己	1994/5/12発行	H3/1	コスタ・リカ	② 電子工学	11
野添雄二	1994/7/12発行	H3/1	マレイシア	③ 作業療法士	1
高橋宏彰	1994/10/12発行	H3/2	ソロモン諸島	③ 経済	3
■電気現場技術(㈱電気情報社)					
足立保彦	1992/2/10発行	H元/3	ガーナ	② 通信電力	1
田村正弘	1992/11/10発行	H2/2	エティオピア	② 電気機器	7
■電気情報(㈱電気情報社)					
長縄弘美	1994/8/1発行	H3/3	西サモア	② 通信電力	2
■電気と管理(㈱電気書院)					
井川　久	1988/12/15発行	S61/2	モロッコ	② 電子機器	10
吉田　誠	1989/7/10発行	S62/1	ボリヴィア	② 電気工事	8
斎藤明弘	1989/8/15発行	S61/1	トンガ	② 電気工事	11
牧田安史	1989/9/15発行	S62/3	ルワンダ	② 電子機器	18
星澤正浩	1989/12/15発行	S62/2	エティオピア	② 電気機器	6
徳山晴一	1990/3/15発行	S62/3	チュニジア	② 電子機器	11
■電気と工事(㈱オーム社)					
藤川宗一	1991/4/1発行	S62/3	ニジェール	② 電気機器	9
■電経新聞(㈱電経新聞社)					
中村健一	1994/7/25発行	H3/2	ガーナ	② 電話線路	3
■電子技術(㈱日刊工業新聞出版局)					
永野重雄	1991/9/1発行	H元/3	タイ	② 電子機器	9

◆掲載誌（紙）索引

索引順位は発行日、氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種		頁
■東洋医学(㈱緑書房)						
野々部誠	1992/8/1発行	S61/2	スリ・ランカ	①	森林経営	1
■特産情報(㈱農村文化社)						
金田克己	1991/9/15発行	H元/1	マレイシア	①	きのこ	1
■土木学会誌(㈳土木学会)						
磯元賢志	1992/11/20発行	H2/1	ミクロネシア	②	土木設計	6
■土木技術(土木技術社)						
鳩田靖久	1994/7/1発行	H2/1	モロッコ	②	測量	7
■土木施工(㈱山海堂)						
二瓶浩彰	1989/3/20発行	S60/1	ネパール	②	測量	1
柳原　整	1989/7/20発行	S62/2	ソロモン諸島	②	土木施工	26
江塚利幸	1989/8/20発行	S57/3	ペルー	①	農業土木	16
大高明夫	1989/9/20発行	S61/2	エティオピア	②	測量	11
関根信一	1990/1/20発行	S62/1	マラウイ	②	測量	15
相木　寛	1990/4/20発行	S62/2	西サモア	②	土木施工	24
今村　浩	1991/9/20発行	H元/2	マラウイ	②	土木施工	11
佐藤勝正	1992/3/12発行	H元/1	ホンデュラス	①	農業土木	14
山本清太	1994/7/20発行	H3/1	ガーナ	②	建築施工	1
■ナーシングトウデイ(㈱日本看護協会出版会)						
酒井陽子	1993/11/18発行	H3/3	フィリピン	③	看護婦	14
梅本喜久江	1995/2/18発行	H元/3	バングラデシュ	③	看護婦	5
■ナース専科(㈱文化放送ブレーン)						
島田みづき	1991/10/1発行	S63/2	バングラデシュ	③	看護婦	1
■ナースプラスワン(㈱照林社)						
宮内和代	1993/7/5発行	S63/1	インドネシア	③	看護婦	7
■日刊自動車新聞(㈱日刊自動車新聞社)						
渕上哲也	1994/3/26発行	H2/2	ニジェール	②	自動車整備	69
渡辺秀和	1994/12/3発行	H5/2	中華人民共和国	②	自動車整備	7
■日刊建設工業新聞(㈱日刊建設工業新聞社)						
田井勇次	1989/7/20発行	S62/2	タンザニア	①	農業土木	11
■日本作業療法士協会ニュース(㈳日本作業療法士協会)						
似鳥郁子	1988/12/15発行	S61/1	タンザニア	③	作業療法士	3
■日本農業新聞(全国新聞情報農業協同組合連)						
村田秀行	1988/11/20発行	S62/1	エティオピア	①	稲作	9
小田島成良	1989/3/19発行	S61/2	マレイシア	①	稲作	5
佐々木透	1989/6/18発行	S61/2	スリ・ランカ	①	野菜	15
相馬多一郎	1990/1/5発行	S62/2	コロンビア	①	村落開発普及員	5
百田龍治	1990/2/25発行	S62/2	ボリヴィア	①	農産物加工	4
青西靖夫	1990/6/17発行	S62/2	ホンデュラス	①	村落開発普及員	8
木島祐子	1990/9/8発行	S61/1	スリ・ランカ	①	野菜	13
木伏克実	1990/12/16発行	S63/2	ホンデュラス	①	村落開発普及員	9
中野晴彦	1991/10/27発行	H元/1	タイ	①	農業機械	4
小島英隆	1992/4/18発行	H元/3	フィジー	①	稲作	14
馬屋原一孝	1994/8/28,10/16発行	H3/1	マラウイ	①	農林統計	1
阿部喜至夫	1995/1/4,3/18発行	H3/2	中華人民共和国	①	果樹	1
■日本農民新聞(日本農民新聞社)						
小倉浩一	1988/11/22発行	S60/2	ネパール	①	野菜	8
塩見慎次郎	1989/6/20発行	S61/1	エティオピア	①	野菜	16
問瀬朝夫	1990/5/21発行	S62/2	コスタ・リカ	①	野菜	31
橋田　博	1990/10/9発行	H元/1	エティオピア	①	果樹	3
村橋美代子	1991/3/26,4/16発行	S61/1	スリ・ランカ	①	野菜	14
伊藤正彦	1992/1/4発行	S63/2	ガーナ	①	野菜	20
■農機新聞(㈱新農林社)						
出井　務	1994/4/12,4/19発行	H3/2	パプア・ニューギニア	①	農業機械	10
石崎程之	1994/8/23,8/30発行	H2/1	ソロモン諸島	①	村落開発普及員	10
高橋裕文	1991/9/17発行	H元/2	タイ	①	土壌肥料	2
栗原優子	1992/9/15発行	H2/1	マレイシア	①	農産物加工	2
菊地徹吉	1993/3/23発行	H3/1	ホンデュラス	①	野菜	41
飯塚洋子	1993/7/26発行	H2/3	ブータン	①	野菜	11
■農業技術(財)農業技術協会)						
大野和徳	1990/5/23発行	S60/3	ケニア	①	園芸作物	1
■農耕と園芸(誠文堂新光社)						
鈴木あや子	1990/1/23発行	S62/3	ホンデュラス	①	花き	2
■農村と都市を結ぶ(農村と都市を結ぶ福集部)						
小坂重樹	1994/3/10発行	H3/3	グァテマラ	①	野菜	35
■農村報知新聞(㈱農村報知新聞社)						
深澤公史	1988/8/28発行	S60/1	リベリア	①	食用作物	1
片山正巳	1988/9/28発行	S58/2	ネパール	①	農業土木	2
阿部吉夫	1988/10/28発行	S59/1	ザンビア	①	野菜	24
廣西秀俊	1988/11/28発行	S62/1	マレイシア	①	病虫害	1
小路克雄	1989/1/8発行	S57/2	フィリピン	①	家畜飼育	2
石間　宗	1989/1/18発行	S62/2	トンガ	①	野菜	50
武辺寛則	1989/2/28,3/18発行	S61/2	ガーナ	①	村落開発普及員	2
星　洋介	1989/3/28発行	S62/2	ガーナ	①	野菜	18
藤原俊次	1989/5/28発行	S62/1	マレイシア	①	野菜	4
鈴木篤志	1989/7/8発行	S61/2	スリ・ランカ	①	家畜飼育	4
上野三枝子	1989/7/28発行	S62/1	スリ・ランカ	①	家畜飼育	5
広瀬　泉	1989/8/28発行	S61/1	コスタ・リカ	①	野菜	29
飯塚洋子	1989/9/28発行	S58/3	スリ・ランカ	①	野菜	9
石岡　司	1989/11/18発行	S61/1	ボリヴィア	①	果樹	6
比嘉勇雄	1989/11/28発行	S62/3	マレイシア	①	土壌肥料	1
上山則夫	1989/12/8発行	S62/2	パラグァイ	①	農業協同組合	2
太田恵美	1990/2/8発行	S63/2	ニジェール	①	野菜	23
栗野久夫	1990/3/28発行	S61/2	ホンデュラス	①	村落開発普及員	6
大道雅之	1990/6/8発行	S60/1	ホンデュラス	①	野菜	37
村上　健	1990/7/8発行	S62/3	パラグァイ	①	野菜	43
兵藤吉之	1990/8/28発行	S60/2	西サモア	①	野菜	51
秋印拓輔	1990/9/8発行	S63/1	コスタ・リカ	①	野菜	32
浜田守彦	1990/10/18発行	S61/1	ホンデュラス	①	野菜	38
林かおり	1990/11/28発行	S63/3	グァテマラ	①	野菜	34
横本康子	1991/1/8発行	H元/2	ニジェール	①	土壌肥料	3
石井昌樹	1991/2/18発行	S62/2	ホンデュラス	①	農業土木	13
南　雄三	1991/6/8発行	H元/3	マラウイ	①	野菜	21
佐藤秀樹	1991/9/8発行	H元/1	マレイシア	①	稲作	8
多勢伸一	1991/9/18発行	H元/2	マレイシア	①	農業協同組合	1
梅澤みき	1991/10/28発行	H元/1	マレイシア	①	農産物加工	1
久保田淳	1992/1/1発行	H元/3	マレイシア	①	野菜	6
武岡鳴人	1992/2/28発行	H元/2	パラグァイ	①	果樹	8
坂井勇夫	1992/4/18発行	S61/2	マラウイ	①	森林経営	2
岩館光重	1992/6/28発行	H元/2	マレイシア	③	手工芸	1
草地千里	1992/10/18発行	H3/2	マラウイ	①	果樹	4
鎌田博信	1993/5/28発行	H元/3	パプア・ニューギニア	①	野菜	49

索引順位は発行日、氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
遠藤　久	1993/9/8発行	S63/3	タイ	① 養蚕	1
三浦　悟	1993/11/26発行	H3/3	ラオス	① 稲作	1
佐々木理世	1994/5/18発行	H2/3隊員	ペルー/パナマ	① 稲作	12
片浦雅之	1994/8/8発行	H3/3	バングラデシュ	① 野菜	1

■ビデオα(㈱写真工業出版社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
中村政志	1988/12/23発行	S59/3	ガーナ	② 視聴覚機器	3
中川典之	1989/2/23発行	S60/1	コスタ・リカ	② 視聴覚機器	4
梶　恵一	1989/12/23発行	S58/2	スリ・ランカ	② 視聴覚機器	1
小田康子	1990/2/25発行	S62/3	ネパール	③ 視聴覚教育	5
佐藤　薫	1991/9/23発行	H元/3	マレイシア	③ 視聴覚教育	3
森井英香	1992/9/23発行	H2/2	ホンデュラス	③ 視聴覚教育	12
水谷哲男	1992/11/23発行	H2/2隊員	ペルー/パナマ	② 視聴覚機器	5
児玉郁子	1993/10/20発行	H3/3	エクアドル	③ 映像	1
八坂由美	1994/5/20発行	H2/2	ミクロネシア	③ 放送	1

■ビデオサロン(㈱玄光社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
山畑孝志	1994/7/5発行	H3/3	エクアドル	③ 視聴覚教育	11

■武道(㈶日本武道館)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
持田智男	1988/9/10発行	S57/1	パプア・ニューギニア	③ 合気道	2
藤岡正志	1989/7/10発行	S62/1	ニジェール	③ 柔道	15
山本竜正	1989/9/1発行	S62/2	ケニア	③ 柔道	9
金子　晃	1989/11/1発行	S59/2	ネパール	③ 柔道	3
山本竜正	1990/1/1発行	S62/2	ケニア	③ 柔道	11
高橋一男	1990/7/1発行	S61/2	フィリピン	③ 柔道	5
佐藤一也	1991/12/1発行	H元/2	ニジェール	③ 柔道	17
川畑春彦	1992/1/1発行	H元/3	ホンデュラス	③ 柔道	20
中畑　桂	1992/8/1発行	H元/2	グァテマラ	③ 空手	3
小坂郁夫	1993/2/1発行	H元/1	ソロモン諸島	③ 合気道	5
安斎俊哉	1993/4/1発行	S63/1	インドネシア	③ 柔道	1
岩井貴人	1994/6/1発行	H2/2	モロッコ	③ 柔道	7

■ホリデーオート(㈱モーターマガジン社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
塚本利夫	1992/1/10発行	H元/3	コスタ・リカ	② 自動車整備	79

■ミツバチ科学(玉川大学ミツバチ科学研究)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
大木智之	1993/11/10発行	H3/2	グァテマラ	① 養蜂	1

■みんなのスポーツ(㈱日本体育社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
小杉　誠	1988/9/25発行	S59/2	ネパール	③ 体育	3
江川恵子	1989/6/25発行	S61/1	ペルー	③ 体育	22
守屋里美	1989/8/25発行	S62/2	ジョルダン	③ 体育	9
福永理和	1989/11/25発行	S62/1	マレイシア	③ 体育	1
松原　渉	1990/1/25発行	S62/2	シリア	③ バレーボール	5
菊池威臣	1990/4/25発行	S62/3	ホンデュラス	③ 体育	15
徳登志夫	1990/12/25発行	S61/2	モロッコ	③ バレーボール	3
林　千鶴	1991/6/25発行	H元/1	グァテマラ	③ 水泳	4
北野日士	1991/10/25発行	S46/3	エル・サルヴァドル	③ 水泳	2
星野照英	1992/11/25発行	H元/3	スリ・ランカ	③ 体育	7
菊池泰雄	1993/3/6発行	S62/3	ホンデュラス	③ 体育	17
村井洋介	1994/7/1発行	H4/1	ジンバブエ	③ 野球	1

■目の眼(㈱里文出版)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
南川祐作	1989/7/25発行	S60/1	タンザニア	② 陶磁器	6
近藤浩英	1990/9/1発行	S62/2	タンザニア	② 陶磁器	7
小野原孝	1990/9/1発行	S62/2	タイ	② 陶磁器	1

■野菜園芸技術(㈶全国農業改良普及協会)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
横山和正	1989/3/1発行	S61/3	マレイシア	① 野菜	3
板橋宏暁	1990/2/13発行	S62/3	コロンビア	① 野菜	27

■養牛の友(㈱日本畜産振興会)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
牧野真理	1988/9/1発行	S60/3	マラウイ	① 家畜飼育	13
三枝正彦	1989/12/1発行	S61/2	パラグァイ	① 獣医師	25

■養鶏の友(㈱日本畜産振興会)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
原口敏明	1989/12/1発行	S60/2	マラウイ	① 養鶏	1

■養殖(㈱緑書房)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
澤志泰正	1989/8/1発行	S62/2	ボリヴィア	① 養殖	22
村田　忠	1992/2/1発行	H元/2	モロッコ	① 養殖	7
新田美砂人	1993/6/25発行	H2/2	フィリピン	① 養殖	5
飯沼光生	1993/12/1発行	H2/3	マレイシア	① 養殖	1
堀江克之	1994/10/1発行	H2/3	ケニア	① 養殖	13

■溶接ニュース(産報出版株式会社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
奥山剛志	1994/7/5発行	H2/2	ニジェール	② 溶接	1

■養豚の友(㈱日本畜産振興会)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
吉岡　隆	1989/2/1発行	S61/1	マラウイ	① 養鶏	3

■林業技術(㈳日本林業技術協会)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
金子修一	1993/9/10発行	H3/1	グァテマラ	① 植林	1

■臨床検査(㈱医学書院)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
中野友由枝	1992/1/15発行	S62/3	トンガ	③ 臨床検査技師	22
林由美子	1992/2/15発行	H元/1	ジャマイカ	③ 臨床検査技師	21
吐崎　修	1992/3/15発行	S63/2	ルワンダ	③ 臨床検査技師	16
吉田和弘	1992/4/15発行	S61/2	マラウイ	③ 臨床検査技師	12
山川　愛	1992/5/15発行	H2/2	タンザニア	③ 臨床検査技師	18
本田恵子	1992/7/15発行	S62/3	ガーナ	③ 臨床検査技師	10
南川真理子	1992/8/15発行	H元/1	ブータン	③ 臨床検査技師	2
川畑さつき	1992/9/15発行	S63/1	ソロモン諸島	③ 臨床検査技師	23
辻本直樹	1992/10/15発行	S63/3	フィリピン	③ 臨床検査技師	6
九鬼宏美	1992/11/15発行	H元/3	ネパール	③ 臨床検査技師	4
薬師寺小百合	1992/12/15発行	H2/2	マラウイ	③ 臨床検査技師	14

■臨床獣医(㈱チクサン出版社)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
久保田早苗	1989/3/1発行	S62/2	マラウイ	① 獣医師	3
宮川幸二	1989/6/30発行	S62/1	シリア	① 獣医師	1
大澤鉄司	1992/4/5発行	H元/1	パラグァイ	① 獣医師	30
井屋哲也	1993/1/1発行	H元/3	パラグァイ	① 獣医師	32
木下秀俊	1993/10/1発行	H元/1	ザンビア	① 獣医師	17
亀　光博	1994/9/1発行	H2/3	ボリヴィア	① 獣医師	23

■冷凍(㈳日本冷凍空調学会)

氏名	発行日	隊次	国名	ファイル・職種	頁
桑原宏仁	1989/9/15発行	S61/3	マラウイ	② 冷凍機器	2
鈴木良明	1990/3/28発行	S59/1	ザンビア	② 冷凍機器	6
桑原宏仁	1991/1/10発行	S61/3	マラウイ	② 冷凍機器	4
埋橋建吾	1991/10/15発行	H元/2	ホンデュラス	② 冷凍機器	10
浅井俊一	1991/11/15発行	H元/3	ドミニカ共和国	② 冷凍機器	8
中島義和	1992/6/5発行	H元/3	スリ・ランカ	② 冷凍機器	1

◆出身都道府県別索引

索引順位は隊次、氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	隊次	国名	ファイル・職種	頁
■北海道				
千葉善廣	S60/2	パプア・ニューギニア	① 家畜飼育	22
須賀元泰	S61/3	タイ	② 電子機器	8
花井博之	S62/2	パラグァイ	① 獣医師	28
中西敏男	S62/2	マレイシア	② 電子計算機	1
菊池泰雄	S62/3	ホンデュラス	③ 体育	17
國枝郁代	S62/3	中華人民共和国	③ 栄養士	1
青山芳貴	S63/1	タンザニア	② 土木施工	15
島田みづき	S63/2	バングラデシュ	③ 看護婦	1
矢口義光	S63/2	ニジェール	② 自動車整備	67
南川真理子	H元/1	ブータン	③ 臨床検査技師	2
楠　正宏	H元/2	モロッコ	② 電気機器	5
吉田光男	H元/2	バングラデシュ	③ 空手	1
小西憲治	H元/2	ソロモン諸島	② 自動車整備	104
石谷早予子	H元/3	スリ・ランカ	③ 手工芸	3
編田照茂	H2/1	ネパール	② 都市計画	1
菊地敦子	H2/1	中華人民共和国	③ 栄養士	4
安食愛彦	H2/2	ボリヴィア	③ 臨床検査技師	19
薬師寺小百合	H2/2	マラウイ	③ 臨床検査技師	14
高谷春美	H3/1	マーシャル諸島	③ 日本語教師	1
入谷　隆	H3/3	マラウイ	② 自動車整備	58
長縄弘美	H3/3	西サモア	② 通信電力	2
辻林英高	H3/3	トンガ	② 船舶機関	7
内山玲子	H3/3	ソロモン諸島	③ 看護婦	16
■青森				
石岡　司	S61/1	ボリヴィア	① 果樹	6
似鳥郁子	S61/1	タンザニア	③ 作業療法士	3
土岐昭彦	S62/2	ペルー	② 土木施工	21
番地亨勝	S62/3	ホンデュラス	② 航海術	3
番地亨勝	S62/3	ホンデュラス	② 航海術	5
大瀬貴生	S62/3	タイ	② 自動車整備	18
高森敏郎	S62/3	ドミニカ共和国	② 自動車整備	80
佐藤秀樹	H元/1	マレイシア	① 稲作	8
杉山俊一	H元/1	ホンデュラス	② 電話線路	5
中畑　桂	H元/2	グァテマラ	③ 空手	3
中村信行	H元/3	バングラデシュ	② 電子機器	1
藤田朝子	H2/2	インドネシア	③ 看護婦	9
下久保綾子	H3/1	コスタ・リカ	① 家畜飼育	20
盛　清司	H3/2	バングラデシュ	② 土木施工	3
中居満穂	H3/2	中華人民共和国	② 土木設計	1
木立孝志	H3/3	ケニア	② 自動車整備	49
■岩手				
大和田俊雄	S60/3	パプア・ニューギニア	① 野菜	48
小田島成良	S61/2	マレイシア	① 稲作	5
佐々木透	S61/2	スリ・ランカ	① 野菜	15
高橋一男	S61/2	フィリピン	③ 柔道	5
上山則夫	S62/2	パラグァイ	① 農業協同組合	2
鈴木あや子	S62/3	ホンデュラス	① 花き	2
笹川泰利	H元/1	ドミニカ共和国	③ 体操競技	1
久慈広信	H元/2	ソロモン諸島	② 船舶機関	13
■宮城				
鈴木悦雄	S60/3	マラウイ	② 電気工事	5
斎藤明弘	S61/1	トンガ	② 電気工事	11
星澤正浩	S62/2	エティオピア	② 電気機器	6
斎藤秀昭	S62/2	ガーナ	② 自動車整備	37
板橋宏暁	S62/3	コロンビア	① 野菜	27
小川幸子	S63/1	トンガ	③ 家政	15
伊藤正彦	S63/2	ガーナ	① 野菜	20
大道寺徹	H2/1	タンザニア	② 土木施工	17
高橋宏彰	H3/2	ソロモン諸島	③ 経済	3
片浦雅之	H3/3	バングラデシュ	① 野菜	1
境　貴志	H3/3	ブータン	② 電子工学	1
■秋田				
成田笑里子	S62/1	パラグァイ	③ 家政	11
村山由孝	S62/2	ザンビア	② 土木設計	4
佐藤寿一	S62/2	ジョルダン	② 測量	3
鳴田鳴久	H2/1	モロッコ	② 測量	7
岩見和久	H2/2	マレイシア	② 無線通信機	1
野呂幸雄	H2/3	スリ・ランカ	② 電子機器	6
佐々木理世	H2・3/10補	ペルー/パナマ	① 稲作	12
■山形				
和田治夫	S62/1	ケニア	② 電子工学	6
阿部喜至夫	H3/2	中華人民共和国	① 果樹	1
■福島				
伊東京子	S56/3	パプア・ニューギニア	① 水産統計	3
植村新一	S62/3	タンザニア	② 土木施工	13
常松信人	S62/3	タンザニア	② 自動車整備	73
白石　豊	H元/2	セネガル	② 浄水場機械	1
多勢伸一	H元/2	マレイシア	① 農業協同組合	1
■茨城				
吉田　誠	S62/1	ボリヴィア	② 電気工事	8
吉田　誠	S62/1	ボリヴィア	② 電気工事	10
米倉英子	H2/3	ニジェール	③ 栄養士	12
■栃木				
深澤公史	S60/1	リベリア	① 食用作物	1
粟野久夫	S61/2	ホンデュラス	① 村落開発普及員	6
井川　久	S61/2	モロッコ	② 電子機器	10
高橋　久	S62/3	ネパール	③ 自然エネルギー利用学	1
小島正男	H元/1	エティオピア	① 農業土木	8
小西岸一	H2/2	タイ	① 家畜飼育	11
岸田　茂	H3/1	ネパール	③ 理数科教師	1
小林裕次	H3/3	ニカラグア	③ 野球	4
■群馬				
飯塚　昌	S59/3	マレイシア	① 家畜飼育	1
森田高広	S61/1	ケニア	② 電子機器	13
篤沢秀之	S61/1	ザンビア	① 獣医師	13
村田　忠	H元/2	モロッコ	① 養殖	7
佐藤一也	H元/2	ニジェール	③ 柔道	17
山田英之	H元/3	マラウイ	② 測量	16
石綿浩一郎	H2/3	ラオス	① 農業土木	1
丸橋奈津子	H3/2	ホンデュラス	② 自動車整備	88
丸橋奈津子	H3/2	ホンデュラス	② 自動車整備	90
丸橋奈津子	H3/2	ホンデュラス	② 自動車整備	92
■埼玉				
中村政志	S59/3	ガーナ	② 視聴覚機器	3
高石一朗	S60/2	ケニア	② 自動車整備	39
里見洋司	S60/3	タイ	① 家畜飼育	7
江川恵子	S61/1	ペルー	③ 体育	22
木島祐子	S61/1	スリ・ランカ	① 野菜	13

索引順位は隊次、氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	隊次	国名	ファイル・職種	頁
佐藤　裕	S61/2	ニジェール	② 自動車整備	59
廣西秀俊	S62/1	マレイシア	① 病虫害	1
森泉智子	S62/1	タイ	② 陶磁器	3
関根信一	S62/1	マラウイ	② 測量	15
松原　渉	S62/2	シリア	③ バレーボール	5
清水　裕	S62/2	ホンデュラス	① 花き	1
内野直也	S62/2	ケニア	② 自動車整備	41
坂本佳三	S62/3	マレイシア	② 電子機器	4
戸田誠人	S62/3	ソロモン諸島	① 漁具漁法	17
阿部幸広	S62/3	モロッコ	② 自動車整備	24
杉田邦子	S63/1	シリア	③ 体育	11
田島義明	S63/3	マレイシア	② 電気工事	3
斉藤みゆき	H元/1	タイ	③ 婦人子供服	3
長峰　敦	H元/2	マラウイ	② 自動車整備	56
新岡隆二	H元/2	ガーナ	① 村落開発普及員	4
佐藤　薫	H元/3	マレイシア	③ 視聴覚教育	3
出井　務	H3/2	パプア・ニューギニア	① 農業機械	10
江連ひろみ	H3/3	バングラデシュ	③ 臨床検査技師	1
■千葉				
石塚治男	S58/3	ボリヴィア	① 養殖	18
石塚治男	S58/3	ボリヴィア	① 養殖	20
倉田九豪	S61/2	スリ・ランカ	① 漁具漁法	1
倉田九豪	S61/2	スリ・ランカ	① 漁具漁法	3
大高明夫	S61/2	エティオピア	② 測量	11
青西靖夫	S62/2	ホンデュラス	① 村落開発普及員	8
平林輝美	S62/2	ニジェール	① 獣医師	9
石井昌樹	S62/2	ホンデュラス	① 農業土木	13
野口信雄	S62/3	パプア・ニューギニア	② 船舶機関	3
花村豪夫	S62/3	モロッコ	② 自動車整備	26
宮内和代	S63/1	インドネシア	③ 看護婦	7
米井尚道	S63/1	パラグァイ	① 花き	5
林　正巳	S63/2	西サモア	② 自動車整備	102
木伏克実	S63/2	ホンデュラス	① 村落開発普及員	9
菊池香皮	H元/1	セネガル	① 家畜飼育	17
鈴木隆裕	H元/1	バングラデシュ	② 土木施工	1
岩館光重	H元/2	マレイシア	③ 手工芸	1
石田光洋	H元/3	コロンビア	① 水産物加工	1
川口　茂	H2/2	ホンデュラス	③ 潜水指導	1
飯沼光生	H2/3	マレイシア	① 養殖	1
児玉郁子	H3/3	エクアドル	③ 映像	1
■東京				
堀　恵一	S58/2	スリ・ランカ	② 視聴覚機器	1
鈴木良明	S59/1	ザンビア	② 冷凍機器	6
小杉　誠	S59/2	ネパール	③ 体育	3
大淵喜隆	S59/2	ホンデュラス	① 食品加工	1
阿部倫久	S60/1	シリア	① 養殖	8
中川典之	S60/1	コスタ・リカ	② 視聴覚機器	4
二瓶浩彰	S60/1	ネパール	② 測量	1
富岡丈朗	S60/1	コスタ・リカ	① 農業機械	9
牧野真理	S60/3	マラウイ	① 家畜飼育	13
広瀬　泉	S61/1	コスタ・リカ	① 野菜	29
石井優一	S61/1	ソロモン諸島	① 漁具漁法	12
栗山里和	S61/1	スリ・ランカ	③ 家政	5
鈴木一代	S61/1	ボリヴィア	② 電子機器	21
坂井勇夫	S61/2	マラウイ	① 森林経営	2
澤野新一郎	S61/2	マラウイ	③ 写真	5
徳登志夫	S61/2	モロッコ	③ バレーボール	3
三木　誠	S61/3	ガーナ	① 野菜	17
森谷　均	S61/3	タンザニア	② 自動車整備	71
板橋悦子	S62/1	ボリヴィア	③ 助産婦	1
門口義明	S62/2	モロッコ	② 建築	1
宮本純子	S62/2	マレイシア	③ 幼稚園教諭	1
空尾雪絵	S62/2	フィジー	② 都市計画	3
下駄逸次	S62/2	バングラデシュ	② 電気工事	1
鈴木良直	S62/2	モロッコ	② 建築	3
田中修二	S62/2	マレイシア	① 稲作	6
山田龍彦	S62/2	モロッコ	② 電気機器	3
神倉　潤	S62/2	エティオピア	② 自動車整備	29
菊池威臣	S62/3	ホンデュラス	③ 体育	15
末満広志	S62/3	マレイシア	② 電子機器	3
東　誠	S63/3	フィジー	② 航海術	7
石渡　仁	H元-1/16派遣	リベリア/ジンバブエ	② 自動車整備	53
蔵下順子	H元/1	ホンデュラス	③ 家政	7
内田早苗	H元/1	ホンデュラス	③ 家政	9
石田真弓	H元/2	ペルー	③ 婦人子供服	14
篠原比呂志	H元/2	ホンデュラス	② 電子機器	28
埋橋建吾	H元/2	ホンデュラス	② 冷凍機器	10
浅井俊一	H元/3	ドミニカ共和国	② 冷凍機器	8
星野照美	H元/3	スリ・ランカ	③ 体育	7
小林美幸	H元/3	マレイシア	③ 保母	1
九鬼宏美	H元/3	ネパール	③ 臨床検査技師	4
塚本利夫	H元/3	コスタ・リカ	② 自動車整備	79
吉川京樹	H元/3	フィジー	② 自動車整備	94
杉山俊士	H2/1	ソロモン諸島	① 漁具漁法	19
橋本能子	H2/2	マラウイ	① 獣医師	5
新田美砂人	H2/2	フィリピン	① 養殖	5
菊地搬吉	H3/1	ホンデュラス	① 野菜	41
幸田皇王	H3/1	タイ	② 自動車整備	22
福川　治	H3/2	ガーナ	② 工作機械	5
草地千里	H3/2	マラウイ	① 果樹	4
松崎一明	H3/2	モロッコ	② 建築	5
酒井陽子	H3/3	フィリピン	③ 看護婦	14
渡辺雄一郎	H3/3	スリ・ランカ	② 自動車整備	16
■神奈川				
飯塚洋子	S58/3	スリ・ランカ	① 野菜	9
徳永辰巳	S60/1	タンザニア	③ 在庫管理	2
中條信介	S60/2	コスタ・リカ	① 家畜飼育	19
小倉浩一	S60/2	ネパール	① 野菜	8
森丘貴宏	S60/3	ケニア	① 漁具漁法	6
神尾誠司	S61/2	シリア	① 養殖	10
桑原宏仁	S61/3	マラウイ	② 冷凍機器	2
桑原宏仁	S61/3	マラウイ	② 冷凍機器	4
大沢幸生	S61/3	タンザニア	① 森林経営	4
堤　朝弘	S61/3	タイ	① 農業土木	4
米倉美子	S61/3	コスタ・リカ	③ 水泳	1
近藤文彦	S62/2	ニジェール	② 自動車整備	61
工藤雅明	S62/2	マラウイ	② 電子工学	8
高橋和久	S62/2	ソロモン諸島	① 漁具漁法	15
北山恭子	S62/2	ボリヴィア	③ 手工芸	6
川田晃弘	S62/3	ネパール	① 養殖	3
中出理恵子	S62/3	ガーナ	③ 婦人子供服	7
中野友由枝	S62/3	トンガ	③ 臨床検査技師	22
安斎俊哉	S63/1	インドネシア	③ 柔道	1
大野　勉	S63/2	スリ・ランカ	② 電子工学	5
金田克己	H元/1	マレイシア	① きのこ	1
梅澤みき	H元/1	マレイシア	① 農産物加工	1
小林祐司	H元/2	タイ	② 自動車整備	20

◆出身都道府県別索引

索引順位は隊次、氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	隊次	国名	ファイル・職種	頁
松井幾子	H元/2	マラウイ	③ 栄養士	10
藤井克巳	H元/3	モロッコ	② 土木施工	5
伊藤敏彦	H元/3	ホンデュラス	② 自動車整備	84
酒井強志	H元/3	バングラデシュ	① 村落開発普及員	1
栗原優子	H2/1	マレイシア	① 農産物加工	2
飯塚洋子	H2/3	ブータン	① 野菜	11
大木智之	H3/2	グァテマラ	① 養蜂	1
阿久津基弘	H3/3	マラウイ	① 養鶏	5
小泉雅弘	H3/3	ボリヴィア	① 野菜	25
増山光次郎	H3/3	バングラデシュ	② 自動車整備	1
松川智典	H4/1	パプア・ニューギニア	② 自動車整備	100
■新潟				
金子純久	S56/2	ガーナ	① 農業機械	5
阿部吉夫	S59/1	ザンビア	① 野菜	24
井口昭夫	S60/2	パラグァイ	③ 体育	20
藤間正志	S62/1	ニジェール	③ 柔道	15
星　洋介	S62/2	ガーナ	① 野菜	18
田井勇次	S62/2	タンザニア	① 農業土木	11
富樫　正	S62/2	リベリア	② 自動車整備	51
武藤直登	H元/3	フィジー	② 土木施工	23
近藤康雄	H4/3	インドネシア	② 工作機械	1
■富山				
柳原　整	S62/2	ソロモン諸島	② 土木施工	26
清水多門	S62/3	中華人民共和国	② 精密機器	1
安藤ゆう子	S63/3	ケニア	③ 婦人子供服	8
南林　正	H元/1	中華人民共和国	② 精密機器	3
石村久美代	H3/1	グァテマラ	③ 婦人子供服	12
■石川				
池田　武	S62/2	ボリヴィア	② 電気機器	11
本谷美智代	H2/1	ザンビア	① 獣医師	19
櫻井宜彦	H2/1	インドネシア	③ 化学	1
■福井				
吉水直保	H元/1	グァテマラ	③ バレーボール	7
八木宏文	H2/3	モロッコ	② 電気工事	4
伊藤美智子	H3/3	エクアドル	③ 栄養士	21
宇野哲夫	H5/1	インドネシア	③ 鍼灸マッサージ師	1
■山梨				
三枝正彦	S61/2	パラグァイ	① 獣医師	25
平岩　正	S63/3	ホンデュラス	② 電子機器	27
橋田　博	H元/1	エティオピア	① 果樹	3
佐藤勝正	H元/1	ホンデュラス	① 農業土木	14
浅川敏三	H3/3	ケニア	② 自動車整備	47
■長野				
安藤祥二	S58/4	フィリピン	② 自動車整備	15
小笠原一博	S59/3	バングラデシュ	① 農業機械	1
下形敏彦	S60/1	スリ・ランカ	③ バレーボール	1
木村正弘	S61/2	パラグァイ	② 無線通信機	7
宮川幸二	S62/1	シリア	① 獣医師	1
宮澤敏幸	S62/1	パプア・ニューギニア	② 自動車整備	96
林かおり	S63/3	グァテマラ	① 野菜	34
山寺　彰	H2/1	ザンビア	② 測量	18
東井克己	H3/1	コスタ・リカ	② 電子工学	11
■岐阜				
秋庭守正	S53/2後	フィリピン	② 自動車整備	13
鈴木篤志	S61/2	スリ・ランカ	① 家畜飼育	4
上野三枝子	S62/1	スリ・ランカ	① 家畜飼育	5
岩井貴人	H2/2	モロッコ	③ 柔道	7
牛丸善博	H5/1	ラオス	① 稲作	3
■静岡				
丸尾　朗	S55/2	パプア・ニューギニア	① 養鶏	6
江塚利幸	S57/3	ペルー	① 農業土木	16
片山正巳	S58/2	ネパール	① 農業土木	2
高橋信吾	S60/1	ガーナ	① 漁具漁法	4
横山和正	S61/3	マレイシア	① 野菜	3
伏見勝利	S62/1	コスタ・リカ	③ 柔道	18
池ヶ谷洋美	S62/2	ホンデュラス	③ 家政	5
石間　宗	S62/2	トンガ	① 野菜	50
森田　功	S62/2	シリア	② 測量	9
相馬多一郎	S62/2	コロンビア	① 村落開発普及員	5
井上博司	S62/3	モロッコ	③ 写真	1
井上博司	S62/3	モロッコ	③ 写真	3
伊藤　毅	S62/3	ケニア	① 養殖	11
牧田安史	S62/3	ルワンダ	② 電子機器	18
小田康子	S62/3	ネパール	③ 視聴覚教育	3
徳山皓一	S62/3	チュニジア	② 電子機器	11
渡辺晃徳	S63/1	パプア・ニューギニア	① 野菜	45
秋山正治	S63/2	コスタ・リカ	② 電子工学	9
渡辺　進	S63/2	フィジー	② 浄水場機械	8
木下秀俊	H元/1	ザンビア	① 獣医師	17
小田康子	S62/3	ネパール	③ 視聴覚教育	5
小田康子	S62/3	ネパール	③ 視聴覚教育	7
大石常夫	H元/3	モロッコ	② 自動車整備	28
高須好子	H元/3	グァテマラ	③ 婦人子供服	10
高橋知見	H3/1	ガーナ	① 稲作	10
飛岡島巳	H3/2	ソロモン諸島	③ 経済	1
伊藤嘉章	H3/2	マーシャル諸島	② 土木施工	28
不破　央	H5/1	グァテマラ	③ 水泳	6
■愛知				
長坂雅文	S56/3	トンガ	② 船舶機関	5
兵藤吉之	S60/2	西サモア	① 野菜	51
浜田守彦	S61/1	ホンデュラス	① 野菜	38
岩瀬哲也	S61/2	バングラデシュ	③ 図学	1
野々部誠	S61/2	スリ・ランカ	① 森林経営	1
金田英子	S62/1	ネパール	③ 体育	5
井戸正治	S62/2	ケニア	② 建築	6
倉田久恵	S62/2	ガーナ	③ 婦人子供服	5
間瀬朝夫	S62/2	コスタ・リカ	① 野菜	31
鈴木賢一	S62/2	ホンデュラス	③ 体育	13
間瀬　満	S62/3	ホンデュラス	① 果樹	7
玉腰良人	S62/3	パプア・ニューギニア	③ 柔道	21
中村光之	S63/1	ケニア	② 自動車整備	43
遠藤　久	S63/3	タイ	① 養蚕	1
古川美保	H元/1	中華人民共和国	③ 婦人子供服	1
藤好紀男	H元/2	フィリピン	② 電子工学	4
尾関　修	H元/2	マラウイ	① 農業土木	9
小島英隆	H元/3	フィジー	① 稲作	14
久保田淳	H元/3	マレイシア	① 野菜	6
足立保彦	H元/3	ガーナ	② 通信電力	1
近藤喜代美	H2/2	ホンデュラス	① 花き	4

索引順位は隊次、氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	隊次	国名	ファイル・職種	頁
奥山剛志	H2/2	ニジェール	② 溶接	1
宇佐見由加	H2/2	スーダン	③ 臨床検査技師	8
松原庄平	H2/2	パプア・ニューギニア	② 自動車整備	98
安藤聖一	H2/3	ホンデュラス	② 自動車整備	86
山本清太	H3/1	ガーナ	② 建築施工	1
中村健一	H3/2	ガーナ	② 電話線路	3
村井洋介	H4/1	ジンバブエ	③ 野球	1
■三重				
南川拓作	S60/1	タンザニア	② 陶磁器	6
菊山順子	S62/2	パラグァイ	③ 家政	13
清水信之	S62/3	タンザニア	② 電気工事	6
安田　潔	S63/3	中華人民共和国	② 自動車整備	3
安田　潔	S63/3	中華人民共和国	② 自動車整備	5
小林優子	H元/3	スリ・ランカ	③ 家政	3
堀江克之	H2/3	ケニア	① 養殖	13
水本洋子	H3/2	ボリヴィア	③ 栄養士	17
水本洋子	H3/2	ボリヴィア	③ 栄養士	19
■滋賀				
中野晴彦	H元/1	タイ	① 農業機械	4
石黒正彦	H元/3	モロッコ	② 土木施工	6
梅本喜久江	H元/3	バングラデシュ	③ 看護婦	5
■京都				
塩見慎次郎	S61/1	エティオピア	① 野菜	16
近藤浩美	S62/2	タンザニア	② 陶磁器	7
本山　彰	S62/2	マラウイ	① 家畜飼育	15
梅村哲夫	S62/3	フィジー	① 水産統計	1
川口栄一	S63/1	ガーナ	③ 理科教師	1
大西眞由美	H2/1	パラグァイ	③ 保健婦	1
内藤盛行	H3/1	ラオス	② 自動車整備	9
■大阪				
鈴木　稔	S57/2	セネガル	① 養殖	15
角川　修	S59/1	フィリピン	① 農業機械	3
井上菅次郎	S59/3	ケニア	② 電気機器	8
村田秀行	S62/1	エティオピア	① 稲作	9
相木　実	S62/2	西サモア	② 土木施工	24
小野健次	S62/2	パプア・ニューギニア	③ 合気道	3
澤志泰正	S62/2	ボリヴィア	① 養殖	22
澤志泰正	S62/2	ボリヴィア	① 養殖	24
藤川宗一	S62/3	ニジェール	② 電気機器	9
村上　健	S62/3	パラグァイ	① 野菜	43
伊藤淳雄	S63/2	パプア・ニューギニア	① 漁具漁法	10
村上悦子	S63/3	トンガ	③ 家政	17
原口　忠	H元/1	ジョルダン	② 無線通信機	2
笠井義晃	H元/1	グァテマラ	③ 野球	3
林由美子	H元/1	ジャマイカ	③ 臨床検査技師	21
石川みどり	H元/1	ペルー	③ 栄養士	27
大澤健司	H元/1	パラグァイ	① 獣医師	30
安　洋巳	H元/1	タンザニア	① 森林経営	6
橋本康子	H元/2	ニジェール	① 土壌肥料	3
武岡鳴人	H元/2	パラグァイ	① 果樹	8
浜田康浩	H元/3	スリ・ランカ	② 電話交換機	2
永野重雄	H元/3	タイ	② 電子機器	9
西　智弘	H元/3	グァテマラ	③ ソフトボール	1
野田　浩	H元/3	スリ・ランカ	② 電話交換機	1
碓元賢志	H2/1	ミクロネシア	② 土木設計	6
吉川敬子	H2/1	ホンデュラス	③ 栄養士	23
今井信之	H2/2	コスタ・リカ	③ 視聴覚教育	9
櫻本尚文	H2/2	ザンビア	② 自動車整備	77
岡本淳一	H2/2	ザンビア	② 電子機器	19
山川　愛	H2/2	タンザニア	③ 臨床検査技師	18
米田直史	H2/2	ネパール	② 自動車整備	11
樋口　充	H3/1	マラウイ	① 獣医師	7
姫野唯一	H3/1	マーシャル諸島	② 船外機	1
後藤篤彦	H3/3	インドネシア	③ 視聴覚教育	1
小坂重樹	H3/3	グァテマラ	① 野菜	35
越智資行	H3/3	フィリピン	② 電気機器	1
水谷哲男	H2·2H3振替	ペルー/ニカラグァ	② 視聴覚機器	5
渡谷重夫	H5/2	インドネシア	③ 水質検査	1
渡辺秀和	H5/2	中華人民共和国	② 自動車整備	7
■兵庫				
萩原　博	S57/2	ザンビア	① 獣医師	11
大道雅之	S60/1	ホンデュラス	① 野菜	37
松嶋恵介	S61/1	ペルー	① 獣医師	34
石原登美子	S61/3	ザンビア	① 獣医師	15
藤井淑子	S62/1	ボリヴィア	① 獣医師	20
岡嶋正和	S62/1	ニジェール	③ 空手	2
山田英晶	S62/2	エティオピア	② 自動車整備	31
西川忠明	S62/3	マラウイ	② 建築	8
織田婦子	S63/2	マラウイ	③ 秘書	1
辻本直樹	S63/3	フィリピン	③ 臨床検査技師	6
林　千郷	H元/1	グァテマラ	③ 水泳	4
若狭高秀	H元/1	ペルー	② 建築	10
小坂郁夫	H元/3	ソロモン諸島	③ 合気道	5
関谷武司	H元/2	ホンデュラス	③ 体育	19
安藤幸子	H元/3	ホンデュラス	③ 家政	10
西谷義徳	H元/3	スリ・ランカ	① 家畜飼育	6
土橋　傑	H3/2	ケニア	② 土木施工	9
三浦　悟	H3/3	ラオス	① 稲作	1
■奈良				
吉田和弘	S61/2	マラウイ	③ 臨床検査技師	12
山崎裕司	H2/2	タイ	② 船舶機関	1
馬屋原一孝	H3/1	マラウイ	① 農林統計	1
■和歌山				
池ノ本利治	S62/2	ケニア	② 電子機器	14
吐崎　修	S63/2	ルワンダ	③ 臨床検査技師	16
岡本　一	H元/3	ドミニカ共和国	① 養殖	29
■鳥取				
森川伸昭	S63/1	ケニア	① 家畜飼育	12
川上真哉	H5/1	エクアドル	② 電子機器	24
■岡山				
塩飽康利	S61/2	エティオピア	① 農業土木	6
守屋里美	S62/2	ジョルダン	③ 体育	9
妹尾善則	S62/2	ニジェール	② 自動車整備	63
空中修三	S63/2	バングラデシュ	② 航海術	1
杉村裕子	H元/2	ペルー	③ 栄養士	29
■広島				
金子　晃	S59/2	ネパール	③ 柔道	3
大田　忍	S60/1	マラウイ	② 自動車整備	55
行平英基	S60/2	コスタ・リカ	① 養殖	27
岩男婦司	S62/2	ソロモン諸島	② 船舶機関	9

◆出身都道府県別索引

索引順位は隊次、氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	隊次	国名	ファイル・職種	頁
岩男靖司	S62/2	ソロモン諸島	② 船舶機関	11
久保田早苗	S62/2	マラウイ	① 獣医師	3
山本竜正	S62/2	ケニア	③ 柔道	9
山本竜正	S62/2	ケニア	③ 柔道	11
山本竜正	S62/2	ケニア	③ 柔道	13
折口文宏	H元/1	グァテマラ	③ 陸上競技	1
國頭伸子	H元/1	ドミニカ共和国	③ 作業療法士	4
鶴田博信	H元/3	パプア・ニューギニア	① 野菜	49
八幡　聡	H元/3	タイ	② 電子計算機	4
山畑孝志	H3/3	エクアドル	③ 視聴覚教育	11
■島根				
持田智男	S57/1	パプア・ニューギニア	③ 合気道	2
■山口				
小路克雄	S57/2	フィリピン	① 家畜飼育	2
沖原健嗣	H元/1	パプア・ニューギニア	③ 合気道	1
田村正弘	H2/2	エティオピア	② 電気機器	7
金子修一	H3/1	グァテマラ	① 植林	1
■徳島				
大黒弘樹	S62/3	ガーナ	② 電子機器	12
■香川				
秋山　豊	H元/1	グァテマラ	① 精密機器	5
■愛媛				
井川龍二郎	S60/2	パプア・ニューギニア	① 養殖	30
伊崎弘志	H元/1	ホンデュラス	① 野菜	40
石崎程之	H2/1	ソロモン諸島	① 村落開発普及員	10
岡本泉美	H3/2	インドネシア	③ 看護婦	11
■高知				
藤原俊次	S62/1	マレイシア	① 野菜	4
岡村康夫	S62/2	ホンデュラス	② 電子機器	26
森井美香	H2/2	ホンデュラス	③ 視聴覚教育	12
宗石喜美	H3/2	パナマ	③ 栄養士	25
■福岡				
児玉幸人	S62/1	ガーナ	② 土木施工	7
盛重浩一	S62/1	パラグァイ	③ 陸上競技	3
百田龍治	S62/2	ボリヴィア	① 農産物加工	4
本田恵子	S62/3	ガーナ	③ 臨床検査技師	10
藤本武司	S63/3	ブータン	③ 在庫管理	1
眞木裕子	H元/2	ザンビア	③ 栄養士	15
小川正尋	H元/2H3/1	エティオピア/ザンビア	② 自動車整備	33
高橋裕文	H元/2	タイ	① 土壌肥料	2
井星哲也	H元/3	パラグァイ	① 獣医師	32
中島義和	H元/3	スリ・ランカ	② 冷凍機器	1
古海智子	H2/1	ネパール	③ 栄養士	8
渕上哲也	H2/2	ニジェール	② 自動車整備	69
関　加代子	H3/1	ガーナ	③ 手工芸	4
永末九州男	H3/2	タンザニア	② 自動車整備	76
辻　敏彦	H3/2	バングラデシュ	③ サッカー	1
泊津義代	H3/3	ラオス	③ 看護婦	12
■佐賀				
中村清郎	S61/3	モロッコ	② 測量	5
真子潤也	S63/1	モロッコ	② 陶磁器	5
植松信吉	H元/1	ホンデュラス	② 電話交換機	3
今村　浩	H元/2	マラウイ	② 土木施工	11
星野房子	H元/3	中華人民共和国	③ 美容師	1
■長崎				
大野和徳	S60/3	ケニア	① 園芸作物	1
武辺寛則	S61/2	ガーナ	① 村落開発普及員	2
北原仁美	S62/3	ケニア	② 電子機器	16
永尾丈二	S62/3	リベリア	② 建築製図	1
横山直人	S63/1	ニジェール	② 自動車整備	65
八坂由美	H2/2	ミクロネシア	③ 放送	1
北村仁志	H3/1	ケニア	② 自動車整備	45
■熊本				
遠山　満	S60/1	ホンデュラス	② 電子機器	25
原口敏明	S60/2	マラウイ	① 養鶏	1
福永理和	S62/1	マレイシア	③ 体育	1
中村博典	S62/1	ホンデュラス	② 自動車整備	82
太田恵美	S63/2	ニジェール	① 野菜	23
元位嘉秀	H元/2	マラウイ	② 無線通信機	4
坂田重登	H元/3	ホンデュラス	① 漁具漁法	8
曽　光博	H2/3	ボリヴィア	① 獣医師	23
野添雄二	H3/1	マレイシア	③ 作業療法士	1
■大分				
徳丸岡志	S62/2	マラウイ	② 測量	13
大田知久	S62/2	ガーナ	② 自動車整備	35
西森智光	H3/2	エクアドル	② 電子機器	22
■宮崎				
佐藤久明	S62/3	タイ	① 家畜飼育	9
執印拓輔	S63/1	コスタ・リカ	① 野菜	32
池水佐千子	H3/1	コスタ・リカ	③ 手工芸	8
木下健二	H3/2	グァテマラ	② 土木施工	19
■鹿児島				
北野日士	S46/3	エル・サルヴァドル	③ 水泳	2
若林敏弘	S60/3	ガーナ	② 建設機械	1
村橋美代子	S61/1	スリ・ランカ	① 野菜	14
吉岡　剛	S61/1	マラウイ	① 養鶏	3
吉岡　剛	S61/1	マラウイ	① 養鶏	4
満留典理	S62/1	ニジェール	② 建設機械	3
有薗正文	S62/2	コスタ・リカ	② 電子工学	10
福永郁夫	S62/2	ガーナ	① 農業機械	8
宮路徳男	S62/2	ガーナ	② 工作機械	3
小野原孝	S62/2	タイ	② 陶磁器	1
川畑さつき	S63/1	ソロモン諸島	③ 臨床検査技師	23
川畑春彦	H元/3	ホンデュラス	③ 柔道	20
南　雄三	H元/3	マラウイ	① 野菜	21
殷部衛彦	H2/2	ザンビア	② 無線通信機	5
山村正勝	H2/2	インドネシア	② 電話線路	1
■沖縄				
比嘉勇雄	S62/3	マレイシア	① 土壌肥料	1
久保政幸	H元/1	タンザニア	② 自動車整備	75

索引順位は氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	ABC	国名	ファイル・職種	頁
■A				
阿部喜至夫	ABE・K	中華人民共和国	① 果樹	1
阿部倫久	ABE・M	シリア	① 養殖	8
阿部吉夫	ABE・Y	ザンビア	① 野菜	24
阿部幸広	ABE・Y	モロッコ	② 自動車整備	24
足立保彦	ADACHI・Y	ガーナ	② 通信電力	1
相木　実	AIKI・M	西サモア	② 土木施工	24
安食愛彦	AJIKI・Y	ボリヴィア	③ 臨床検査技師	19
秋庭守正	AKIBA・M	フィリピン	② 自動車整備	13
秋山正治	AKIYAMA・M	コスタ・リカ	② 電子工学	9
秋山　亘	AKIYAMA・T	グァテマラ	② 精密機器	5
阿久津基弘	AKUTSU・M	マラウイ	① 養鶏	5
編田照茂	AMIDA・T	ネパール	② 都市計画	1
安藤幸子	ANDO・S	ホンデュラス	③ 家政	10
安藤聖一	ANDO・S	ホンデュラス	② 自動車整備	86
安藤祥二	ANDO・S	フィリピン	② 自動車整備	15
安藤ゆう子	ANDO・Y	ケニア	③ 婦人子供服	8
安斎俊哉	ANZAI・T	インドネシア	③ 柔道	1
青西靖夫	AONISHI・Y	ホンデュラス	① 村落開発普及員	8
青山芳貴	AOYAMA・Y	タンザニア	② 土木施工	15
有薗正文	ARIZONO・M	コスタ・リカ	② 電子工学	10
浅井俊一	ASAI・T	ドミニカ共和国	② 冷凍機器	8
浅川敏三	ASAKAWA・K	ケニア	② 自動車整備	47
粟野久夫	AWANO・H	ホンデュラス	① 村落開発普及員	6
東　誠	AZUMA・M	フィジー	② 航海術	7
東井克己	AZUMAI・K	コスタ・リカ	② 電子工学	11
■B				
番地亨勝	BANCHI・K	ホンデュラス	② 航海術	3
番地亨勝	BANCHI・K	ホンデュラス	② 航海術	5
■C				
千葉善康	CHIBA・Y	パプア・ニューギニア	① 家畜飼育	22
中條信介	CHUJO・S	コスタ・リカ	① 家畜飼育	19
■D				
大道寺徹	DAIDOJI・T	タンザニア	② 土木施工	17
出井　務	DEI・T	パプア・ニューギニア	① 農業機械	10
■E				
江川恵子	EGAWA・K	ペルー	③ 体育	22
遠藤　久	ENDO・H	タイ	① 養蚕	1
江塚利幸	EZUKA・T	ペルー	① 農業土木	16
江連ひろみ	EZURE・H	バングラデシュ	③ 臨床検査技師	1
■F				
渕上哲也	FUCHIGAMI・T	ニジェール	② 自動車整備	69
藤井克巳	FUJII・K	モロッコ	② 土木施工	5
藤井淑子	FUJII・Y	ボリヴィア	① 獣医師	20
藤川宗一	FUJIKAWA・S	ニジェール	② 電気機器	9
藤本武司	FUJIMOTO・T	ブータン	③ 在庫管理	1
藤田朝子	FUJITA・A	インドネシア	③ 看護婦	9
藤原俊次	FUJIWARA・T	マレイシア	① 野菜	4
藤好紀男	FUJIYOSHI・N	フィリピン	② 電子工学	4
深澤公史	FUKASAWA・H	リベリア	① 食用作物	1
福川　治	FUKUKAWA・O	ガーナ	② 工作機械	5
福永郁夫	FUKUNAGA・I	ガーナ	① 農業機械	8
福永理和	FUKUNAGA・M	マレイシア	③ 体育	1
古川美保	FURUKAWA・M	中華人民共和国	③ 婦人子供服	1
古海智子	FURUMI・T	ネパール	③ 栄養士	8
伏見勝利	FUSHIMI・K	コスタ・リカ	③ 柔道	18
不破　央	FUWA・H	グァテマラ	③ 水泳	6
■G				
後藤篤彦	GOTO・A	インドネシア	③ 視聴覚教育	1
■H				
萩原　博	HAGIHARA・H	ザンビア	① 獣医師	11
浜田守彦	HAMADA・M	ホンデュラス	① 野菜	38
浜田康浩	HAMADA・Y	スリ・ランカ	② 電話交換機	2
花井博之	HANAI・H	パラグァイ	① 獣医師	28
花村豪夫	HANAMURA・T	モロッコ	② 自動車整備	26
吐崎　修	HANZAKI・O	ルワンダ	③ 臨床検査技師	16
原口敏明	HARAGUCHI・T	マラウイ	① 養鶏	1
原口　忠	HARAGUCHI・T	ジョルダン	② 無線通信機	2
橋本能子	HASHIMOTO・T	マラウイ	① 獣医師	5
橋本康子	HASHIMOTO・Y	ニジェール	① 土壌肥料	3
服部衛彦	HATTORI・E	ザンビア	② 無線通信機	5
林　千郷	HAYASHI・C	グァテマラ	③ 水泳	4
林かおり	HAYASHI・K	グァテマラ	① 野菜	34
林　正巳	HAYASHI・M	西サモア	② 自動車整備	102
林由美子	HAYASHI・Y	ジャマイカ	③ 臨床検査技師	21
比嘉秀雄	HIGA・I	マレイシア	① 土壌肥料	1
樋口　充	HIGUCHI・M	マラウイ	① 獣医師	7
飛間昌巳	HIMA・M	ソロモン諸島	③ 経済	1
姫野唯一	HIMENO・T	マーシャル諸島	② 船外機	1
平林輝美	HIRABAYASHI・T	ニジェール	① 獣医師	9
平岩　正	HIRAIWA・T	ホンデュラス	② 電子機器	27
廣西秀俊	HIRONISHI・H	マレイシア	① 病虫害	1
広瀬　泉	HIROSE・I	コスタ・リカ	① 野菜	29
本田恵子	HONDA・K	ガーナ	③ 臨床検査技師	10
堀江克之	HORIE・K	ケニア	① 養殖	13
星　洋介	HOSHI・Y	ガーナ	① 野菜	18
星野房子	HOSHINO・F	中華人民共和国	③ 美容師	1
星野照美	HOSHINO・T	スリ・ランカ	③ 体育	7
星澤正浩	HOSHIZAWA・M	エティオピア	② 電気機器	6
兵藤吉之	HYOUDO・Y	西サモア	① 野菜	51
■I				
井星哲也	IBOSHI・T	パラグァイ	① 獣医師	32
井戸正治	IDO・M	ケニア	② 建築	6
井川　久	IGAWA・H	モロッコ	② 電子機器	10
井口昭夫	IGUCI・A	パラグァイ	③ 体育	20
井川龍二郎	IKAWA・R	パプア・ニューギニア	① 養殖	30
池田　武	IKEDA・T	ボリヴィア	② 電気機器	11
池ヶ谷洋美	IKEGAYA・H	ホンデュラス	③ 家政	5
池水佐千子	IKEMIZU・S	コスタ・リカ	③ 手工芸	8
池ノ本利治	IKENOMOTO・T	ケニア	② 電子機器	14
今井信之	IMAI・N	コスタ・リカ	③ 視聴覚教育	9
今村　浩	IMAMURA・H	マラウイ	② 土木施工	11
井上博司	INOUE・H	モロッコ	③ 写真	1
井上博司	INOUE・H	モロッコ	③ 写真	3
井上善次郎	INOUE・Z	ケニア	② 電気機器	8
飯沼光生	INUMA・M	マレイシア	① 養殖	1
入谷　隆	IRITANI・T	マラウイ	② 自動車整備	58
伊崎弘志	ISAKI・H	ホンデュラス	① 野菜	40
石田光洋	ISHIDA・M	コロンビア	① 水産物加工	1
石田真弓	ISHIDA・M	ペルー	③ 婦人子供服	14
石黒正彦	ISHIGURO・M	モロッコ	② 土木施工	6
石原登美子	ISHIHARA・T	ザンビア	① 獣医師	15

◆隊員氏名索引

索引順位は氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	ABC	国名	ファイル・職種		頁
石井昌樹	ISHI・M	ホンデュラス	①	農業土木	13
石井優一	ISHI・Y	ソロモン諸島	①	漁具漁法	12
石川みどり	ISHIKAWA・M	ペルー	③	栄養士	27
石間　宗	ISHIMA・H	トンガ	①	野菜	50
石村久美代	ISHIMURA・K	グァテマラ	③	婦人子供服	12
石岡　司	ISHIOKA・T	ボリヴィア	①	果樹	6
石綿浩一郎	ISHIWATA・K	ラオス	①	農業土木	1
石渡　仁	ISHIWATARI・H	リベリア／ジンバブエ	②	自動車整備	53
石谷早予子	ISHIYA・S	スリ・ランカ	③	手工芸	3
石崎程之	ISHIZAKI・N	ソロモン諸島	①	村落開発普及員	10
石塚治男	ISHIZUKA・H	ボリヴィア	①	養殖	18
石塚治男	ISHIZUKA・H	ボリヴィア	①	養殖	20
磯元賢志	ISOMOTO・K	ミクロネシア	②	土木設計	6
板橋悦子	ITABASHI・E	ボリヴィア	③	助産婦	1
板橋宏晩	ITABASHI・H	コロンビア	①	野菜	27
伊藤淳雄	ITO・A	パプア・ニューギニア	①	漁具漁法	10
伊東京子	ITO・K	パプア・ニューギニア	①	水産統計	3
伊藤正彦	ITO・M	ガーナ	①	野菜	20
伊藤美智子	ITO・M	エクアドル	③	栄養士	21
伊藤　毅	ITO・T	ケニア	①	養殖	11
伊藤敏彦	ITO・T	ホンデュラス	②	自動車整備	84
伊藤嘉章	ITO・Y	マーシャル諸島	②	土木施工	28
岩館光重	IWADATE・M	マレイシア	③	手工芸	1
岩井貴人	IWAI・T	モロッコ	③	柔道	7
岩見和久	IWAMI・K	マレイシア	②	無線通信機	1
岩男鋪司	IWAO・Y	ソロモン諸島	②	船舶機関	9
岩男鋪司	IWAO・Y	ソロモン諸島	②	船舶機関	11
岩瀬哲也	IWASE・T	バングラデシュ	③	図学	1
飯塚　昌	IZUKA・M	マレイシア	①	家畜飼育	1
飯塚洋子	IZUKA・Y	スリ・ランカ	①	野菜	9
飯塚洋子	IZUKA・Y	ブータン	①	野菜	11
■K					
門口義明	KADOGUCHI・Y	モロッコ	②	建築	1
梶　恵一	KAJI・K	スリ・ランカ	②	視聴覚機器	1
神倉　潤	KAMIKURA・J	エティオピア	②	自動車整備	29
神尾誠司	KAMIO・S	シリア	①	養殖	10
金田英子	KANEDA・H	ネパール	③	体育	5
金田克己	KANEDA・K	マレイシア	①	きのこ	1
金子　晃	KANEKO・A	ネパール	③	柔道	3
金子修一	KANEKO・S	グァテマラ	①	植林	1
金子純久	KANEKO・Y	ガーナ	①	農業機械	5
笠井義晃	KASAI・Y	グァテマラ	③	野球	3
樫本尚文	KASHIMOTO・N	ザンビア	②	自動車整備	77
片浦雅之	KATAURA・M	バングラデシュ	①	野菜	1
片山正巳	KATAYAMA・M	ネパール	①	農業土木	2
川畑春彦	KAWABATA・H	ホンデュラス	③	柔道	20
川畑さつき	KAWABATA・S	ソロモン諸島	③	臨床検査技師	23
川田晃弘	KAWADA・A	ネパール	①	養殖	3
川口栄一	KAWAGUCHI・E	ガーナ	③	理科教師	1
川口　茂	KAWAGUCHI・S	ホンデュラス	③	潜水指導	1
川上真哉	KAWAKAMI・S	エクアドル	②	電子機器	24
木立孝志	KIDACHI・T	ケニア	②	自動車整備	49
木伏克実	KIFUSHI・K	ホンデュラス	①	村落開発普及員	9
木島祐子	KIJIMA・Y	スリ・ランカ	①	野菜	13
菊地敦子	KIKICHI・A	中華人民共和国	③	栄養士	4
菊池香波	KIKUCHI・K	セネガル	①	家畜飼育	17
菊地徹吉	KIKUCHI・T	ホンデュラス	①	野菜	41
菊池威臣	KIKUCHI・T	ホンデュラス	③	体育	15
菊池泰雄	KIKUCHI・Y	ホンデュラス	③	体育	17
菊山順子	KIKUYAMA・J	パラグァイ	③	家政	13
木村正弘	KIMURA・M	パラグァイ	②	無線通信機	7
木下健二	KINOSHITA・K	グァテマラ	②	土木施工	19
木下秀俊	KINOSHITA・K	ザンビア	①	獣医師	17
岸田　茂	KISHIDA・S	ネパール	③	理数科教師	1
北原仁美	KITAHARA・H	ケニア	②	電子機器	16
北村仁志	KITAMURA・H	ケニア	②	自動車整備	45
北野日士	KITANO・A	エル・サルヴァドル	③	水泳	2
北山恭子	KITAYAMA・K	ボリヴィア	③	手工芸	6
橘田　博	KITSUTA・H	エティオピア	①	果樹	3
小林美幸	KOBAYASHI・M	マレイシア	③	保母	1
小林祐司	KOBAYASHI・Y	タイ	②	自動車整備	20
小林裕次	KOBAYASHI・Y	ニカラグア	③	野球	4
小林優子	KOBAYASHI・Y	スリ・ランカ	③	家政	3
幸田皇王	KODA・K	タイ	②	自動車整備	22
児玉郁子	KODAMA・I	エクアドル	③	映像	1
児玉泰人	KODAMA・Y	ガーナ	②	土木施工	7
小泉雅弘	KOIZUMI・M	ボリヴィア	①	野菜	25
小島英隆	KOJIMA・H	フィジー	①	稲作	14
小島正男	KOJIMA・M	エティオピア	①	農業土木	8
近藤文彦	KONDO・F	ニジェール	②	自動車整備	61
近藤浩美	KONDO・H	タンザニア	②	陶磁器	7
近藤喜代美	KONDO・K	ホンデュラス	①	花き	4
近藤康雄	KONDO・Y	インドネシア	②	工作機械	1
小西洋一	KONISHI・H	タイ	①	家畜飼育	11
小西憲治	KONISHI・K	ソロモン諸島	②	自動車整備	104
小坂郁夫	KOSAKA・I	ソロモン諸島	③	合気道	5
小坂重樹	KOSAKA・S	グァテマラ	①	野菜	35
小杉　誠	KOSUGI・M	ネパール	③	体育	3
久保政幸	KUBO・M	タンザニア	②	自動車整備	75
久保田淳	KUBOTA・J	マレイシア	①	野菜	6
久保田早苗	KUBOTA・S	マラウイ	①	獣医師	3
工藤雅明	KUDO・M	マラウイ	②	電子工学	8
久慈広信	KUJI・H	ソロモン諸島	②	船舶機関	13
九鬼宏美	KUKI・H	ネパール	③	臨床検査技師	4
國枝郁代	KUNIEDA・I	中華人民共和国	③	栄養士	1
國頭伸子	KUNITO・N	ドミニカ共和国	③	作業療法士	4
蔵下順子	KURASHIMO・S	ホンデュラス	③	家政	7
倉田久恵	KURATA・H	ガーナ	③	婦人子供服	5
倉田九豪	KURATA・K	スリ・ランカ	①	漁具漁法	1
倉田九豪	KURATA・K	スリ・ランカ	①	漁具漁法	3
栗原優子	KURIHARA・Y	マレイシア	①	農産物加工	2
栗山里和	KURIYAMA・R	スリ・ランカ	③	家政	1
草地千里	KUSACHI・C	マラウイ	①	果樹	4
楠　正宏	KUSUNOKI・M	モロッコ	②	電気機器	5
桑原宏仁	KUWAHARA・H	マラウイ	②	冷凍機器	2
桑原宏仁	KUWAHARA・H	マラウイ	②	冷凍機器	4
■M					
眞木裕子	MAKI・H	ザンビア	③	栄養士	15
牧野真理	MAKINO・M	マラウイ	①	家畜飼育	13
牧田安史	MAKITA・Y	ルワンダ	②	電子機器	18
真子潤也	MANAKO・J	モロッコ	②	陶磁器	5
丸橋奈津子	MARUHASHI・N	ホンデュラス	②	自動車整備	88
丸橋奈津子	MARUHASHI・N	ホンデュラス	②	自動車整備	90
丸橋奈津子	MARUHASHI・N	ホンデュラス	②	自動車整備	92
丸尾　朗	MARUO・A	パプア・ニューギニア	①	養鶏	6
間瀬朝夫	MASE・A	コスタ・リカ	①	野菜	31
間瀬　満	MASE・M	ホンデュラス	①	果樹	7
増山光次郎	MASUYAMA・K	バングラデシュ	②	自動車整備	1

索引順位は氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	ABC	国名	ファイル・職種		頁
松原庄平	MATSUBARA・S	パプア・ニューギニア	②	自動車整備	98
松原　渉	MATSUBARA・W	シリア	③	バレーボール	5
松井馥子	MATSUI・I	マラウイ	③	栄養士	10
松川智典	MATSUKAWA・T	パプア・ニューギニア	②	自動車整備	100
松嶋恵介	MATSUSHIMA・K	ペルー	①	獣医師	34
松崎一明	MATSUZAKI・K	モロッコ	②	建築	5
三木　誠	MIKI・M	ガーナ	①	野菜	17
南　雄三	MINAMI・Y	マラウイ	①	野菜	21
南林　正	MINAMIBAYASHI・T	中華人民共和国	②	精密機器	3
南川真理子	MINAMIKAWA・M	ブータン	③	臨床検査技師	2
南川拓作	MINAMIKAWA・Y	タンザニア	②	陶磁器	6
満留典理	MITSUDOME・N	ニジェール	②	建設機械	3
三浦　悟	MIURA・S	ラオス	①	稲作	1
宮川幸二	MIYAGAWA・K	シリア	①	獣医師	1
宮路徳男	MIYAJI・T	ガーナ	②	工作機械	3
宮本純子	MIYAMOTO・J	マレイシア	③	幼稚園教諭	1
宮内和代	MIYAUCHI・K	インドネシア	③	看護婦	7
宮澤敏幸	MIYAZAWA・T	パプア・ニューギニア	②	自動車整備	96
水本洋子	MIZUMOTO・Y	ボリヴィア	③	栄養士	17
水本洋子	MIZUMOTO・Y	ボリヴィア	③	栄養士	19
水谷哲男	MIZUTANI・T	ペルー/ニカラグァ	②	視聴覚機器	5
持田智男	MOCHIDA・T	パプア・ニューギニア	③	合気道	2
杢尾雪絵	MOKUO・Y	フィジー	②	都市計画	3
百田龍治	MOMOTA・R	ボリヴィア	①	農産物加工	4
盛　清司	MORI・K	バングラデシュ	②	土木施工	3
森井美香	MORII・M	ホンデュラス	③	視聴覚教育	12
森川伸昭	MORIKAWA・N	ケニア	①	家畜飼育	12
森丘貴宏	MORIOKA・T	ケニア	①	漁具漁法	6
盛重浩一	MORISHIGE・K	パラグァイ	③	陸上競技	3
森田　功	MORITA・I	シリア	②	測量	9
森田高広	MORITA・T	ケニア	②	電子機器	13
森谷　均	MORIYA・H	タンザニア	②	自動車整備	71
守屋里美	MORIYA・S	ジョルダン	③	体育	9
森泉智子	MORIZUMI・T	タイ	②	陶磁器	3
元位嘉秀	MOTOI・Y	マラウイ	②	無線通信機	4
本谷美智代	MOTOYA・M	ザンビア	①	獣医師	19
本山　彰	MOTOYAMA・A	マラウイ	②	家畜飼育	15
宗石喜美	MUNEISHI・K	パナマ	③	栄養士	25
村橋美代子	MURAHASHI・M	スリ・ランカ	①	野菜	14
村井洋介	MURAI・Y	ジンバブエ	③	野球	1
村上悦子	MURAKAMI・E	トンガ	③	家政	17
村上　健	MURAKAMI・T	パラグァイ	①	野菜	43
村田秀行	MURATA・H	エティオピア	①	稲作	9
村田　忠	MURATA・T	モロッコ	①	養殖	7
村山由孝	MURAYAMA・Y	ザンビア	②	土木設計	4
武藤直登	MUTO・N	フィジー	②	土木施工	23

■N

氏名	ABC	国名	ファイル・職種		頁
長峰　教	NAGAMINE・A	マラウイ	②	自動車整備	56
長縄弘美	NAGANAWA・H	西サモア	②	通信電力	2
永野重雄	NAGANO・S	タイ	②	電子機器	9
永尾丈二	NAGAO・J	リベリア	②	建築製図	1
長坂雅文	NAGASAKA・M	トンガ	②	船舶機関	5
永末九州男	NAGASUE・K	タンザニア	②	自動車整備	76
内藤盛行	NAITO・M	ラオス	②	自動車整備	9
中出理恵子	NAKADE・R	ガーナ	③	婦人子供服	7
中川典之	NAKAGAWA・N	コスタ・リカ	②	視聴覚機器	4
中畑　桂	NAKAHATA・K	グァテマラ	③	空手	3
中居満穂	NAKAI・M	中華人民共和国	②	土木設計	1
中島義和	NAKAJIMA・Y	スリ・ランカ	②	冷凍機器	1
中村光之	NAKAMURA・M	ケニア	②	自動車整備	43
中村博典	NAKAMURA・H	ホンデュラス	②	自動車整備	82
中村健一	NAKAMURA・K	ガーナ	②	電話線路	3
中村政志	NAKAMURA・M	ガーナ	②	視聴覚機器	3
中村信行	NAKAMURA・N	バングラデシュ	②	電子機器	1
中村清郎	NAKAMURA・S	モロッコ	②	測量	5
中西敏男	NAKANISHI・T	マレイシア	②	電子計算機	1
中野晴彦	NAKANO・H	タイ	①	農業機械	4
中野友由枝	NAKANO・T	トンガ	③	臨床検査技師	22
成田笑里子	NARITA・E	パラグァイ	③	家政	11
二瓶浩彰	NIHEI・H	ネパール	②	測量	1
新岡隆二	NIOKA・R	ガーナ	①	村落開発普及員	4
西　智弘	NISHI・T	グァテマラ	③	ソフトボール	1
西川忠明	NISHIKAWA・T	マラウイ	②	建築	8
西森智光	NISHIMORI・T	エクアドル	②	電子機器	22
西谷義徳	NISHITANI・Y	スリ・ランカ	①	家畜飼育	6
似鳥郁子	NITADORI・I	タンザニア	③	作業療法士	3
新田美砂人	NITTA・M	フィリピン	①	養殖	5
野田　浩	NODA・H	スリ・ランカ	②	電話交換機	1
野口信雄	NOGUCHI・N	パプア・ニューギニア	②	船舶機関	3
野々部誠	NONOBE・M	スリ・ランカ	①	森林経営	1
野呂幸雄	NORO・Y	スリ・ランカ	②	電子機器	6
野添雄二	NOZOE・Y	マレイシア	③	作業療法士	1

■O

氏名	ABC	国名	ファイル・職種		頁
越智資行	OCHI・M	フィリピン	②	電気機器	1
小田康子	ODA・Y	ネパール	③	視聴覚教育	5
小田康子	ODA・Y	ネパール	③	視聴覚教育	7
織田靖子	ODA・Y	マラウイ	③	秘書	1
小田島成良	ODASHIMA・N	マレイシア	①	稲作	5
大淵喜隆	OFUCHI・Y	ホンデュラス	①	食品加工	1
小笠原一博	OGASAWARA・K	バングラデシュ	①	農業機械	1
小川正尋	OGAWA・M	エティオピア/ザンビア	②	自動車整備	33
小川幸子	OGAWA・Y	トンガ	③	家政	15
小倉浩一	OGURA・K	ネパール	①	野菜	8
大黒弘樹	OGURO・H	ガーナ	②	電子機器	12
大石常夫	OISHI・T	モロッコ	②	自動車整備	28
岡嶋正和	OKAJIMA・M	ニジェール	③	空手	2
岡本泉美	OKAMOTO・I	インドネシア	③	看護婦	11
岡本淳一	OKAMOTO・J	ザンビア	②	電子機器	19
岡本　一	OKAMOTO・M	ドミニカ共和国	①	養殖	29
岡村康夫	OKAMURA・Y	ホンデュラス	②	電子機器	26
大木智之	OKI・T	グァテマラ	①	養蜂	1
冲原健嗣	OKIHARA・K	パプア・ニューギニア	③	合気道	1
奥山剛志	OKUYAMA・T	ニジェール	②	溶接	1
大道雅之	OMITI・M	ホンデュラス	①	野菜	37
大西眞由美	ONISHI・M	パラグァイ	③	保健婦	1
大野和徳	ONO・K	ケニア	①	園芸作物	1
小野健次	ONO・K	パプア・ニューギニア	③	合気道	3
大野　勉	ONO・T	スリ・ランカ	②	電子工学	5
小野原孝	ONOHARA・T	タイ	②	陶磁器	1
折口文宏	ORIGUCHI・F	グァテマラ	③	陸上競技	1
大澤健司	OSAWA・T	パラグァイ	①	獣医師	30
大沢幸生	OSAWA・Y	タンザニア	①	森林経営	4
大瀬貴生	OSE・T	タイ	②	自動車整備	18
太田恵美	OTA・M	ニジェール	①	野菜	23
大田　忍	OTA・S	マラウイ	②	自動車整備	55
大田知久	OTA・T	ガーナ	②	自動車整備	35
大高明夫	OTAKA・A	エティオピア	②	測量	11
大和田俊雄	OWADA・T	パプア・ニューギニア	①	野菜	48

◆隊員氏名索引

索引順位は氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	ABC	国名	ファイル・職種		頁
尾関　修	OZEKI・O	マラウイ	①	農業土木	9
■S					
三枝正彦	SAEGUSA・M	パラグァイ	①	獣医師	25
斎藤明弘	SAITO・A	トンガ	②	電気工事	11
斎藤秀昭	SAITO・H	ガーナ	②	自動車整備	37
斉藤みゆき	SAITO・M	タイ	③	婦人子供服	3
坂井勇夫	SAKAI・I	マラウイ	①	森林経営	2
酒井強志	SAKAI・T	バングラデシュ	①	村落開発普及員	1
境　貴志	SAKAI・T	ブータン	②	電子工学	1
酒井陽子	SAKAI・Y	フィリピン	③	看護婦	14
坂本佳三	SAKAMOTO・K	マレイシア	②	電子機器	4
坂田重登	SAKATA・S	ホンデュラス	①	漁具漁法	8
櫻井宜彦	SAKURAI・N	インドネシア	③	化学	1
笹川泰利	SASAGAWA・Y	ドミニカ共和国	③	体操競技	1
佐々木理世	SASAKI・M	ペルー/パナマ	①	稲作	12
佐々木透	SASAKI・T	スリ・ランカ	①	野菜	15
佐藤　裕	SATO・H	ニジェール	②	自動車整備	59
佐藤秀樹	SATO・H	マレイシア	①	稲作	8
佐藤久明	SATO・H	タイ	①	家畜飼育	9
佐藤寿一	SATO・J	ジョルダン	②	測量	3
佐藤勝正	SATO・K	ホンデュラス	①	農業土木	14
佐藤一也	SATO・K	ニジェール	③	柔道	17
佐藤　薫	SATO・K	マレイシア	③	視聴覚教育	3
里見洋司	SATOMI・Y	タイ	①	家畜飼育	7
澤野新一郎	SAWANO・S	マラウイ	③	写真	5
澤志泰正	SAWASHI・Y	ボリヴィア	①	養殖	22
澤志泰正	SAWASHI・Y	ボリヴィア	①	養殖	24
関　加代子	SEKI・K	ガーナ	③	手工芸	4
関根信一	SEKINE・S	マラウイ	②	測量	15
関谷武司	SEKIYA・T	ホンデュラス	③	体育	19
妹尾善則	SENO・Y	ニジェール	②	自動車整備	63
渋谷重夫	SHIBUYA・S	インドネシア	③	水質検査	1
島田みづき	SHIMADA・M	バングラデシュ	③	看護婦	1
嶋田鎮久	SHIMADA・Y	モロッコ	②	測量	7
清水信之	SHIMIZU・N	タンザニア	②	電気工事	6
清水多門	SHIMIZU・T	中華人民共和国	②	精密機器	1
清水　裕	SHIMIZU・Y	ホンデュラス	①	花き	1
下形敏彦	SHIMOGATA・T	スリ・ランカ	③	バレーボール	1
下久保綾子	SHIMOKUBO・A	コスタ・リカ	①	家畜飼育	20
下畦逸次	SHIMOUNE・I	バングラデシュ	②	電気工事	1
篠原比呂志	SHINOHARA・H	ホンデュラス	②	電子機器	28
塩見慎次郎	SHIOMI・S	エティオピア	①	野菜	16
白石　豊	SHIRAISHI・Y	セネガル	②	浄水場機械	1
塩飽康利	SHIWAKU・Y	エティオピア	①	農業土木	6
相馬多一郎	SOMA・T	コロンビア	①	村落開発普及員	5
空中修三	SORANAKA・S	バングラデシュ	②	航海術	1
末満広志	SUEMITSU・H	マレイシア	②	電子機器	3
須賀元泰	SUGA・M	タイ	②	電子機器	8
杉村裕子	SUGIMURA・H	ペルー	③	栄養士	29
杉田邦子	SUGITA・K	シリア	③	体育	11
杉山俊一	SUGIYAMA・T	ホンデュラス	②	電話線路	5
杉山俊士	SUGIYAMA・S	ソロモン諸島	①	漁具漁法	19
角川　修	SUMIKAWA・O	フィリピン	①	農業機械	3
鈴木悦雄	SUZUKI・I	マラウイ	②	電気工事	5
鈴木あや子	SUZUKI・A	ホンデュラス	①	花き	2
鈴木篤志	SUZUKI・A	スリ・ランカ	①	家畜飼育	4
鈴木一代	SUZUKI・K	ボリヴィア	②	電子機器	21
鈴木賢一	SUZUKI・K	ホンデュラス	③	体育	13
鈴木　稔	SUZUKI・M	セネガル	①	養殖	15
鈴木隆裕	SUZUKI・T	バングラデシュ	②	土木施工	1
鈴木良明	SUZUKI・Y	ザンビア	②	冷凍機器	6
鈴木良直	SUZUKI・Y	モロッコ	②	建築	3
小路克雄	SYOJI・K	フィリピン	①	家畜飼育	2
秋印祐輔	SYUIN・Y	コスタ・リカ	①	野菜	32
■T					
田井勇次	TAI・Y	タンザニア	①	農業土木	11
田島義明	TAJIMA・Y	マレイシア	②	電気工事	3
高橋裕文	TAKAHASHI・H	タイ	①	土壌肥料	2
高橋　久	TAKAHASHI・H	ネパール	③	自然エネルギー利用学	1
高橋宏彰	TAKAHASHI・H	ソロモン諸島	③	経済	3
高橋和久	TAKAHASHI・K	ソロモン諸島	①	漁具漁法	15
高橋一男	TAKAHASHI・K	フィリピン	③	柔道	5
高橋信吾	TAKAHASHI・S	ガーナ	①	漁具漁法	4
高橋知見	TAKAHASHI・T	ガーナ	①	稲作	10
橋本康子	TAKAHASHI・Y	ニジェール	①	土壌肥料	3
高石一朗	TAKAISHI・I	ケニア	②	自動車整備	39
高森敏郎	TAKAMORI・T	ドミニカ共和国	②	自動車整備	80
高須好子	TAKASU・Y	グァテマラ	③	婦人子供服	10
高谷春美	TAKAYA・H	マーシャル諸島	③	日本語教師	1
武辺寛則	TAKEBE・H	ガーナ	①	村落開発普及員	2
武岡鳴人	TAKEOKA・N	パラグァイ	②	果樹	8
玉腰良人	TAMAKOSHI・R	パプア・ニューギニア	③	柔道	21
田村正弘	TAMURA・M	エティオピア	②	電気機器	7
田中修二	TANAKA・S	マレイシア	①	稲作	6
多勢伸一	TASE・S	マレイシア	①	農業協同組合	1
戸田誠人	TODA・S	ソロモン諸島	①	漁具漁法	17
富樫　正	TOGASHI・M	リベリア	②	自動車整備	51
土岐昭彦	TOKI・A	ペルー	②	土木施工	21
徳登志夫	TOKU・T	モロッコ	③	バレーボール	3
徳丸周志	TOKUMARU・S	マラウイ	②	測量	13
徳永展巳	TOKUNAGA・T	タンザニア	③	在庫管理	2
徳山晴一	TOKUYAMA・K	チュニジア	②	電子機器	11
藤間正志	TOMA・M	ニジェール	③	柔道	15
泊津義代	TOMARI・T	ラオス	③	看護婦	12
富岡文朗	TOMIOKA・T	コスタ・リカ	①	農業機械	9
遠山　満	TOYAMA・M	ホンデュラス	②	電子機器	25
土橋　傑	TSUCHIHASHI・S	ケニア	②	土木施工	9
辻　敏彦	TSUJI・T	バングラデシュ	③	サッカー	1
辻林英高	TSUJIBAYASHI・H	トンガ	②	船舶機関	7
辻本直樹	TSUJIMOTO・N	フィリピン	③	臨床検査技師	6
塚本利夫	TSUKAMOTO・T	コスタ・リカ	②	自動車整備	79
常松信人	TSUNEMATSU・N	タンザニア	②	自動車整備	73
鶴　光博	TSURU・M	ボリヴィア	①	獣医師	23
鶴田博信	TSURUTA・H	パプア・ニューギニア	①	野菜	49
鶴沢秀之	TSUTAZAWA・H	ザンビア	①	獣医師	13
堤　朝弘	TSUTSUMI・T	タイ	①	農業土木	4
■U					
内田早苗	UCHIDA・S	ホンデュラス	③	家政	9
内野真也	UCHINO・N	ケニア	②	自動車整備	41
内山玲子	UCHIYAMA・R	ソロモン諸島	③	看護婦	16
植松信吉	UEMATSU・N	ホンデュラス	②	電話交換機	3
植村新一	UEMURA・S	タンザニア	②	土木施工	13
上野三枝子	UENO・M	スリ・ランカ	①	家畜飼育	5
上山則夫	UEYAMA・N	パラグァイ	①	農業協同組合	2
馬屋原一孝	UMAYAHARA・K	マラウイ	①	農林統計	1
梅本喜久江	UMEMOTO・K	バングラデシュ	③	看護婦	5
梅村哲夫	UMEMURA・T	フィジー	①	水産統計	1

索引順位は氏名(A、B、C～)順となっています。

氏名	ABC	国名	ファイル・職種	頁
梅澤みき	UMEZAWA・M	マレイシア	① 農産物加工	1
宇野哲夫	UNO・T	インドネシア	③ 鍼灸マッサージ師	1
宇佐見由加	USAMI・Y	スーダン	③ 臨床検査技師	8
牛丸義博	USHIMARU・Y	ラオス	① 稲作	3
堤橋建吾	UZUHASHI・K	ホンデュラス	② 冷凍機器	10
■W				
和田治夫	WADA・H	ケニア	② 電子工学	6
若林敏弘	WAKABAYASHI・T	ガーナ	② 建設機械	1
若狭高秀	WAKASA・T	ペルー	② 建築	10
渡辺晃徳	WATANABE・A	パプア・ニューギニア	① 野菜	45
渡辺秀和	WATANABE・H	中華人民共和国	② 自動車整備	7
渡辺　進	WATANABE・S	フィジー	② 浄水場機械	8
渡辺雄一郎	WATANABE・Y	スリ・ランカ	② 自動車整備	16
■Y				
八木宏文	YAGI・H	モロッコ	② 電気工事	4
矢口義光	YAGUCHI・Y	ニジェール	② 自動車整備	67
八幡　聡	YAHATA・T	タイ	② 電子計算機	4
薬師寺小百合	YAKUSHIJI・S	マラウイ	③ 臨床検査技師	14
山田英晶	YAMADA・H	エティオピア	② 自動車整備	31
山田英之	YAMADA・H	マラウイ	② 測量	16
山田龍彦	YAMADA・T	モロッコ	② 電気機器	3
山寺　彰	YAMADERA・A	ザンビア	② 測量	18
山畑孝志	YAMAHATA・T	エクアドル	③ 視聴覚教育	11
山川　愛	YAMAKAWA・M	タンザニア	③ 臨床検査技師	16
山本清太	YAMAMOTO・S	ガーナ	② 建築施工	1
山本竜正	YAMAMOTO・T	ケニア	③ 柔道	9
山本竜正	YAMAMOTO・T	ケニア	③ 柔道	11
山本竜正	YAMAMOTO・T	ケニア	③ 柔道	13
山村正勝	YAMAMURA・M	インドネシア	② 電話線路	1
山崎裕司	YAMAZAKI・H	タイ	② 船舶機関	1
柳原　整	YANAGIHARA・H	ソロモン諸島	② 土木施工	26
八坂由美	YASAKA・Y	ミクロネシア	③ 放送	1
安　洋巳	YASU・H	タンザニア	① 森林経営	6
安田　潔	YASUDA・K	中華人民共和国	② 自動車整備	3
安田　潔	YASUDA・K	中華人民共和国	② 自動車整備	5
吉田光男	YISHIDA・M	バングラデシュ	③ 空手	1
横山和正	YOKOYAMA・K	マレイシア	① 野菜	3
横山直人	YOKOYAMA・N	ニジェール	② 自動車整備	65
米田直史	YONEDA・N	ネパール	② 自動車整備	11
米井尚道	YONEI・N	パラグアイ	① 花き	5
米倉英子	YONEKURA・E	ニジェール	③ 栄養士	12
米倉美子	YONEKURA・Y	コスタ・リカ	③ 水泳	1
吉田和弘	YOSHIDA・K	マラウイ	③ 臨床検査技師	12
吉田　誠	YOSHIDA・M	ボリヴィア	② 電気工事	8
吉田　誠	YOSHIDA・M	ボリヴィア	② 電気工事	10
吉田光男	YOSHIDA・M	バングラデシュ	③ 空手	1
吉川京樹	YOSHIKAWA・K	フィジー	② 自動車整備	94
吉川敬子	YOSHIKAWA・K	ホンデュラス	③ 栄養士	23
吉水直保	YOSHIMIZU・N	グァテマラ	③ バレーボール	7
吉岡　剛	YOSHIOKA・T	マラウイ	① 養鶏	3
吉岡　剛	YOSHIOKA・T	マラウイ	① 養鶏	4
行平英基	YUKIHIRA・H	コスタ・リカ	① 養殖	27

本誌の編纂について

1　本誌におさめられた体験レポートは、昭和63年以降に技術専門誌（紙）等に掲載されたものを集めたものです。

2　原稿内容につきましては、ご本人の趣旨を尊重して、原則として最初に掲載された原文のまま編集しております。

3　下記にあげる項目につきましては本誌編集の際に修正させていただきました。

・常識的に誤りだと思われる表現

・個人名、地名等

4　原稿中の写真・イラストにつきましては、本誌編集の都合上、割愛させていただきました。

5　結婚等で氏名に変更があった隊員につきましては、青年海外協力隊に参加した当時の名前を記載しています。

青年海外協力隊　活動体験レポート集（1）

発行日　1999年3月15日

発行者　国際協力事業団 青年海外協力隊事務局

発行所　国際協力事業団
〒151-8558　東京都渋谷区代々木2―1―1　新宿マインズタワー6F
電話　03―5352―7261（代）